

# 小川八幡神社大般若経 調査概報

2019-2021



2022年3月

東京大学 史料編纂所 特定共同研究  
「小川八幡神社大般若経の文化資源化研究」  
(代表 山口英男)

# 小川八幡神社大般若経 調査概報

2019-2021



2022年3月

東京大学 史料編纂所 特定共同研究  
「小川八幡神社大般若経の文化資源化研究」  
(代表 山口英男)

【特別寄稿】

小川八幡神社大般若経調査概報の刊行にあたって

小川八幡神社

宮司 西尾 酒子

小川八幡神社大般若経の調査が、東京大学史料編纂所と和歌山県立博物館を中心とする諸先生方の共同研究事業として実施され、このたび調査概報が刊行されることになりました。新しい発見があり、研究がますます広がっていく材料がいくつも得られたということをとでもうれしく思います。小川八幡神社に伝えられてきた大般若経は、お社をまとまりの場として集う旧小川荘の地区の方々によって守られてきました。何百年もの間、この地で倦むことなく代々たつきを紡いで暮らしてきた先人たちから、その心とともに私たちが受け継いだふるさとの宝です。そうした長い歴史の流れの中で、大般若経が今ここにあるという大事さが知られていくことは、私たちの誇りといえましょう。この宝は、過去から現代へ、現代から未来へ向けて伝えられていくものです。かけがえない大般若経ですので、和歌山県立博物館にて管理・保護の寄託をしていただいた後、忘れることなく令和二年七月二六日に釈迦十六善神の尊い神様をお招きして、私たちの知らず知らずの罪・穢・災を祓いお清めしていただき、無病息災・五穀豊穰・家内安全を役員とともに祈願する祭典を斎行しています。これからも多くの皆さまと力を合わせながら、小川八幡神社の大般若経を守りし、伝統を受け継いでいきます。時間が取れば、ご参拝くださり、ご加護をお授かりください。

○本書は、東京大学史料編纂所特定共同研究（古代史料領域）「小川八幡神社大般若経の文化資源化研究」（二〇一九―二〇二〇年度）の研究結果報告書として、左記の内容を収めた。（編集担当 山口英男・牧飛鳥）

第1部 小川八幡神社大般若経について（3―12頁）

第2部 調査事例（13―34頁）

第3部 調査データ（35―59頁）

○共同研究メンバー

共同研究員 大橋直義 川尻秋生 坂本亮太 竹中康彦 傳田伊史 西本昌弘  
福島正樹 本郷真紹 矢越葉子 李乃琦  
史料編纂所 新井重行 稲田奈津子 遠藤基郎 小塩慶 尾上陽介 黒須友里江  
田島公 伴瀬明美 藤原重雄 堀川康史 山口英男

【扉 図版】 釈迦十六善神像（小川八幡神社蔵） 一幅

絹本着色 江戸時代（一七世紀）  
縦八七・八cm 横四一・六cm

小川八幡神社経を転読する際の本尊として用いられてきた画像である。江戸時代に制作された塗箱の蓋裏には、「大般若経本尊箱 神宮寺什寶」と墨書される。通例により、画面には天蓋の下に釈尊を描き、台座の手前左右に文珠・普賢両菩薩と、般若波羅蜜（智慧の完成）を求めた常啼菩薩、般若（智慧）を教えた法涌菩薩がそれぞれ配置される。画面両脇には、持経者を守る十六善神が八座ずつ描かれ、その先頭右端に大般若経を将来・翻訳した玄奘三蔵が笈を背負った姿でみられ、左端には守護神である深沙大将（鬼神形）が配置される。各尊の装身具や持物には金泥を用いており、華やかな印象である。

上部の画絹が欠失するなど、やや劣化が進行しているが、現在の画絹の下に別の画絹が重ねられているようであり、慎重な保存処置が求められよう。（竹中康彦）

第1部 小川八幡神社大般若経について

# (1) 小川八幡神社大般若経と共同研究

山口 英 男

大般若波羅蜜多経、略して大般若経は、六〇〇巻から構成される規模の大きな經典である。鎮護国家の經典として奈良時代から尊ばれ、災いを除き福を招く功德があるとして、時代を経るとともに、貴族から民衆に至る厚い信仰を集めた。大般若経を転読する法会を年中行事として行うことは、寺院から村々にまで広がっていった。大般若経の全巻を読み上げるにはたいへんな時間がかかるため、折本（おりほん）に仕立てられた大般若経を一帖（巻）ずつ手にとり、独特の所作で扇のように巻首から巻末までを開き、それを六〇〇巻分行って読み上げること代える大般若経会は、現在でも各地で行われている。經典の扇のような動きで生じる風にも功德があるという。和歌山県（紀伊国）は、村々に暮らす人々が集まる年中行事として、大般若経の転読を行ってきた事例が多くみられる。江戸時代以前は神仏習合が通例で、寺ばかりでなく、神社でも神宮寺で転読が行われた。

和歌山県紀美野町福井に所在する小川八幡神社は、社伝では一条天皇御宇（九八六～一〇一一）の創祀とし、平安末期の神野・真国荘と野上荘の關係史料の中に「佐々小河村」の名がみえる。元弘三年（一二三三）一月の小河柴目荘の起請文に「当庄鎮守八幡大菩薩」とあるのが史料上の初見となる。同社に伝わった大般若経（小川八幡神社大般若経、本書では小川八幡神社経とも表記）は、種々の由来を持つ本来は異なるセットの大般若経を取り合わせるなどして、一部六〇〇巻を詠えたものである。南北朝時代に小川八幡神社に奉納されたとみられ、奥書によれば正平一八年（一二六三）に一〇〇巻が補われ、また弘和二年（一三三二）など南北朝期の書写経数十巻が含まれている。応永二九年（一四二二）には、経巻の大規模な修復が行われた。取り合わせた経巻にみられる巻首の損傷などを手当てし、表紙の取替や欠失部分の補写がなされたのであろう。経巻を納める経箱（帙函と経櫃）もこの時に作製され、一〇巻ずつを納める帙函は今に伝わっている。帙函を五函ずつ収める経櫃（二二櫃）は、元禄一七年（一七〇四）に作り替えられた。この時（まで）に経巻の卷子装から折本装への改装がなされたとみられる。下って一九七九（昭和五四）年、経櫃を傷みから守るため、経櫃を納める外箱が氏子らの手で新調された。

小川八幡神社社地内にあった神宮寺は、一八六八（明治元）年の神仏分離令、その後の廃仏毀釈を経て廃寺となり、一九一四（大正三）年に寺の蔵する仏像・仏画類は旧小川荘（福井・吉野・中田・梅本・坂本）内の諸寺に分配された。その際、小川八幡神社大般若経は五地区が一年交替の輪番で管理する形となり、毎年七月二六日に旧荘内の諸寺が集まって大般若経会が行われてきた。一九六〇年八月、和歌山県立大成高校郷土部が、ふるさとに伝わる大事な文化財であることに注目し、クラブ活動として調査を行った。一九七八年一〇月には、天平写経を含む貴重な文化財の発見として毎日新聞に大きく報道された。ただ、その貴重な価値に目が向けられたことで、その所属が神社にあるのか、地区にあるのか、必ずしも明確でないという以前からあった問題が浮かび上がり、所有権をめぐる裁判が一九七九年から一九八七年一月にかけて和歌山地方裁判所で行われた。確定した判決では、大般若経の所有権が小川八幡神社にあることが認められ、五地区から選ばれた委員で構成される小川八幡神社大般若経管理委員会がその管理にあたることとなった。

毎日新聞の報道では、大般若経の中に天平一三年（七四二）に紀伊国那賀郡の「御毛寺」で書写したという奥書を有する経巻が何点もあり、この「御毛寺」は『日本靈異記』（下巻第一七話）の説話に登場する那賀郡弥氣里の「弥氣の山室堂」を指し、「幻の寺」の手がかりが発見されたことなどが特に注目された。この時点から関わられた関西大学の菌田香融教授により、未知の史料の発見は学界へも速報された（菌田一九七八）。天平の年紀を持つ古写経が、都から離れた地域でまとまった形で伝わることは極めてまれである。学術的な反響も大きなものがあり、全巻にわたる本格的な学術調査の実施が待たれた。所属の問題が結着せず、実現には困難が見込まれる状況の中で、菌田教授が裁判の原告・被告双方から鑑定依頼を受け、ここに大般若経の悉皆調査が実施された。関西大学の院生・学生を中心とする調査団が組織され、一九八三年一月から約一年のうちに五回ほどの調査が行われ、全巻の調査が作成された。調査成果は、その後の補足調査の内容も含めて公表された（菌田編二〇〇八）。また、大成高校郷土部の活動に端を発する調査の内容も『野上町誌』に収録された（野上町誌編さん委員会編一九八五）。

小川八幡神社大般若経六〇〇巻の年代構成は、奈良時代書写と推定されるもの一〇巻ほど、平安時代三六〇巻ほど、鎌倉時代六〇巻ほど、残りがそれ以降の書写である。由来を異にする複数のセットの大般若経を取り合わせて南北朝時代に成立



小川八幡神社大般若経 帙函（内）・経櫃（中）・外箱の状況

したものであるが、ほとんどが平安時代以前の古い書写であることは大きな特徴といえる。先に見た御毛寺の書写経（御毛寺知識経）は、奥書に天平一三年・一四年の年紀があり、奥書の無いものを合わせて一〇〇巻以上になるとみられる。平安時代写経では「日堂一切経」の朱印のあるもの一三九巻が含まれ、その成立・伝来過程の検討が待たれる。また、仁寿三年（八五三）信濃国佐久郡書写の奥書を持つ大坂氏願経も、僚巻が京都の安楽寿院に所蔵されていることが判明し（傳田一九九六・二〇〇〇）、取り合わせ

区のご理解を得て、二〇一九年二月に小川八幡神社大般若経の和歌山県立博物館への寄託が実現した。これを受けて、二〇一九～二〇二一年度特定共同研究「小川八幡神社大般若経の文化資源化研究」（代表・山口英男）を組織することとなった。本課題では、博物館内で調査・撮影を行えるという恵まれた環境を生かし、各巻の年代比定、本来の編成へのグループピング、その後の取り合わせに至る状況の解明に必要なデータを集める趣旨から、全巻の調査を作成し、全巻全紙のカラーデジタル写真撮影を行った。二〇二〇年春以降、新型コロナウイルス感染症感染拡大という思いがけない事態が現在まで続いている中で、共同研究員全体での活動は思い通りに任せぬ点が多々あったが、今後の研究のための基礎調査データの採取とデジタル撮影を終えることができた。本書は、この特定共同研究の終了を受け、調査概報としてその成果を報告するものである。今後も料紙や書風の分析など、継続調査を予定しており、全体の解析成果と合わせた形で詳細なデータを公開する機会を得たいと考えている。また、デジタル撮影のデータについては、条件と環境が整った段階でできるだけ早期に公開をはかる計画である。

【参考文献】

藪田香融一九七八 「和歌山県小川旧庄五区共同保管大般若経について」

『古代史の研究』創刊号

藪田香融編二〇〇八 『南紀寺社史料』（関西大学東西学術研究所資料集刊二五）

関西大学出版部

竹中康彦二〇二〇 「紀北地方における大般若経の集積と流転」

『和歌山県立博物館研究紀要』二六

傳田伊史一九九六 「小川八幡神社所蔵大般若経巻四四五」

『長野県立歴史館研究紀要』二二

傳田伊史二〇〇〇 「仁寿三年大坂氏願経―安楽寿院所蔵大般若経の資料調査を中心

に―」

西本昌弘二〇一九 「和歌山県小川八幡神社大般若経の調査」

『阡陵』（関西大学博物館叢報）七八

野上町誌編さん委員会編一九八五 『野上町誌』下巻 野上町

（第九編第三章「小川八幡宮寺大般若経六百巻」 羯磨正信氏執筆）

せの状況を考えるうえでも注目される。このほかにも、四種類の黒印が捺されており、本来の編成を解き明かす手がかりとなる。

東京大学史料編纂所は、「日本史史料の研究資源化に関する研究拠点」の認定を受けて、二〇一〇年度より共同利用・共同研究拠点としての活動を開始した。拠点の活動は、国内外の研究者との共同研究を組織する形で行われ、編纂所が企画して共同研究員を公募する特定共同研究と、所外から研究課題を公募する一般共同研究の二本立てで構成される。二〇二一～二〇二二年度一般共同研究『信濃史料』古代編（二・三巻）に係る未収史料の収集に関する基礎的研究（代表・福島正樹氏）では、信濃との関係から小川八幡神社大般若経に含まれる大坂氏願経の調査を行った。また、二〇一八年度一般共同研究『和歌山県海草郡紀美野町小川八幡神社所蔵大般若経の研究』（代表・竹中康彦氏）では、奥書のある御毛寺知識経を中心に、墨抹部分の積読のための写真撮影と、取り合わせによる大般若経の編成を分析するうえで必要な情報の確認とその収集を行った。この課題の実施を契機に、小川八幡神社と管理委員会を構成する五地

## (2) 調査の報告と成果の概要

竹 中 康 彦

このたびの小川八幡神社経の調査は、かつて小川八幡神社経の調査・研究を主導した藪田香融氏の多方面にわたる業績を回顧する、和歌山地方史研究会のシンポジウム「藪田香融先生の業績をふりかえる」が、和歌山市で二〇一七（平成二九）年九月一七日に開催されたことを契機として、二〇一八（平成三〇）年度東京大学史料編纂所の一般共同研究「和歌山県海草郡紀美野町小川八幡神社所蔵大般若経の研究」として採択されて以来開始された。

二〇一八（平成三〇）年度は、毎年七月二六日に小川八幡神社で行われる転読行事にあわせて、六名の研究者が現地に赴き、従前の調査では擦消や墨滅により読解不能とされていた奥書を有する八巻について、熟覧と赤外線カメラなどによる撮影を行って判読作業を行い、同時に六〇〇帖の経巻の全体的なコンディション（糊離れや虫食、収納秩序や環境など）について、概況の確認を行うことができた。

この調査をきっかけとして、小川八幡神社経の調査と保存への地元の理解が深まることになり、小川八幡神社（西尾酒子宮司）と小川八幡神社大般若経管理委員会（大澤育司委員長）の承諾を得て、二〇一九（平成三一）年二月一〇日に、日本通運西美術品支店の美術品専用車により、大般若経六〇〇帖（経箱・経櫃各一二合）と釈迦十六善神像一幅（塗箱一合）を和歌山県立博物館へ搬送し、同館に寄託されることになった。その後、三月一九日～二二日の工程でガス燻蒸作業（エキヒューム）を施し、現在に至るまで特別収蔵庫Ⅰ内で保管している。

こうして、保存および調査の環境が整ったことを承けて、二〇一九（平成三一）令和元）年度から三か年にわたる東京大学史料編纂所の特定共同研究「小川八幡神社大般若経の文化資源化研究」として採択され、和歌山県立博物館での本格的な調査が開始され、全巻の原品調査および全紙のデジタル写真撮影が行われた。

二〇一九（令和元）年度には、経巻の調査が三回、二〇二〇（令和二）年度には、写真撮影が三回、二〇二一（令和三）年度には写真撮影が二回、経巻の調査が一回行われ、またそれらの間の期間には、県立博物館学芸員・和歌山大学教育学部学生ボランティア・博物館実習生らにより、経巻の調査が継続された。この間、新型コロナウイルス

感染症流行のため、調査の実施に困難が生じたが、二〇二一（令和三）年一月二二日の経巻調査・写真撮影をもって、基本的な調査活動は終了した。

調査の内容は、図のような調査カード（A4判）を作成して、一巻ずつ六〇〇帖にわたり、各箇所の特徴や文字情報・保存情報などを記録し、また・法量・数値などを測定し、最終的にデータの入力と整序作業を行った。カードの記入にあたっては、複数の調査者でばらつきが出にくいように、注意事項を定めて行った。とくに、補写の情報（箇所と年代）、保存状況（糊離れ箇所や料紙の連続性）などについては、十分な記録が行われるようにした。なお、小川八幡神社経は、木製経帙に経巻を一〇帖収納するようになっていたので、調査者はその単位でカードを取ることを原則とした。

一方、写真撮影はLED固定照明のもと、デジタル・フルサイズ一眼レフカメラにより、原則料紙一枚ずつと、表紙・裏表紙の全景を撮影し、裏花押や裏印がある場合、紙背の撮影を加えた。撮影したカット数は、一万二〇〇〇カットを超えている。

このたびの調査にあたっては、小川八幡神社経の全巻にわたる唯一の研究成果である藪田香融編著『南紀寺社史料』（関西大学出版部、二〇〇八年）に大いに依拠することになった。また、西本昌弘氏の「高配により、その基礎データである「調査票」（一九八三・八四年）のコピーも提供していただくことができた。言うまでもなく、この研究成果の完成度は高く、今回の調査前にはまさに「屋上屋を架する」ことにはないかと危惧したが、いくつか新たな知見を得ることができ、また今後の保存管理上における確認もできたので、ここで紹介したいと思う。

まず、保存管理上の点からいえば、小川八幡神社経は現状六〇〇巻完具しており、糊離れにより分離して釈迦十六善神像の軸箱の中に保管されていた一〜数枚の経巻料紙（巻七六・二〇三・二〇九・三四二・三七七・四八八・五三七・五六八の一部）や他巻へ混入していた料紙は、「SAT大正新脩大藏経データベース」などを用いて、すべての巻に復旧することができた。ただし、奥書のみが記された料紙三葉と、表紙・見返し・裏打に用いられた紙は、分離したままの状態になっている。料紙として明らかに欠失しているのは、巻五七八の第一五〜一六紙間に入るべき五行分のみにとどまる。南北朝・室町時代書写巻には糊離れが目立ち、虫食が進行した部分もみられるが、近年まで行われていた転読行事により、経巻の順序は混乱しておらず（経帙の墨書番号と収納されている経巻との間には若干の乱れがある）、全体的に状態は悪くはない。ただし、巻五一〜六〇と巻二二一〜二四〇の二〇帖は、とりわけ損耗がひどく、全巻

備考	保存状態	時代	調点	界線	首題	尾題	調点	法蓮など		料紙	外題	巻名
								紙数	紙行			
	良・損(首欠・尻欠・糊れ・シミ・虫損・糊り不可)	室町	有・無(朱点・白点・黒点・糊点)	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有・無	0	1	精紙・染紙・縮交縮紙・その他	有(原・後補)・無	和歌山県立博物館
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		2	2			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		3	3			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		4	4			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		5	5			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		6	6			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		7	7			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		8	8			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		9	9			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		10	10			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		11	11			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		12	12			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		13	13			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		14	14			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		15	15			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		16	16			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		17	17			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		18	18			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		19	19			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		20	20			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		21	21			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		22	22			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		23	23			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		24	24			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		25	25			
		室町		有(原・後補)・無	有(原・後補)・無	有(原・後補)・無		26	26			

り込まれた部分についても、念入りに確認作業を行った。

巻二四四では紙背に記された修理奥書により、同巻が一三世紀半ば、大伝法院の勢力が一時期高野山に帰住していた時期に、根来寺の前身寺院である豊福寺で、広八幡宮に安置するための経巻として書写されたことが記されており、これまでまったく知られていない驚くべき情報の発見となった。小川八幡神社経の補写や修理については、近隣の事例から、室町時代に根来寺の相当の関与があったのではないかと予測していたが、その点は今回の調査では十分に確認できなかった一方、それ以前の事象が明らかになったことになる。また、巻三八六が後に根来寺で、平安時代書写の巻二八六の紙背を使って書写し直された点はこれまで把握されていたが、巻二八六の段落間余白に、「蜂田寺之」という書入があったことは、有田川中流域の三箇所に分有される大般若経の僚巻であることを示しており、小川八幡神社経をめぐる地域的な広がりを再認識する手がかりとなった。さらに、擦消によりこれまで判読が困難であった巻

もしくは一部が開巻不能であるものも含まれている。これら二〇帖分の開巻と裏打補強や、全巻にわたる継立補修が、とくに急がれる修理作業となろう。

以下、詳しくは個別事例として第2部でふれることになるが、今回の調査においては、これまで知られていなかった重要な奥書などを確認・判読することができた。小川八幡神社経は、江戸時代の折本装への改装などの際に、奥書を別巻に貼り替えたり、裏表紙の中に折り込んだりしていることがあるため、これまで見落とされたものがあつたが、今回の調査では経巻の撮影に合わせて、紙背や表紙に折

小川八幡神社経  
書写年代別一覧表

時代	数量(帖)
奈良	120
平安	355
鎌倉	58
南北朝	52
室町	15
合計	600

先行研究の『南紀寺社史料』においても、一定の構成分析がなされ、書写年代別一覧表が提示されており、今回の調査においても、大まかな時代別一覧表を提示しておくが、なお課題は残されている。まず、各時代別の経巻がそれぞれ一具経と結論づけられないので、詳細な構成が判明していない点は大きな問題である。とくに、一日堂一切経の経巻群は自体が取り合わせ経なので、その中をさらに細分化した分析が必要になる。また、奈良時代の写経群を全て御毛寺に関わる一具経とするには、より慎重になる必要がある。こうした課題を解決するために、今後書風の厳密な分析・類型化と、料紙の詳細な分析が必要になるものと思われる。同様に、部分的な補写の時期をより精度を高く解明することも求められよう。

五三二(一日堂一切経に含まれる平安時代書写巻)の奥書が、天平一五年(七四三)の「五月十一日経」の願文の前半部分であることが、赤外線フィルター撮影によって判明した点も、今後の一日堂一切経の分析を進める上で、重要な情報となるであろう。南北朝時代の一四世紀後半に、勸進聖徳の主導による小川荘で進められた複数の経巻群の集積と補巻の実態についても、より整理して理解できるようにした。また、平安時代末の補写に加えて、室町時代の応永二九年(一四二二)の大きかりな修理によつて、経櫃・経帙の制作ともあいまつて、小川八幡神社経の原形態が完成したことにより明確になった。詳しくは省略するが、その時の卷子装の表紙(打付外題)を大幅に再利用・転用することにより、江戸時代の元禄一七年(一七〇四)までになされた折本改装が行われ、全巻にわたつて同筆の外題箋が貼り付けられたことも、表紙などの状況分析により判明した。

さて、大般若経の調査において、各種奥書や書入、印や裏花押などの独自情報の記録が重要であることは言うまでもないが、小川八幡神社経のような取り合わせ経の場合、その構成分析は最重要課題である。和歌山県内では、版本を含んで非常に複雑な取り合わせが行われている大般若経として、相賀八幡神社経(橋本市)や龍谷寺経(かつらぎ町)などがあげられるが、それらと並んで、全巻江戸時代より前の写本に集約されるが、小川八幡神社経も取り合わせがきわめて複雑な代表的な事例と位置付けられる。

### (3) 小川八幡神社大般若経の歴史的位置付け

本郷真紹

大般若経は、紀元二世紀までに成立したと考えられる般若部の経典を集大成したもので、十六部六百卷からなる、諸経典の中でも最も大部の経典である。釈迦が四つの場所です十六回行った説法を記したという体裁をとり、四処十六会と称され、大安寺にはこれを現した繡仏像があったことが、天平十九年(七四七)に勘録された『大安寺伽藍縁起并流記資財帳』に見える。『西遊記』の三蔵法師のモデルとして知られる玄奘(玄奘三蔵、六〇二〜六四四)が、インド各地の聖域をめぐって唐に戻ったのち、その晩年に四年をかけて訳出し、六六三年に完成した。この玄奘のもとには、日本に於ける法相宗の第一伝という道昭、同第二伝の智通や、智達といった入唐求法の僧が訪れて受学したと伝え、訳出されてからさほど時を経ずして、大般若経も日本に将来されたと考えられる。

正史にその名が現れるのは『続日本紀』の大宝三年(七〇三)三月辛未条が初例で、この時大安寺・薬師寺・元興寺(飛鳥寺)・弘福寺(川原寺)の四寺で読経が行われた。恐らくは、前年十二月に崩御した持統太上天皇の追善の一環と考えられる。それから二十二年経過した神亀二年(七二五)閏正月には、災異により六百僧を招いて宮中で大般若経が読誦された。

前年の神亀元年に元正天皇の讓位を受けて聖武天皇が即位するが、この年、星の異変や地震が勃発した。天皇としての不徳を嘆く聖武天皇は、仏教の力に頼ろうとして経典の読誦を催し、同年九月にも、三千人を出家させて七日間の経典読誦を命じている。除災を目的とする大般若経の転読と見なされるが、このころから、大般若経は、特に除災に効果のある経典という認識を強く持たれるようになったと推測される。

つづく天平年間においても、天候の異変や飢饉が相次ぎ、人々の生活の疲弊を招いた。天平七年(七三五)五月、平城京下の宮中と四つの官寺で大般若経の転読が行われる。丁度この頃、遣唐使の帰国と時を同じくして、北九州で天然痘の流行が始まっていた。疫病は拡大し、同九年には畿内が災禍に見舞われる。合わせて、隣国新羅との間に緊張関係が高まり、まさに内憂外患の様相を呈した。そのような状況下で、同年三月に、国ごとに釈迦三尊像の製作・安置と大般若経の書写が命じられる。程なく、

律師の任にあった道慈が上奏し、担当する大安寺伽藍の造営で、大般若経六百巻の転読を毎年行ったところ、息災であったことから、改めて朝廷の布施により、僧百五十人による転読の常例化を願い出、許可されるに至る。この年、藤原房前等朝廷の要人が相次いで病死する中で、五月および八月にも宮中で大般若経転読が行われた。

天平九年三月の命を受けて諸国で大般若経の書写が実施されたことは、同十一年三月に出雲国での完成に触れた、国守・石川年足らの名が見える経巻の奥書から確認される。同十三年に至って漸く平穏を取り戻すと、大般若経はその効果が改めて評価され、地震や疫病といった災異だけでなく、要人の病に際しても転読が行われるなど、種々の現世利益を求める手段として重視された。一方、現世利益に加えて、死者追善の効果も期待され、神亀五年(七二八)には、その両親並びに歴代天皇の追善と時の聖武天皇の玉体護持を祈願して、長屋王による大般若経の写経が行われている。

天平年間に大般若経の書写が多く行われたことが、今日伝わる古写経やその残片に記された年次、人名等から確認される。長屋王の願経と同様に、写経発願の経緯まで記したものとしては、先に触れた出雲国守石川年足が、天平十一年九月に自身の長寿や祖先の追善等を願って製作し、氏寺である大和の浄土寺(山田寺)に納めた大般若経や、僧正・玄昉の追善を目的に、その弟子であった善意が発願した同十九年の例などを挙げる事ができる。公私共に写経の盛行が認められるというものの、写経に用いる紙が大変貴重であったこの時代に、六百巻もの大部にわたる経典を製作するには、かなりの財力が必要であったと考えられる。正史に現れる公的な性格の写経はまだしも、個人の発願で進めるとすれば、おのずから階層的に限定された立場の者のみに限られ、たとえ信仰心は厚くとも、一般の人々には極めて困難な事業であった。

この点を考慮すれば、小川八幡神社大般若経に含まれた、天平十三〜十四年の紀年を有する写経には、興味深い要素が存在するように思われる。同十三年四月書写の奥書を有する経巻は、紀伊国那賀郡三毛寺(御毛寺、三氣寺、或いは御気院等と表記する)の紀直商人・坂本朝臣栗柄・上毛野君伊賀麻呂といった知識により書写されたもので、小川八幡神社には、所蔵する大般若経の欠損分を補うべく、十三世紀の南北朝期にもたらされたものと見なされる。平安初期に成立した『日本霊異記』下巻十七縁に「彌氣の山室堂」が登場し、この堂が経巻奥書の三毛寺自体を指すものであるか否か即断は憚られるが、那賀郡三毛と紀伊国分寺の所在地が近接することから、天平九年の大般若経書写の下命との密接な関係を想定する向きもある。いずれにせよ、この

時期に盛行した大般若経の写経やその転読法会の執行には、中央における動向の影響を看過することはできず、写経に従事した上毛野君伊賀麻呂が平城京の右京六条四坊に住し官宮の写経所で勤務したことが認められ、また『日本霊異記』には「彌氣の山室堂」に元興寺の豊慶なる僧が常住していたとされることなどから、平城京との都鄙間交流が盛行し、中央と同様の状況を招いたと受け取られよう。

宮中での臨時の転読が命じられる一方で、道慈の上奏に見られるように、大般若経を転読する法会は、般若会もしくは大般若会とも呼ばれ、中央の官寺に於いて常例の年中行事として固定化されるようになる。十世紀初頭に成立した『延喜玄蕃寮式』によれば、大安寺で毎年四月六・七日に百五十の僧による転読が、また薬師寺では、七月二十三日から二十九日までの七日間に修されていたことが認められ、東大寺や興福寺でも定例の法会が営まれた。

平安時代、大極殿・紫宸殿などに多くの僧を招いて行われる読経会は、宮中の定期的な行事として、貞観四年（八六二）より季節ごとに三日間修されるようになる。元慶元年（八七七）の陽成天皇即位時より春秋の二季に改められたが、この大般若経転読の法会を季御読経と称し、のちには四日間となった。

臨時の転読は、地震・早といった社会異変のみならず、天平十七年の聖武天皇、天平宝字四年（七六〇）の光明皇太后、そして宝亀元年（七七〇）の称徳天皇の病に際しても行われた。さらに、同八年三月には、宮中の「妖怪」により大祓が行われると共に、六百僧を招いて大般若経が転読されている。大般若経の転読による除災という効果は、祓えと共通する機能として認識されたと受け取られ、天平十六年三月に紫香楽宮と難波宮で行われた読経や、同十七年五月の平城宮に於ける読経も、祓え、清めの意義を有する可能性のあることが指摘されている。このような認識は、やがて平安時代になると、神仏関係の展開と相即して、新たな同経に対する扱いを導いた。

盧舎那大仏造立を発願した聖武天皇が退位後出家し、その娘である称徳天皇も尼身分のまま皇位に即いたこと等から、奈良時代の中葉以後神仏の関係が緊密化し、八幡神が豊前より勧請されて大仏の前に祀られたり、伊勢神宮に大神宮寺が建立されるなどしていた。平安時代になって、最澄や空海により体系的な密教がもたらされると、一層この徴候は顕著となったが、桓武天皇の跡を継いだ平城天皇の大同四年（八〇九）正月、特に靈験あらたかと認識された諸国の名神のために大般若経を書写し、国分寺に安置することとされた。同二年の暮れより疫病が大流行し、大般若経や仁王般若経

が諸国で読まれたり、大極殿で名神に祈りが捧げられたりしていたが、両者が合わさるような形で、明確に名神のための写経が行われ、恐らくは国分寺で転経されることになったのである。

貞観元年（八五九）八月、天台宗の僧惠亮の奏請により、延暦寺に新たに年分度者二人を置き、一人が賀茂神、今一人が春日神のために、関連する経典を読む力を試すことが定められる。この時の惠亮の上表で、神は大士すなわち菩薩が形を変えて現れたものと解釈されており、神仏習合の基盤ともいえるべき本地垂迹の思想がそこに見て取られる。すなわち、神が菩薩の垂迹であれば、その前で経典を誦誦する行為、神前読経が違和感なく修されることとなり、神社に奉納された経典がその場で誦誦されるようになる。このような経緯で、神社での書写供養と読経が一層盛行したが、とくに、菩薩に対して覚りを得るための智慧を重視する大般若経の教説は、菩薩と同じく因位にある存在と受け取られた諸神祇の前で誦誦されるに相応しい経典との認識を導き、進んで神前の読経が行われた。

藤原氏の氏神として尊崇を受けた春日神社では、摂政・関白といった有力者をはじめとして、大般若経の奉納・転読が盛んに行われた。春日神社の祭神は、藤原氏ゆかりの地などに分祀されたが、こうして各地の神社で大般若経の書写奉納や転読が行われ、臨時の個人的な目的ばかりでなく、祈雨や虫払といった農耕社会に結び付く年中行事化として行われることになるのである。

（参考文献）

堀池春峰 「大般若経信仰とその展開」 「同（続）」

菌田香融 「小川八幡神社所蔵大般若経について」 「同『南都仏教史の研究 遺芳篇』二〇〇四年 法蔵館」

藤本誠 「御毛寺知識経と在地社会」 「同編著『南紀寺社史料』二〇〇八年 関西大学出版部」

上代文献を読む会編 『上代写経識語注釈』 （二〇一六年 勉誠出版） 「同『古代国家仏教と在地社会』二〇一六年 吉川弘文館」

#### (4) 小川八幡神社大般若経と地域史

坂本亮太

**生石山と小川地域** 大般若経が残される小川八幡神社と小川地域(福井・吉野・中田・梅本・坂本)は、生石山北麓に位置し、梅本川沿いの村々にあたる。小川八幡神社は、生石山へと登っていくちようどその入り口、かつ生石山を水源とする複数の河川が梅本川として合流する地点に鎮座する古社である。

小川八幡神社の由緒については、縁起などの文字資料はなく詳細は不明である。社伝によれば、一条天皇の御宇(九八六〜一〇一一)、清水八幡宮(京都府八幡市)の別宮である野上八幡宮(紀美野町)の別院として創建されたという。この社伝に関わり、生石山南側中腹にある生石神社(有田川町)の縁起が注目される。生石神社は生石山南麓の十六か村の産土神で、承平六年(九三六)に阿波国杉之尾大明神を中村・中尾村(有田川町)に勧請したのが始まりで、天慶元年(九三八)に沼田村(有田川町)へ移し、永祚元年(九八九)に大風洪水、巨石が出現し、正暦元年(九九〇)今の社地に遷し、長徳元年(九九五)に高野山僧を招いて供養をしたという。生石山南側の生石神社は、まさに一条天皇の時を画期として成立した神社との由緒を有する。定期的に考えれば、承平・天慶の乱などにもなって、生石山の信仰が高まりを見せていた可能性は考えておいても良からう。

生石山自体、巨石信仰や風よけの信仰とも関わる宗教的な聖地であった。山上からは高野山をはじめ、大和の葛城山・金剛山、河内の生駒山、摂津兵庫、播磨瀧、四国路まで眺望することができる(『紀伊国名所図会』)。そして生石神社の創建に高野山僧が関わったともされるように、高野山金剛峯寺が高野山の旧領(弘法大師空海が地主神である丹生明神から譲り受けたとされる土地)を文書と絵図で示した弘法大師御手印縁起には、西南境に「金剛峯寺別院」「清水寺」が描かれる。このような地域的な環境に加え、周辺の野上荘(紀美野町・海南市)・鞆淵荘(紀の川市)など八幡神人による影響が強まるなかで、八幡宮化も進んでいったのだろう。小川八幡神社は、古代より展開した信仰が折り重なって現在へと至ったものと思われる。

**境界としての小川地域** 小川地域は、平安時代末期に描かれた紀伊国神野・真国荘絵図に、神野・真国荘と野上荘の境目として描かれることがつとに注目されている。

梅本川流域は川の記載が詳細で、かつ誇張して描かれるなど、荘園の境界・相論地ともなっていた。このとき小川地域は野上荘内の「小河村」であったが、平安・鎌倉時代を通じて隣荘神野・真国荘との紛争が絶えなかった。平安時代末期に神護寺(京都市)を復興した文覚が源頼朝や後白河院の帰依を受けると、その威をかりて文覚の弟子上覚は神野・真国荘の荘官として神護寺領とすべく「小河村」の押領を始める。文覚が佐渡に配流されると相論はやみ、正治元年(一一九九)以降、天皇家を本家としてつとも、高野山が神野・真国荘の領家・地頭となった。

ただし、「小河村」は未だ高野山領ではなく、鎌倉時代末期には高野山が「小河村」を実質的に領知しているという状態であった。正式には、元弘三年(一一三三)、高野山は後醍醐天皇から御手印縁起四至内の領有を認められ、ようやく「小河庄」として明確に高野山金剛峯寺領に位置づけられた。そういった状況のなかで、小川八幡神社の大般若経は、小川地域の人々と高野山僧によって誂えられ、書写・施入されたものと考えられている。実際、このときの大般若経奥書には、「小河庄」「当庄」とも出てくるし、応永二十九年(一一四二)の経帙にも「小川庄八幡宮御経」とも記される。以後も梅本川流域は、高野山領の西の境として位置し、江戸時代にも高野山領と紀伊藩領の境目となっていた。

**謎の「清水寺」** 小川八幡神社大般若経は天平写経が有名であるが、実は平安・鎌倉・南北朝・室町と、各時代の經典も一定量存在する。なかでも南北朝・室町時代の經典は、まさに小川八幡神社周辺の人々が関わって書写されたことを物語るもので、小川地域の村々の歴史を知るうえでも重要な資料となっている。

そういったなか、「一切経 部類 清水寺蔵本」(巻六四)という謎の墨書がある經典が注目される。小川地域の福井には、平安時代初期に遡る観音菩薩立像を本尊とする清水寺があり、また弘法大師御手印縁起の生石山付近には、高野山旧領の西南の境として、「金剛峯寺別院石清水堂」「金剛峯寺別院号旧清水寺」が描かれる。大般若経にある「清水寺」が、京都の清水寺なのか、はたまたこの小川地域の清水寺なのか興味を引かれるが、いまだ解明できていない謎である。

なお、生石山をはじめとする長峰山脈には、古代・中世に遡ると伝えられる寺院がいくつかあった(現在は残らない)。毛原大日堂(紀美野町)の菩薩形坐像や、法福寺(有田川町)に伝わる慈恩寺伝来の仏像群など、長峰山脈上の古代・中世寺院が廃絶した後、麓に仏像などが遷されたと伝承される。「清水寺」もこのような寺院であったの

かもしれず、小川八幡神社大般若経の「清水寺」とあわせ、さらなる調査研究が俟たれる。

**小川地域の村々の登場** 梅本川流域に位置する小川地域は、神野・真国荘絵図で耕地・在家が描かれることから、平安時代には既に一定の開発が進んでいたものと思われる。では生石山中腹に位置し、現在は棚田景観が広がる中田・梅本・坂本などの地区はどうだろうか。この地を灌漑する水路は龍王水と呼ばれ、途中には弘法大師が押し上げて水を通したと伝える押上岩がある。応永三十二年（一四二五）の天野社一切経会段米納日記によると、中田・梅本・坂本の地名が見え、相応の米の負担をしていることから、それなりの水田が開かれていたものと想像される。

こういった村の成り立ちや動向を理解するうえで、小川八幡神社の大般若経は重要な情報を提供する。小川八幡神社の大般若経のなかには、正平十八年（一三六八）に「坂本住人宗達篋実」（巻五三三）「坂本村飯盛産子女」（巻五三六）、弘和二年（一三八二）に「中田村住久光」（巻二〇八）、永徳三年（一三八三）に「執筆梅本村住禅日」（巻二二六）、至徳二年（一三八五）に「坂本住人祐宗」（巻三三三）などが見える。南北朝時代に小川地域の人々を中心として発願・書写されたことが明らかとなる。小川八幡神社大般若経奥書にもあるように明確に「村」として登場する。一方、ほぼ同時期の古文書などでは「福井名」「坂本名」など見える点にも注意したいが、小川八幡神社大般若経の奥書は、小川地域の「村」の初出資料として重要なものである。ここに登場する人物のうち、篋実や祐宗は「坂本住人」とみえるものの、高野山文書では高野山の衆徒として名を連ねる人物でもあった（篋実は大法師↓阿闍梨、祐宗は大法師↓入寺）。小川地域の人々のなかには高野山僧となるものもあったのである。そして高野山僧となった後も、生地・故郷との関係を持ち続け、勧進活動や武力を伴う紛争解決、荘園経営に携わる場合もあった。ここでは「勧進」「秘計」ともあるように、小川地域に出自を持つ（居住も続けていた）高野山衆徒等が勧進活動や費用の工面することによって、小川地域と高野山とを結びつけ、この大般若経が調達されたことが明らかとなるのである。

文明四年（一四七二）根来寺僧が補修したとの奥書もあるように、以後も欠巻などの補充や修復が続けられ、現在まで守り伝えられてきた。また今回の調査で、寛元四年（一二四四）に豊福寺で書写され廣八幡宮（広川町）に安置されていた経巻もあることが判明した（巻二四四）。岩出市にある根来寺は豊福寺・円明寺を中心に形成さ

れた寺院で、戦国時代には根来寺僧が廣八幡宮の造営に関わるなど（廣八幡宮棟札）、根来寺との関係は深い。

戦国時代の根来寺による補修等のなかで、補われた経典ももう少しある可能性が出てきた。実際、満福寺の大般若経などは、文明十九年（一四八七）に神野荘民等が根来寺僧から十五貫文で購入したものであり、当該期の根来寺は「聖教流通センター」として機能していたものと想像される。根来寺と小川地域との関わりも、小川八幡神社大般若経などを中心にしつつ、さらに検討を進めていく可能性が出てきた。

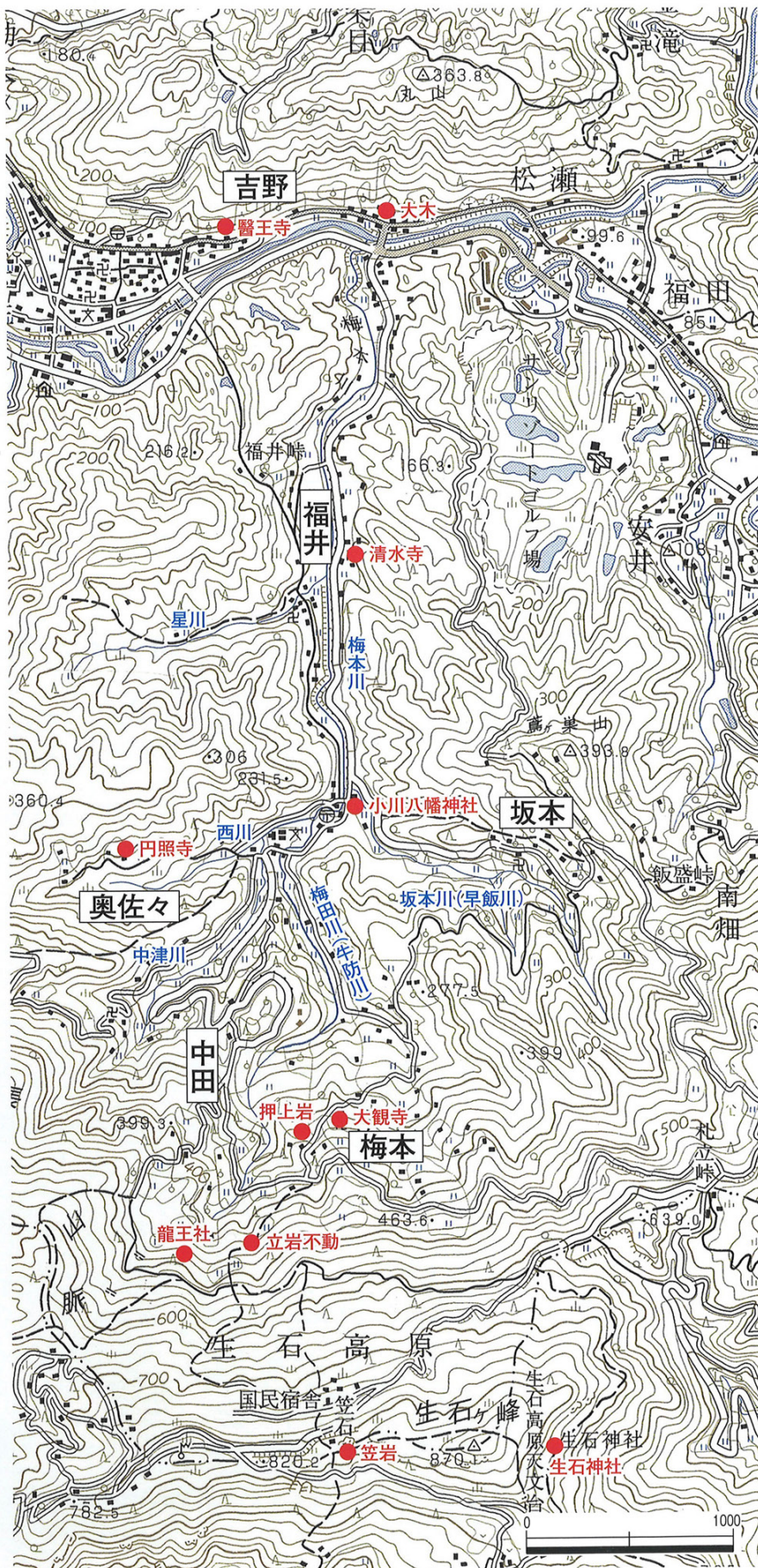
**地域資料としての大般若経** 紀美野町内には、野上

八幡宮・満福寺・惣福寺・毛原丹生神社・志賀野丹生神社・蓮花寺など中世に遡る大般若経が多く残されており、ここに地域的には大きな特徴がある。なかには、小川八幡神社・満福寺・毛原丹生神社などのように、修正会・修二会や初午の祈禱として、虫干し（祈禱）として、現在使用されているものもある。しかもこれら大般若経で重要なのは、文字資料として以外にも価値が見出せる点である。経典を収める経箱・経櫃も中世に遡るものが多い。また大般若経は転読などの行事で使用されたため、民俗行事としての側面がある。行事のなかでは、釈迦十六善神像を掛け、前机を置いて転読を行うため、それらが美術工芸品として残る場合もある。そして、行事後には版木で刷られたお札が配布されるため、お札や版木などの仏教民俗資料も残る。そして、これらは大般若経が文字資料としての価値のみならず、民俗資料や美術工芸品とも密接に関わる文化財であることも示しているよう。大般若経が所在するということは、すなわちこれらの美術工芸品や民俗資料が残っている可能性も示唆する。地域資料を掘り起こしていくための指標ともなるのである。

確かに大般若経の奥書などの文字は、所蔵される地域の歴史を明らかにする側面、さらにまた他地域（ここでは奈良・河内・播磨・信濃・武蔵・出羽）の歴史やその交流を浮かび上がらせる地域横断的な価値もあるが、それと同時に現地に残る多様な文化財を結びつける、そういった役割も担っているのではないか。大般若経に注目することで、地域資料の新たな可能性が開けてくるものと思われる。文字資料として以上の価値を有する文化財として、あらためて大般若経に注目していきたい。



小川八幡神社大般若経虫干しの様子



小川地域 地図



小川八幡神社の位置

地理院地図（電子国土 Web）を加工

第2部  
調査事例

竹  
中  
康  
彦

ここでは、小川八幡神社経における代表的な経巻の個別事例一〇件について、とくに奥書が記されたものを選び、書写年代の順に紹介することとする。個々の詳細なデータについては、「第3部 調査データ」の一覧表も参考にされたい。

①紀伊国御毛寺知識坂本朝臣栗栖書写卷（巻四三八）

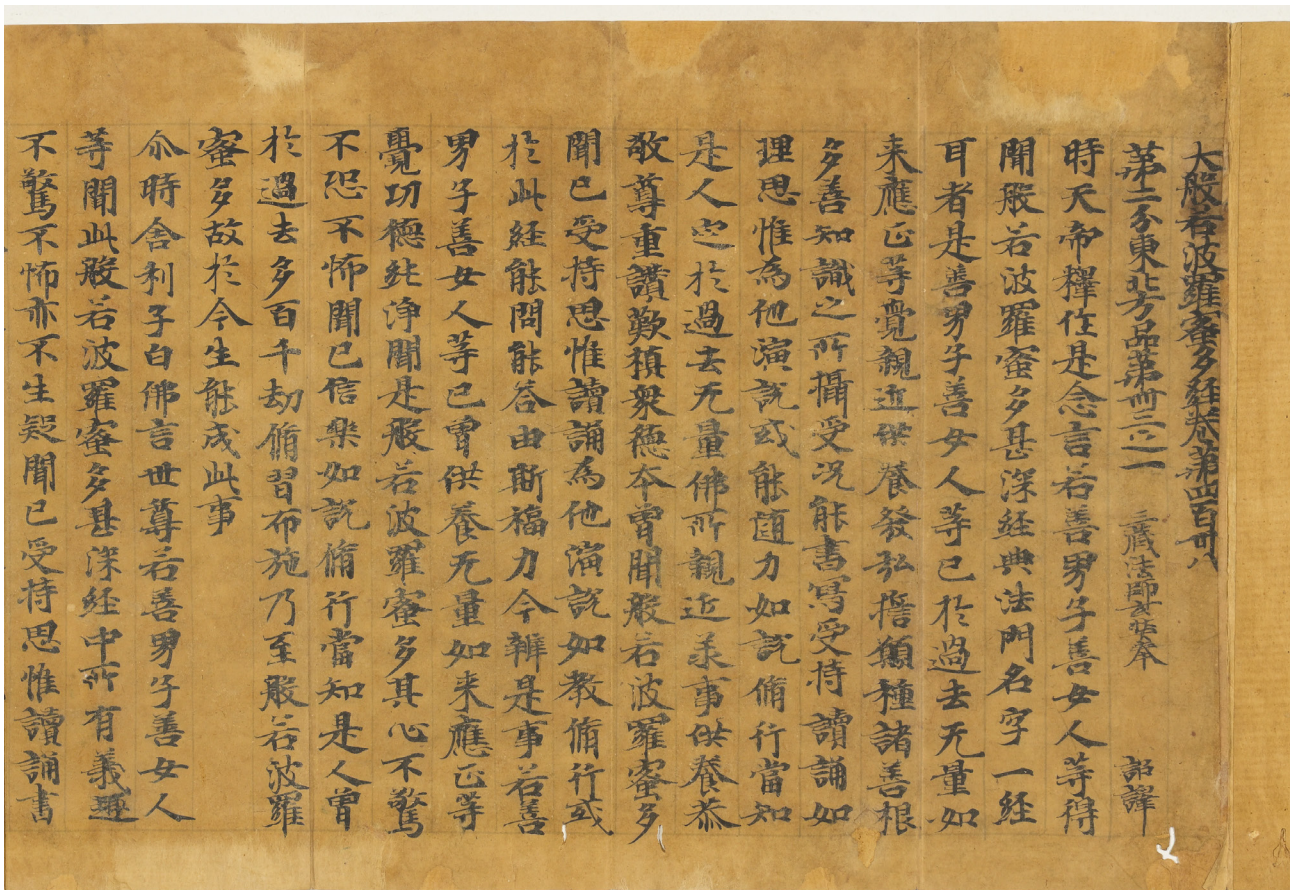
奈良時代（八世紀）

これまでの調査により、奥書で御毛寺の名が明記されている巻は三帖（巻四一三・四一九・四三八）であり、擦消・墨減により釈読困難であるが、記載の可能性があるものが三帖（巻二四一・四二六・四三七）である。それら奥書を有する巻については、いずれも天平一三年（七四一）四月（上旬）の年紀と「紀伊国御毛寺（御氣院）」の名、および知識の名が記されている。御毛寺知識の筆者として、紀直商人（巻四一九）と坂本朝臣栗栖（巻四三七・四三八）の二名の名がみられるが、ここでは坂本朝臣栗栖の奥書があるものを取り上げたい。

巻四三八は、首尾一貫して奈良時代の書写巻で、全巻を通じて謹厳な楷書で書写されており、典型的な天平写経の特徴を有する。五一〇～五二〇ミリ程度の黄麻紙と思われる料紙を貼り継ぎ、淡墨で界線を引き、一行一七字の原則に則り、丁寧に書写している。字面はやや横長で力強く、右払いの堂々とした破磔や横画の多くの起筆を逆筆とする点が特徴的である。しんによう（疋部）やそうによう（走部）の終筆を水平に近くするのも、この筆者の特徴である。やや大らかで、字面の傾きに乱れのある紀直商人書写巻に比べると、より厳格さが貫徹しており、格調が高い。

筆者の坂本朝臣栗栖については、天平勝宝九年（七五七）の班田司歴名に左京班田司算師としてその名がみえる（『大日本古文书』四81）。なお坂本朝臣氏は、紀角宿禰および根使主の後裔で、氏名は和泉国和泉郡坂本郷（大阪府和泉市阪本町）の地名にもとづくこととされ、一族には奈良時代の経師や写経司に関わる人物が確認される（1）。

ところで、小川八幡神社経に含まれる経巻は、江戸時代に卷子装から折本装へと改装され、ほぼ統一された体裁となっている。それ以前にも、何度か修復作業が繰り返されているようで、とくに奈良時代書写巻一二〇帖のうち四〇帖前後は、巻頭数紙分を平安時代後期に後補されていることが確認できる。この点、巻四七四の裏表紙に貼付られた奥書に、「壽永元年七月晦日依焼失書次了」とあるのは、この状況と何らかの関係があるのかもしれない。また、巻四一二の奥に記された別筆の修復奥書には、「此



經修腹广永廿九季（壬刀）卯月八日二始／供養者同年閏十月三日ニス／願主梁永僧／解第師筆 是觀」とあり、応永二九年（一四二二）四月八日～同年閏十月三日の期間にも、修理の作業が行われたものと考えられる。この時点では、経巻は卷子装であり、巻子の外側に近い部分の破損の修理が行われたのではないかと考えられる。

〔卷四三八奥書（同筆）〕

天平十三年歲次辛巳潤月紀伊國那賀郡御氣院寫奉知

識大般若一部六百河内國和泉郡坂本朝臣栗柄

摩訶薩普為十方苑伽沙等諸佛世界一切  
如來應正等覺大衆中歡喜讚歎作如是  
言某方某世界中某名菩薩摩訶薩普為利  
樂一切有情乘於大乘不久當得一切智智  
為天人等轉正法輪其輪世間諸聲聞等皆  
不能轉如是展轉聲遍十方人天等聞皆大  
歡喜咸作是言是菩薩摩訶薩不久當得一  
切智智轉妙法輪度无量衆

大般若波羅蜜多經卷第四百十二

此經修版广永廿九年壬刀卯月八日二始

卷 412 卷末

想於内空不起若可思議若不可思議想乃  
至於无性自性空不起若可思議若不可思  
議想於四念住不起若可思議若不可思議  
想乃至於八聖道不起若可思議若不可  
思議想如是乃至於佛十力不起若可思議若  
不可思議想乃至於十八不共法不起若  
可思議若不可思議想於一切施羅尼門不  
起若可思議若不可思議想於一切三摩地  
門不起若可思議若不可思議想於一切智  
不起若可思議若不可思議想於道相智一  
切智智不起若可思議若不可思議想是菩  
薩摩訶薩修行般若波羅蜜多乘得圓滿

大般若波羅蜜多經卷第四百十八

天平十三年歲次辛巳潤月紀伊國那賀郡御氣院寫奉知  
識大般若一部六百河内國和泉郡坂本朝臣栗柄

卷 438 卷末

②右京六條四坊上毛野君伊賀麻呂書寫卷(卷四九七)

奈良時代(八世紀)

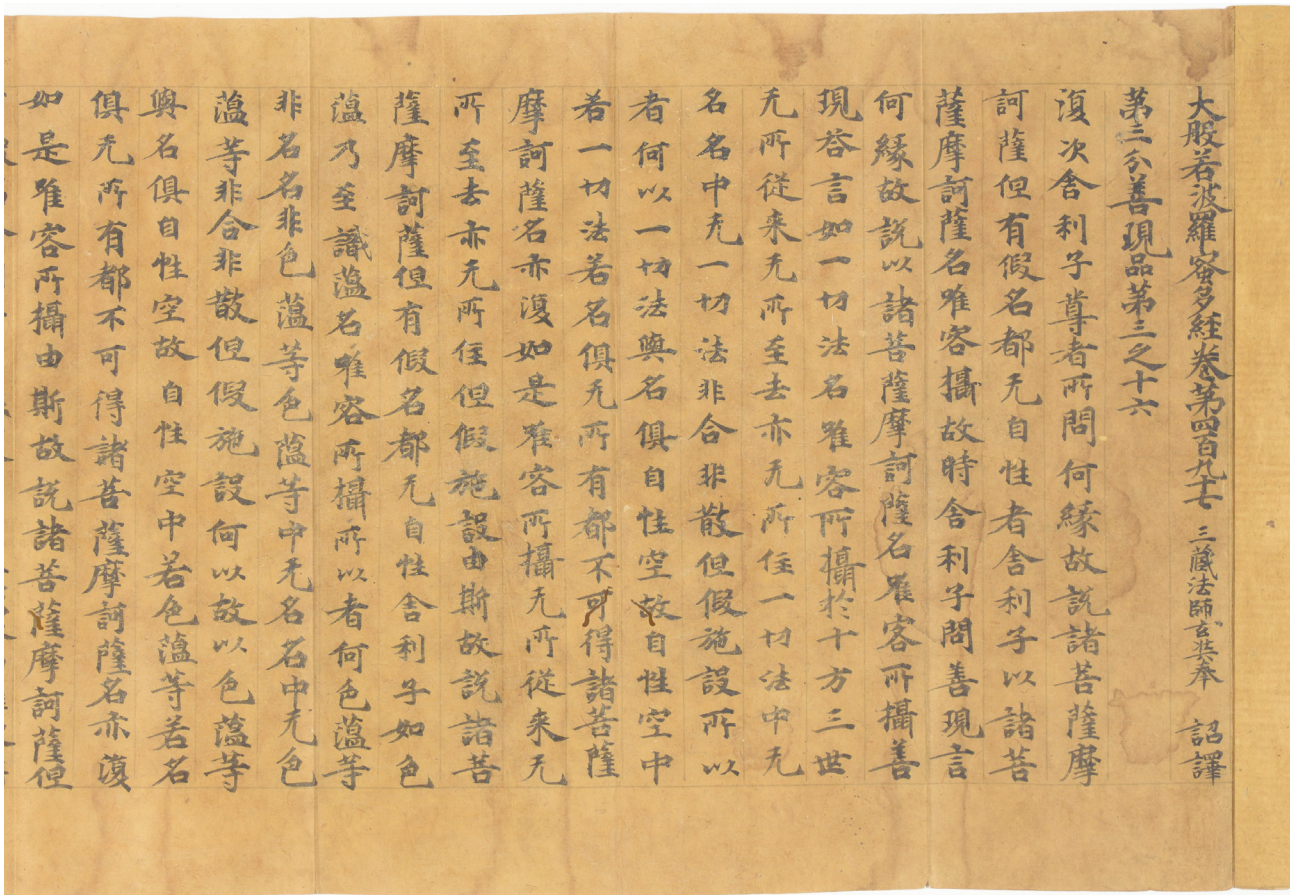
小川八幡神社経のうち、ほかに天平写経の特徴を有する巻としては、京在住の上毛野君伊賀麻呂(巻四九四・巻四九六・巻四九七)や大春日朝臣広足(巻四二三)が書写したという奥書を持つものが確認できる。これらも、首尾謹厳な楷書で書写されたもので、奈良時代の写経の特徴がよく表されている。上毛野伊賀麻呂書写巻について言えば、堅実な書風に加え、六朝風の大きな転折がみられ、「不」「切」の字をやや小振りに記すといった特徴がある。

上毛野君伊賀麻呂(上毛野公伊加万呂)は、「正倉院文書」において天平一九年(七四七)～天平勝宝二年(七五〇)ごろに、経師・校生として多く記録された人物である(2)。『南紀寺社史料』では、『日本霊異記』中巻第一一縁の紀伊国伊都郡狭屋寺(佐野寺)の説話に上毛野公大橋の名がみえ、河内国安宿郡資母郷(大阪府柏原市国分町田辺)に本貫のある上毛野公(君)氏の勢力が紀の川流域まで及んでいたという仮定の下、上毛野伊賀麻呂書写巻についても紀州ゆかりの豪族として、御毛寺知識経に関わったとする(3)。外形上の明確な差異は見出しがたいが、御毛寺知識経に上毛野君伊賀麻呂書写巻を含めてよいかは、奈良時代書写巻を対象として、より厳密な書風の類型化と料紙の分析を待たなければならない。

なお大春日朝臣広足書写巻も、上毛野君伊賀麻呂書写巻と同じ奥書の体裁となっている。大春日朝臣氏は、大和国添上郡春日郷(奈良市白毫寺町付近)の地名に由来がある一族で、初め春日臣を称し、『新撰姓氏録』によると延暦二〇年(八〇二)に大春日朝臣の姓を賜ったとする(4)。ただし、紀伊国との関わりについては不詳である。

以上のほか、小川八幡神社経には、奈良時代に書写された経巻のグループが存在する。一つは、巻三二～巻三九の経巻で、これらは各料紙の紙背に一顆ずつ単枠の「寺」黒印が捺されている。全体的に字粒が小さめで、起筆・収筆とも丁寧な楷書となっている。この一群の出所については、奥書がないため全く不詳である。

二つは、巻一〇一～巻一二〇前後の経巻で、とくに巻一〇三の奥には平安時代の筆で、「播州明石林之住人西林大夫公/大般若波羅蜜多經卷第一百三也求之」という追筆の奥書が記されており、この一群がかつて播磨国明石郡林(兵庫県明石市林、『播磨国風土記』では、「赤石郡林潮」と表記)に所在していたことが推測される。



このように、小川八幡神社に含まれる奈良時代の写経二二〇帖は、御毛寺知識経だけにとどまらない可能性が高く、さらに分析・検討する必要がある。

〔卷四九七奥書（同筆）〕

左京六條四坊上毛野伊賀麻呂寫

八聖道支若空解脫門若无相无願解脫門  
若五眼若六神通若佛十力若四无所畏四  
无礙解大慈大悲大喜大捨十八不共法  
若无忘失法若恒住捨性若一切陀羅尼門  
若一切三摩地門若一切智若道相智一切  
相智若餘无量无边佛法是謂攝入甚深般若  
若波羅蜜多餘殊善法憍尸迦是善男子善  
女人等於餘隨順甚深般若波羅蜜多蘊處  
界等无量法門亦應聽聞受持讀誦如理思  
惟不應非毀令於无上正等菩提而作留難  
大般若波羅蜜多經卷第一百三

膳川明石林之住人而森不の  
大般若波羅蜜多經卷第一百三之末

卷 103 奥書

非一切智道相智一切相智  
余時舍利子問具壽善現言仁者何緣作如  
是說色乃至識入无二法數是故名色乃至  
識如是乃至一切智道相智一切相智入无  
二法數是故名一切智道相智一切相智善  
現答言舍利子色乃至識不異无生无滅无  
生无滅不異色乃至識色乃至識即是无生  
无滅无生无滅即是色乃至識如是乃至一  
切智道相智一切相智不異无生无滅无生  
无滅不異一切智道相智一切相智一切智  
道相智一切相智即是无生无滅无生无滅  
即是一切智道相智一切相智由斯故說色  
乃至識入无二法數是故名色乃至識如是  
乃至一切智道相智一切相智入无二法數  
是故名一切智道相智一切相智  
大般若波羅蜜多經卷第一百九十七

左京六條四坊上毛野伊賀麻呂寫

卷 497 卷末

③ 一日堂一切経

(1) 清水寺蔵本 (巻六四)

平安時代 (九世紀～一二世紀)  
平安時代 寛平九年 (八九七)

(2) 一日堂弘阿弥陀祈願経 (巻五九九)

平安時代 (一二世紀)

(3) 信濃国大坂真長等願経 (巻四四五)

平安時代 仁寿三年 (八五三)

小川八幡神社経のうち、巻頭・巻末の首題・尾題下、および中間の下欄(欄脚)において(法則性のない任意の箇所、折本装に改装される際に天地辺を切断しているため、大半は下方が切れている)、中央にキリークの梵字をあらわし、左右に「一日堂一切経」の文字を配した朱文重郭方印が捺されている経巻が一三九帖含まれている。

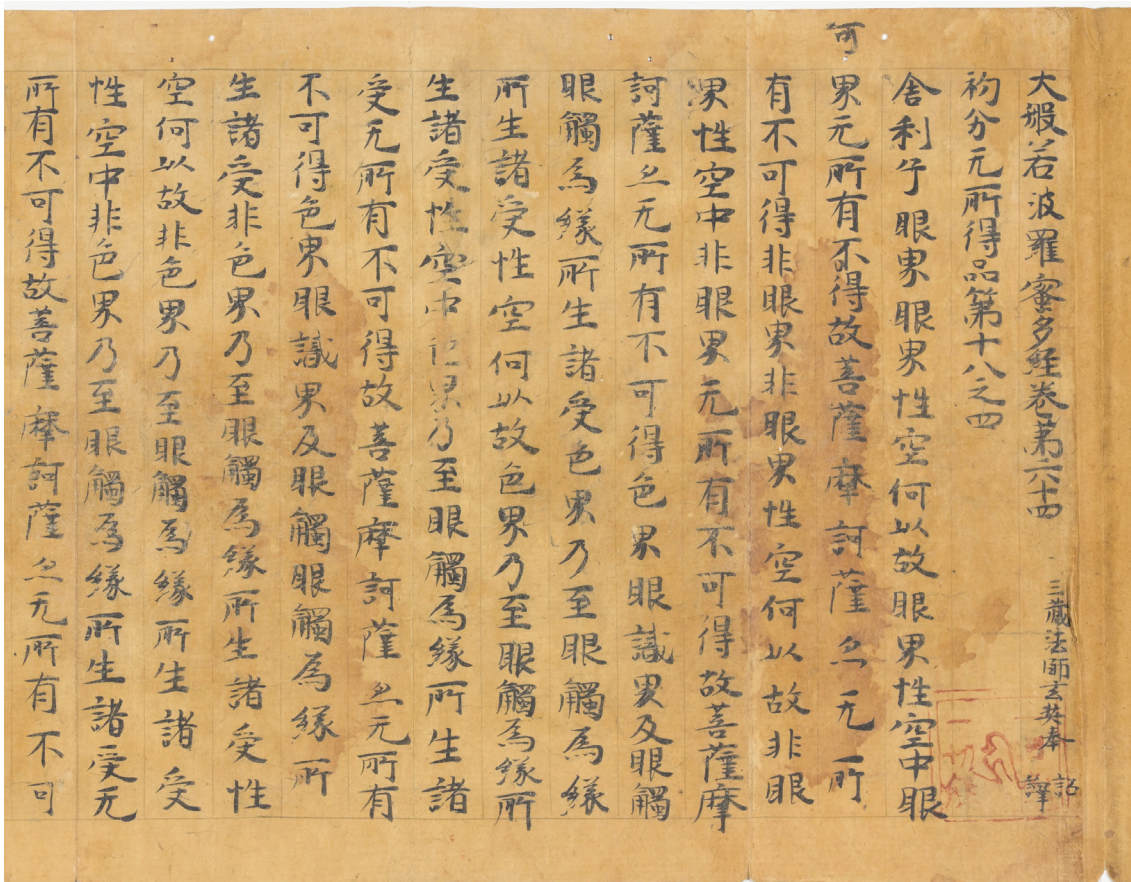
「一日堂一切経」そのもの、および一日堂については、ほとんど情報を得られておらず、また各巻の書風や書写年代にかなりのばらつきがある。現状の分析では基本的には全て平安時代書写巻であり、おそらく平安時代末ごろに取り合わされた経巻群と推測し、その一群が小川八幡神社経の重要な構成要素となったと仮定しておく。

ほとんど奥書がみられないため、この一群一三九帖を書風や料紙などにより、さらに類型化することは困難であり、今後の課題としたいが、一日堂一切経を構成する個々の経巻については、興味深いものが含まれているので、ここでは一部を紹介することにした。

まず、(1)巻六四は平安時代後期に補写された巻頭の二紙を除き、メリハリは弱い、やや小ぶりの字粒の端正な楷書で書写されており、貞観一三年(八七一)の安倍小水麻呂願経のような秀囲気を有する。巻末の寛平九年(八九七)の検定奥書および第一二・二三紙の紙背紙継上に記された墨書により、清水寺蔵本であったことが判明する。この清水寺が京都・東山の音羽山清水寺に相当する可能性も否定できないが、他の可能性を含め、不明と言うほかない。

次に、(2)巻五九九は、やや崩し気味の伸びやかかつ力強さも感じられる筆で書写された巻で、平安時代後期(一二世紀)の書写と推定される。巻首・首題下、第六紙と第一四紙の欄外、および巻末・尾題の直下に「一日堂一切経」の朱印が捺されており、巻末の朱印を取り囲むように、別筆ではあるが、ほぼ同時期の願文が記されている。それによると、「一日堂阿弥陀」とあり、この一日堂には阿弥陀如来がまつられていたことをうかがわせる貴重な情報を記している。ちなみに、巻五〇九には「南無釈迦牟尼佛」南無阿弥陀佛 建永元年五月廿日/二校了/奉讀誦佛弟子等 敬白」

という建永元年(一二〇六)の読誦奥書がみられ、釈迦如来も併記されており、さらにこの年までに一日堂一切経が集積されていたのではないかと、『南紀寺社史料』では推測している。



巻 64 巻頭

(3) 卷四五は、その奥書によると、信濃国佐久郡の郡司大坂真長一族が母刀自のために発願し、佐久郡経生丸子真智成が仁寿三年(八五三)に書写した経卷である(5)。書風は、整然とした謹厳な楷書で、石に鋭く打ちこんだような字画が特徴的である。直線的に伸びた右払いが三角形となり、鋭く尖る。「一日堂一切経」の朱印は、巻頭・巻末を含め、四顆捺されている。

京都・安楽寿院には、同じ仁寿三年の奥書(経生はそれぞれ異なる)を持つ巻四二・巻五五・巻五三・巻五八四の僚卷四帖が所蔵される(6)。この四帖には、「一日堂一切経」の朱印はみられないことから、当初信濃国で書写された大般若経は、一日堂一切経が取り合わされる前に、別々の経巻群へ分散したことがうかがわれる。

このほか、一日堂一切経に含まれる経巻のうち、興味深いものとして巻五三三があげられる。平安時代後期に書写された巻五三三には、端正な楷書の経文と同筆で、巻末に五行にわたって奥書が記されているが、意図的に擦消されており、現在では肉眼ではほとんど解読することはできない。しかし今回の調査では、赤外線フィルターを使って撮影したところ、次のように解読することができた。

維天平十五□□□□未五□□十一日佛弟子藤□女□

首和南十方諸佛□□菩薩諸□□□□孝

誠多爽怙恃□□四節有通踐之期千載无重

□之□□□□□□□□感□□□親魂路敬

□一切□□□□□□□□□□德

これは、紛れもなく、光明皇后勅願一切経のうち、第二次のものにあたる天平一五年(七四三)の「五月十一日経」と通称される一切経に共通に見られる巻末願文の前半部分に相当する(7)。何故、その願文がここに書写されたのかは明らかではないが、書写にあたっての底本が五月十一日経であった可能性をひとまず想定しておきたい。

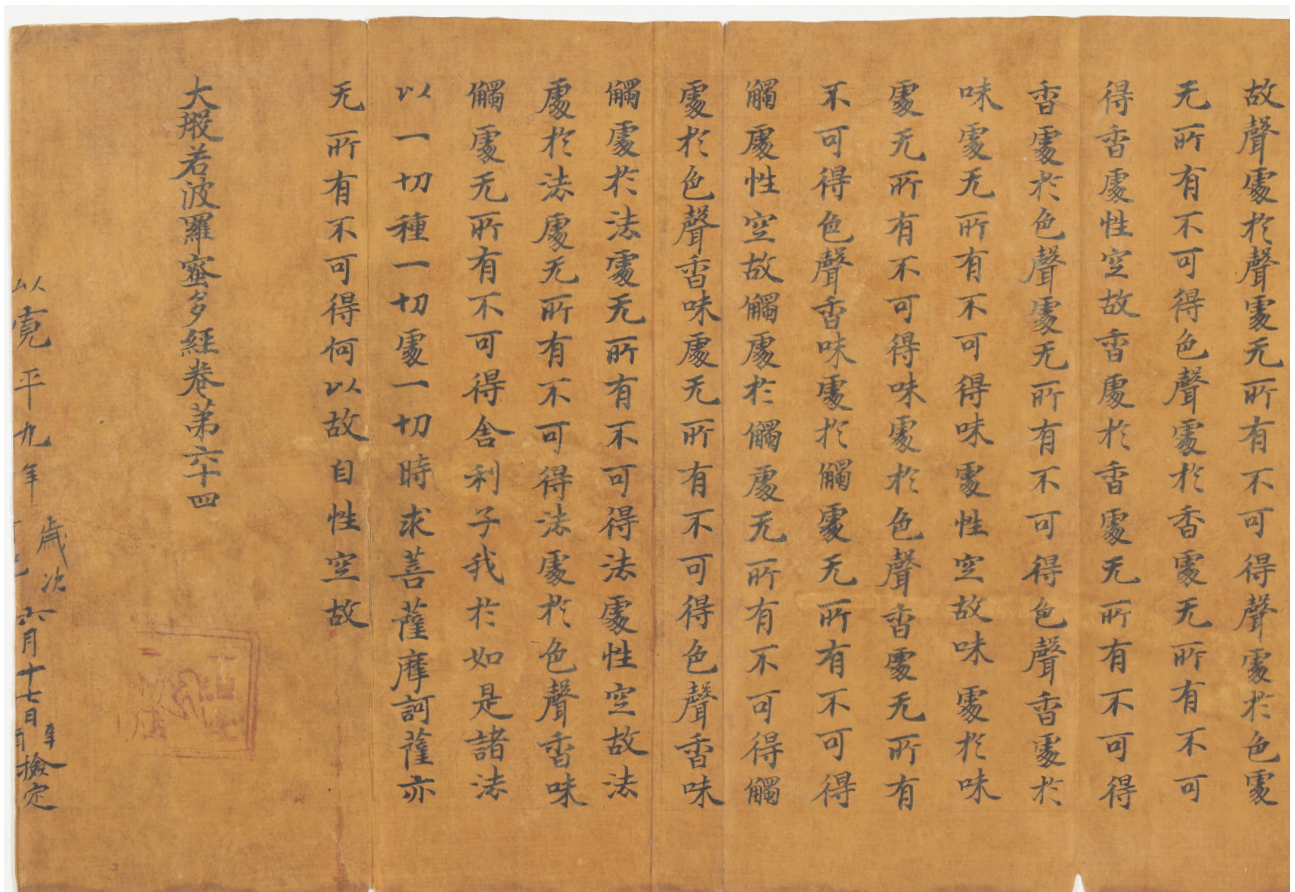
〔卷六四奥書(別筆)〕

以寛平九年(歳次丁巳)六月十七日(辛酉)檢定

(以下裏表紙下に折返) 實録如件永為清水寺藏本

〔卷六四裏書(別筆、第一・二・三紙紙背紙継上)〕

一切経部類 清水寺藏本



故聲處於聲處无所有不可得聲處於色處  
 无所有不可得色聲處於香處无所有不可  
 得香處性空故香處於香處无所有不可得  
 香處於色聲處无所有不可得色聲香處於  
 味處无所有不可得味處性空故味處於味  
 處无所有不可得味處於色聲香處无所有  
 不可得色聲香味處於觸處无所有不可得  
 觸處性空故觸處於觸處无所有不可得觸  
 處於色聲香味處无所有不可得色聲香味  
 觸處於法處无所有不可得法處性空故法  
 處於法處无所有不可得法處於色聲香味  
 觸處无所有不可得舍利子我於如是諸法  
 以一切種一切處一切時求菩薩摩訶薩亦  
 无所有不可得何以故自性空故

大般若波羅蜜多經卷第六十四

以寛平九年 歳次 六月十七日 檢定

一日堂佛阿弥陀

消滅生□之重罪

大般若

又除滅十惡五逆

無間罪行

南無阿弥陀佛

大般若波羅蜜多經卷第五百九十九

第十般若波羅蜜多分第七

三藏法師玄奘奉詔譯

復次善勇猛若諸菩薩如是學時不於色學  
若常若无常若樂若苦若空若不空若我若  
无我不於受想行識學若常若无常若樂  
若苦若空若不空若我若无我若勇猛若諸  
菩薩如是學時不於眼學若常若无常若樂  
若苦若空若不空若我若无我不於耳鼻  
舌身意學若常若乐若苦若空若不空若  
空若我若无我不於聲香味觸法學若常  
若无常若樂若苦若空若不空若我若无我

卷 599 卷頭

所緣清淨不清淨不行色過去未來現在若  
无者所緣清淨不清淨不行聲香味觸法過  
去未來現在若无者所緣清淨不清淨不行  
眼識過去未來現在若无者所緣清淨清  
淨不行耳鼻舌身意識過去未來現在若  
若所緣清淨不清淨何以故善勇猛是諸菩  
薩能行般若波羅蜜多都不見行及不行法  
善勇猛是諸菩薩都无所行善能悟入遍知  
諸行猶行般若波羅蜜多善勇猛若諸菩薩  
能如是行速能圓滿一切智法

大般若波羅蜜多經卷第五百九十九



一日堂佛阿弥陀  
消滅生□之重罪  
大般若  
又除滅十惡五逆  
無間罪行  
南無阿弥陀佛

卷 599 卷末

〔卷四四五與書（同筆）〕

仁壽三年（歲次／癸酉）二月十五日為御母刀自仕奉主政外少初位上大坂真長

主帳外少初位上大坂勝義磨

同綱好

同芳咩

戒師沙弥義藏師

經生佐久郡丸子真智成

大般若波羅蜜多經卷第四百四十五

三藏法師玄奘譯

第二分船等喻品第百九之三

尔時具壽善現復白佛言世尊住菩薩乘諸  
善男子善女人等云何无方便善巧脩行六  
波羅蜜多隨於聲聞或獨覺地不證无上正  
等菩提佛告善現有菩薩乘諸善男子善女  
人等從初發心無方便善巧故脩布施時作  
如是念我能行施我施此物彼受我施脩淨  
戒時作如是念我能持戒我持此戒我成此  
戒備安忍時作如是念我能備忍我於彼忍  
我成此忍脩精進時作如是念我能精進我  
為此精進我成此精進脩靜慮時作如是念  
我能備定我為此備定我成此定脩般若時

卷 445 卷頭

性空空中无趣无不趣故受想行識亦非趣  
非不趣何以故以受想行識性空空中无趣  
无不趣故如是乃至一切智非趣非不趣何以  
故以一切智性空空中无趣无不趣故道相智  
一切相智亦非趣非不趣何以故以道相智  
一切相智性空空中无趣无不趣故善現是  
為菩薩摩訶薩為與世間作所趣故發趣无  
上正等菩提

大般若波羅蜜多經卷第四百四十五

仁壽三年（歲次／癸酉）二月十五日為御母刀自仕奉主政外少初位上大坂真長

主帳外少初位上大坂勝義磨

同綱好

同芳咩

戒師沙弥義藏師

經生佐久郡丸子真智成

卷 445 卷末

④僧賢禪女紀氏願經（卷一一）

平安時代 承安二年（一一七二）

承安二年の僧賢禪女紀氏の願文が記されているものは一四帖あり（卷一一・一一一・四・一七・一九・五三・六九・七〇・一九八・一九九・二〇四・二〇六・二二七）、それと推測されるものが一帖みられる（卷三〇八）。筆は複数にわたるが、やや大振りな字粒で、一部力強さをみせるもののメリハリは全体的に弱く、大らかで柔らかな書風は、これらの一群に共通する。また、平安時代後期〜鎌倉時代初頭によくみられる、やや右下りの傾向を全体的にみせる点も特徴的で、ほぼ同筆といつてよいものと思われる。ただし、料紙幅や界高には若干のばらつきがみられる。

願文に見られる僧賢禪および女紀氏については、ほとんど明らかになっていない。賢禪については、天永三年（一一一二）一月二日太政官符（「東寺文書」）で、東寺威儀師に補任された人物の可能性があるが、それ以上の情報は確認できない。また、現在のところ、紀伊国との直接的な関係についても明らかではない。願文の内容もごく一般的なものであるため、書写にかかる固有の事情についても、明らかにすることができない。この一群は、平安時代後期（一二世紀）に書写された経巻として、小川八幡神社経の中では、一日堂一切経に含まれない平安時代成立の経巻の中で、一定の割合を占めている。さらに、奥書を持たない僚巻が含まれている可能性があり、今後の検討が必要である。

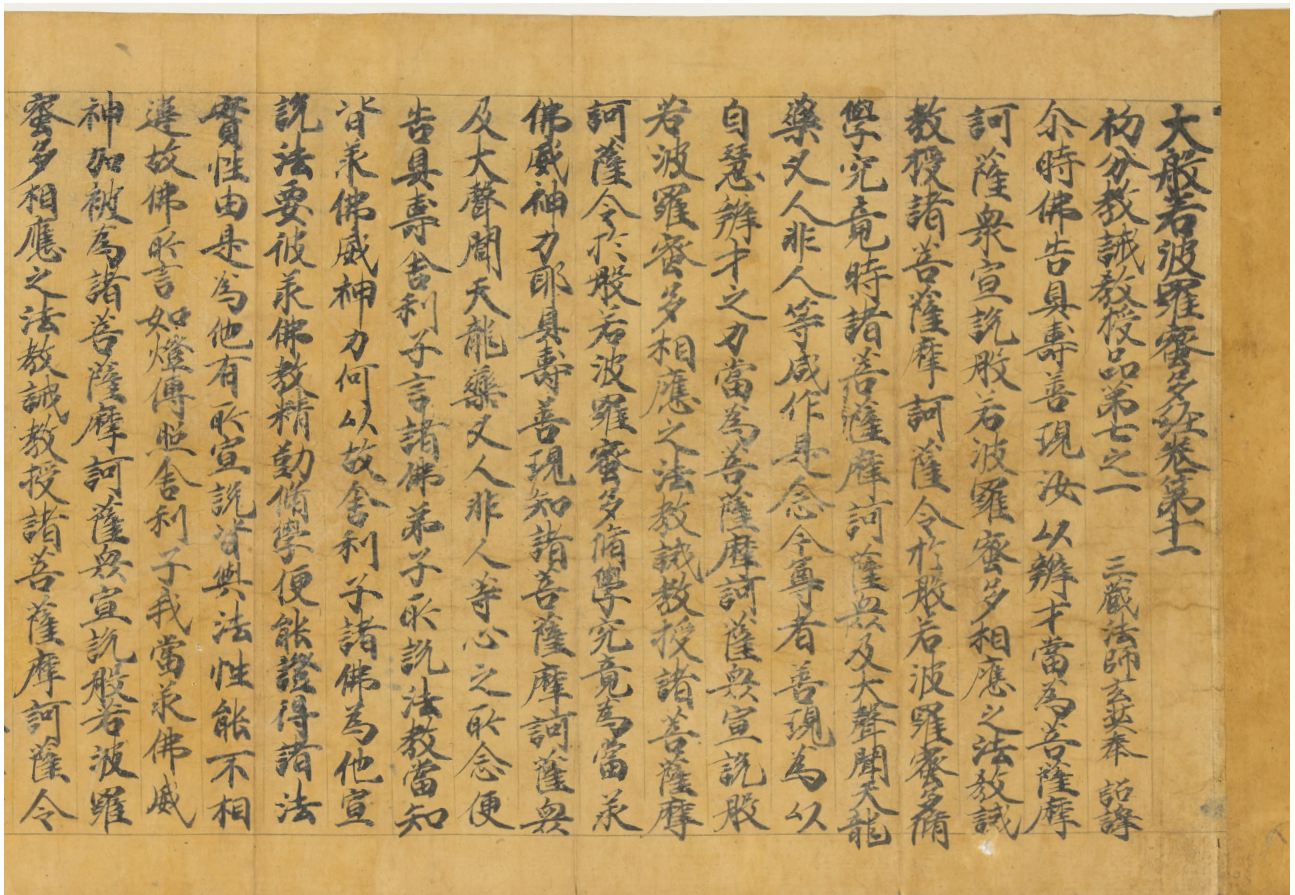
ちなみに、一日堂一切経と僧賢禪女紀氏願經を除く平安時代書写巻は、二〇二帖で、平安時代後期の年紀が奥書に記された経巻としては、「一校了／願以書寫善廻施六趣生親疎結縁等共證菩提道／天承元年七月四日天王寺西門西淨院ニテ書寫了」という、経文と同筆の奥書を持つ巻二五三と、その僚巻にあたり、「天承二年十一月四日未時計書寫畢／奉書寫意趣者僧快尋為過去慈父尊靈／往生極樂證大菩提也」という奥書を有する巻三九一があり、天承元年（一一三一）・同二年ごろの四天王寺西淨院書写巻の零巻が含まれていることが判明する。

〔卷一一校合奥書（別筆、尾題直下）〕  
一 了

〔卷一一書写奥書（同筆）〕

承安二季（壬辰）五月廿二日爲現世安穩後生善處并法界衆生普利

奉書寫願主僧賢禪女紀氏



卷 11 卷頭

實有異生實有後流一來不還阿羅漢德覺  
 菩薩摩訶薩如來應正等覺如諸聖人異  
 執不也世尊不也善逝但由顛倒思夫異  
 生有如是執佛言舍利子諸菩薩摩訶薩  
 行般若波羅蜜多方便善巧羅觀諸法皆元  
 自性都所實有而依世俗發趣无上正等菩  
 提為諸有情種種宣說令得正解遠離顛倒  
 大般若波羅蜜多經卷第一百九十一

天承元年七月四日天王寺西門西淨院書寫

卷 391 卷末

大般若波羅蜜多經卷第一百九十一  
 一  
 願望寫喜迴施六趣生 親疎結緣等 共證菩提道

天承元年七月四日天王寺西門西淨院書寫

卷 253 卷末

水火風空識界若有罪若无罪不應觀地界  
 若有煩惱若无煩惱不應觀水火風空識界  
 若有煩惱若无煩惱不應觀地界若世間若  
 出世間不應觀水火風空識界若世間若出  
 世間不應觀地界若雜染若清淨不應觀水  
 火風空識界若雜染若清淨不應觀地界若  
 屬生死若屬涅槃不應觀水火風空識界若  
 屬生死若屬涅槃不應觀地界若在內若在  
 外若在兩間不應觀水火風空識界若在內  
 若在外若在兩間不應觀地界若可得若不  
 可得不應觀水火風空識界若可得若不可得

大般若波羅蜜多經卷第十一

永安年 辰五月廿五日為現安穩後生善慶法界眾生福利  
 榮華富貴三僧具神女化

卷 11 卷末

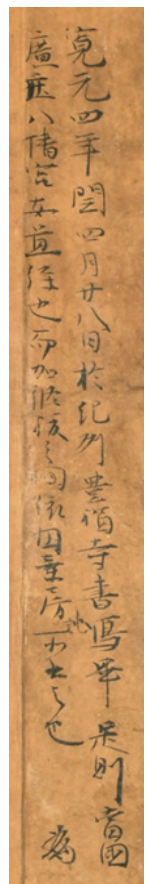
⑤賢祐・肥前房書写卷（巻四八九）

鎌倉時代 永仁二年（一二九四）

小川八幡神社経のうち、鎌倉時代に書写されたと推定される経巻は、五八帖である。一定の割合を占めるこれらの経巻には、書写に関わる奥書がほとんどみられないため、成立の事情や構成について明らかにすることは困難である。書風については、力強さと柔らかさが共存するという特徴を有するが、前時代に比べると全体的に経文の書風や界線の引き方はかなり粗雑になっていることが多い。ただし、紙継目上に界線を配置する方式は維持しており、中世後期以降の書写経のように、版経の影響を受けて、料紙の継目上に経文を書写することはみられない。

このような状況の下、巻四八九は鎌倉時代書写巻として、短文ではあるが、奥書が記されている。興味深い点としては、筆者の名が複数記されており、このことはこの群の他の巻においても、複数の筆者が書写した寄合書の経巻が多くみられることと通底する。

そのほか、今回の調査においては、巻二四四の裏表紙内に折り込まれていた修理奥書が発見された。それは、「寛元四年閏四月廿八日於紀州豊福寺書寫畢是則當國／廣八幡宮安置経也而加修復之間依円来房詔所書之也（花押）」というもので、それによると巻二四四は寛元四年（一二四六）に紀州・豊福寺で書写され、広八幡宮に安置された経巻であるという（書風などから巻二四八はその僚巻にあたる）。豊福寺とは、高野山大伝法院の覚鑿が下山して開いた根来寺（和歌山県岩出市）の前身寺院のことであり、広八幡宮は和歌山県有田郡広川町上中野に鎮座する古社で、東広荘の莊園鎮守社であった神社である。鎌倉時代・一三世紀の半ばごろは、覚鑿の没後で、大伝法院の勢力は一時期高野山上に戻っていた時期にあたるが<sup>(8)</sup>、豊福寺には大般若経が備えられており、それを底本として書写されたことがうかがわれる。結果的に、この大般若経が広八幡宮から小川八幡神社に移動したことになるが、その経緯については全く不明である。ちなみに、現在広八幡宮には南北朝～室町時代書写経を中心とした大般若経五七七帖（広川町指定文化財）が所蔵されているが、その大半はかつて石垣荘の御霊大明神（御霊神社、有田郡有田川町）旧蔵で、天正一五年（一五八七）に広八幡宮へ移されたものである<sup>(9)</sup>。おそらく、広八幡宮は鎌倉時代に大般若経を備えたことがあったことをふまえて、再び大般若経を入手したとは考えられないであろうか。



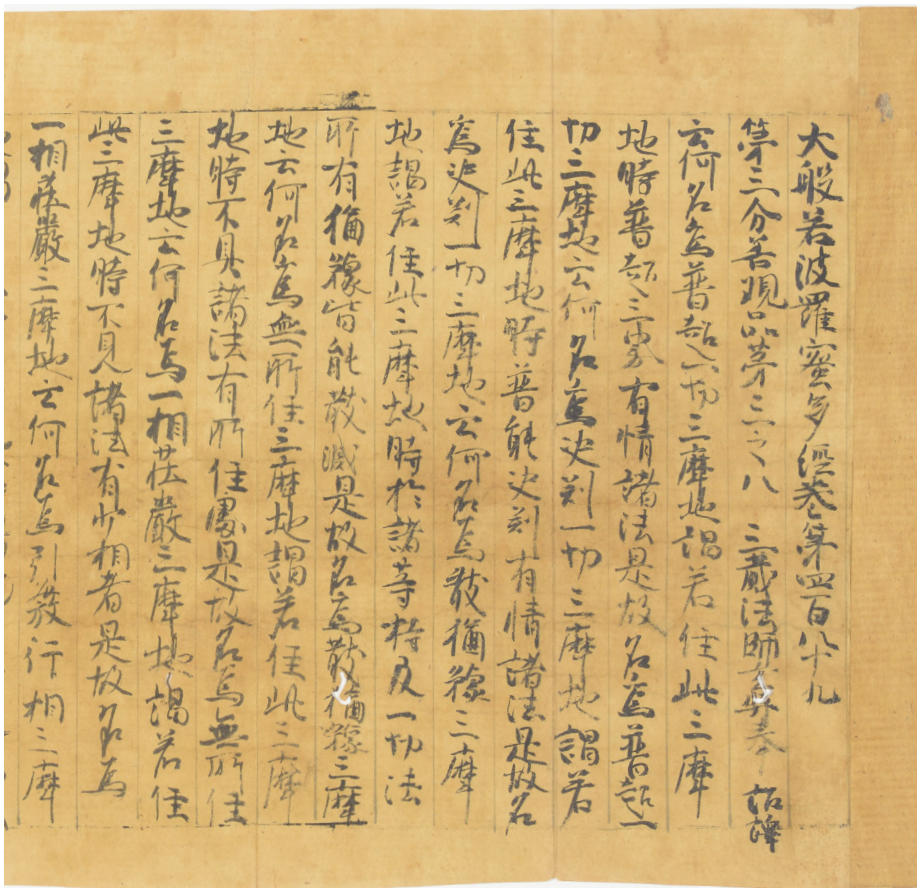
巻 244 修理奥書

〔巻四八九書写奥書（同筆）〕

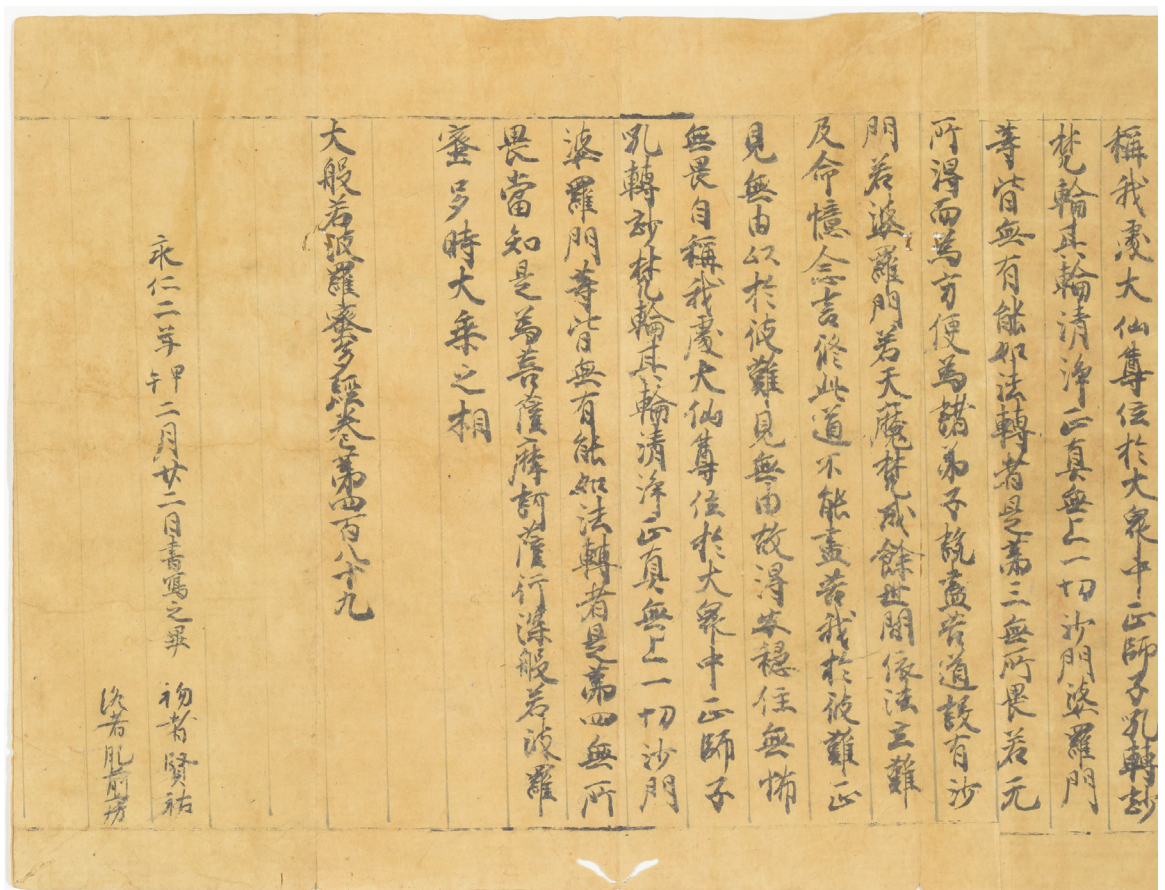
永仁二年（甲午）二月廿二日書寫之畢

初者賢祐

終者肥前房



巻 489 巻頭



卷 489 卷末

⑥ 僧阿吽書写卷（卷二九〇）

南北朝時代 弘和二年（一三八一）

小川八幡神社経を構成する南北朝時代の経卷五二帖は、一部を除き、大半が小川荘（和歌県海草郡紀美野町）に関わりのある経卷である。その数は四八帖に及ぶが、独特の書風や類似した料紙の特徴から、他の時代の経卷と区分することは比較的容易である。

この一群は、小川荘に集められた数群の大般若経において、不足している巻を、経卷の宝庫である高野山で書写したものである。年紀のある奥書で最も古いものが、弘和二年（一三八二）四月八日のもので（卷二七四、ただし江戸時代における折本装への改修により、平安時代書写巻の末尾に貼り替えられている）、同年の奥書は九月二七日のもの（卷二一四）まで、おおむね巻次の順に書写が進められたことがわかる。最も執筆僧として名前を記しているのが金剛仏子阿吽（七二歳）で、別巻に貼り替えられている分を含め、二七巻にその名がみられる。阿吽の筆は、濃い墨を用いて抑揚を少なくし、太字で字画の間を詰めた非常に個性的なものである。卷二九〇をはじめ、阿吽の書写奥書には、高野山南谷報恩院で書写したことが、勸進聖は管実という僧で、おもに小川荘の住民が願主であることが記されている（卷五五九には願主として「黒江郷覚阿」の名がみえる）。阿吽と同様に同じ年に報恩院で執筆した僧としては、阿闍梨慶然（一八巻分、七〇歳）の名がみえるほか、翌永徳三年八月に書写した梅本村在任の禅日などの名も確認できる。ちなみに報恩院は、現在も高野山西院谷にある学侶方子院で、少なくとも文明年間には南谷にあつたが、永禄八年（一五六五）に西院谷の愛染院を買得して移転したという<sup>10</sup>。

また、勸進聖管実については、平安時代後期書写巻（卷五三三）の奥に書き加えられた、次のような正平一八年（一一三六三）の施入奥書が重要である。

此経依散失自高野山大楽院百卷奉

施入由也此御經之秘計當庄坂本住人

宗達管實奉施入之所也

正平十八年十月十日 管實

大般若波羅蜜多經卷第五百五

南無天具教主釋迦牟尼

牛施入

僧寫實

卷 535 卷末

大般若波羅蜜多經卷第五百三

此經依散失自寫聖王大集院百奉奉  
 施入也此師經之致計當正取奉任人  
 宗達寫實存施入之可也

二年十月十日 寫實

卷 533 卷末

大般若波羅蜜多經卷第二百九十

初分者不着相第廿四 三藏師吳奉 詒譯

善觀菩薩摩訶薩行般若波羅蜜多時若不  
 行一切智是行般若波羅蜜多不行道相智  
 一切相智是行般若波羅蜜多不行一切智  
 若常若元常是行般若波羅蜜多不行道相  
 智一切相智若常若元常是行般若波羅蜜  
 多不行一切智若樂若苦是行般若波羅蜜  
 多不行道相智一切相智若樂若苦是行般  
 若波羅蜜多不行一切智若我若元我是行  
 般若波羅蜜多不行道相智一切相智若我  
 若元我是行般若波羅蜜多不行一切智若  
 淨若不淨是行般若波羅蜜多不行道相智  
 一切相智若淨若不淨是行般若波羅蜜多  
 何以故善觀一切智性尚元所有現有一切  
 智若常若元常若樂若苦若我若元我若淨  
 若不淨道相智一切相智性尚元所有現有一  
 道相智一切相智若常若元常若樂若苦若  
 我若元我若淨若不淨

卷 290 卷頭

これによると、筐実は経巻の不足分を高野山大楽院から一〇〇巻入手して施入した  
 ということである。この奥書が記された巻は、一日堂一切経ではないため、大楽院か  
 ら入手した約一〇〇巻の一群は、一日堂一切経以外の平安時代書写巻ということが  
 推定されよう(註)。一方、一日堂一切経の印が捺された平安時代後期書写巻である巻  
 五三五にも、筐実は「南無天恩教主釈迦牟尼如来／奉施入 僧筐実」という施入奥書  
 を書き加えていることから、別ルートで一日堂一切経の施入にも関わっていることが  
 判明する。こうしたことから、筐実は複数群に含まれていた大般若経(奈良時代書写  
 巻をも含むか)を小川荘に集積する一方、不足分を報恩院で書写するなどして小川八  
 幡神社経の基本的な構造を構築した事業を主導した人物と考えられる。なお、この奥  
 書でいう「秘計」とは、「はかりごと」ではなく、「間を取り持つておこなったこと」  
 という意味と捉えた方が妥当であろう。また、大楽院は高野山南谷に平安時代後期に  
 建立された学侶方子院であったが、元治元年(一八六四)に全焼し、現在では名跡の  
 みが谷上院谷の正智院に置かれている。

〔巻一九〇書写奥書(同筆)〕

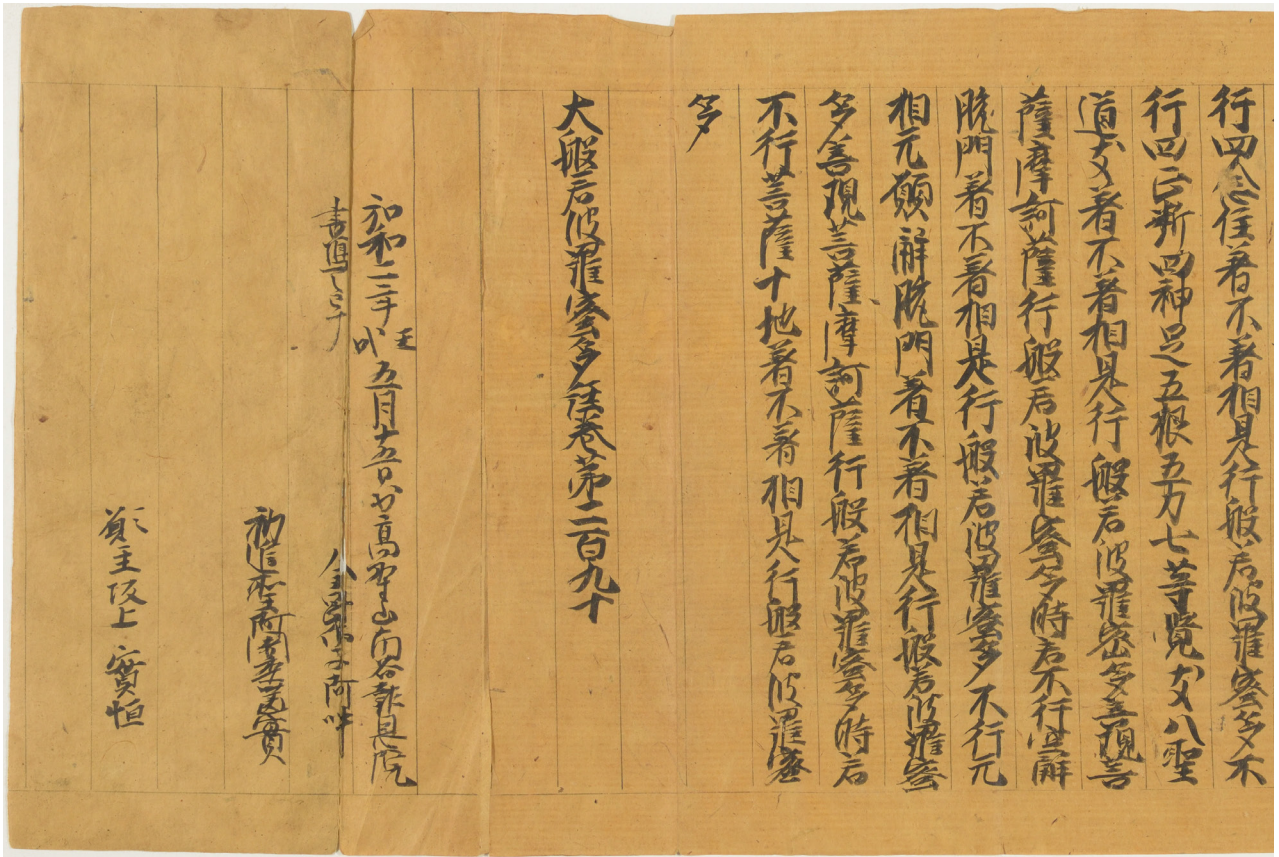
弘和二年(壬戌)五月十五日於高野山南谷報恩院

書寫之畢

金剛佛子阿吽

勸進聖阿闍梨筐實

願主坂上 實恒



行四心住者不着相是行般若波罗蜜多不  
 行四心折回神足五根五力七等觉又八聖  
 道又者不着相是行般若波罗蜜多善觀善  
 薩摩訶薩行般若波罗蜜多時者不行世解  
 脫門者不着相是行般若波罗蜜多不行元  
 相元願解脫門者不着相是行般若波罗蜜  
 多善觀善薩摩訶薩行般若波罗蜜多時者  
 不行善薩十地者不着相是行般若波罗蜜  
 多

大般若波罗蜜多经卷第二百九十

初和二年壬戌五月十五日於高野山南谷報恩院  
 書寫之畢

金剛佛子阿吽

勸進聖阿闍梨筐實

卷 290 卷末

⑦武蔵国村岡郷如意輪寺書写卷（卷三二七）

南北朝時代 嘉慶二年（一三三八）

小川八幡神社経に含まれる南北朝時代の経卷として、例外的に武蔵国村岡郷如意輪寺で書写された経卷が二帖みられる（卷三一七・五九三）。卷三一七は、字粒は大きめで、複数の筆による寄合書であるが、全体的に比較的柔らかい書風で丁寧に書写されている。

奥書によると、武蔵国村岡郷（埼玉県熊谷市）にあった如意輪寺の住僧良円房の書写にかかり、助筆として出羽国置賜郡長井荘萩生村（山形県西置賜郡飯豊町）にあつた興善寺の本妙房があつたとあり、寄合書の状況をあらわしている。

このようなかなり遠方で書写された大般若経の零卷が、経卷の取り合わせに用いられることは、それほど珍しいことではないが<sup>(12)</sup>、書写の年代からみると、南北朝時代の筐実らによる経卷集積の時期ではなく、室町時代以降に補卷されたと考えておく方が妥当であろう。

〔卷三二七書写奥書（同筆）〕

嘉慶二拾月日

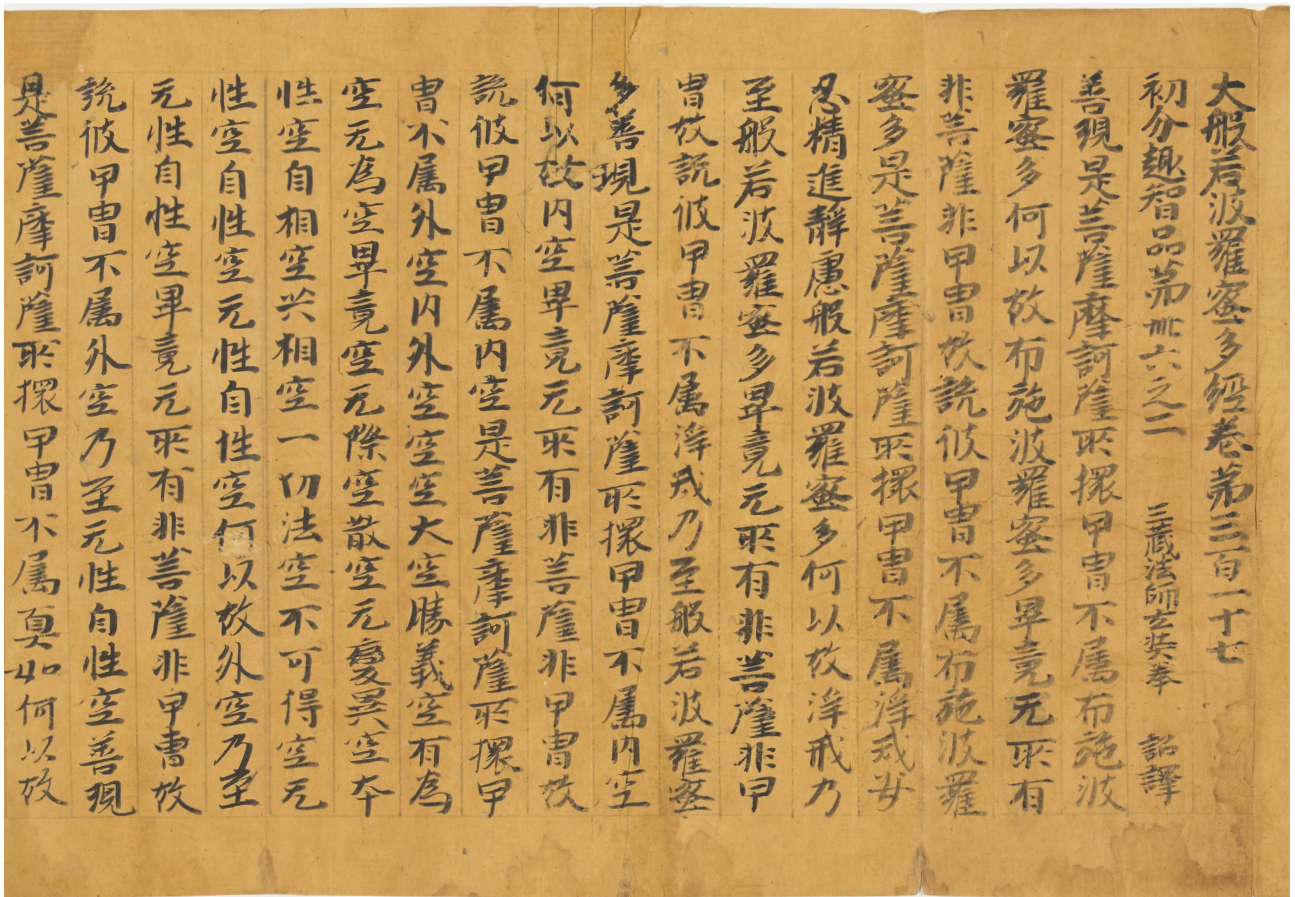
武蔵國村岡郷如意輪寺住僧

良圓房雖惡筆也為末代書寫畢

助筆出羽國置民郡長井庄

萩生村興善寺住本妙房為結

縁如鳥跡加書寫畢



卷 317 卷頭

大般若波羅蜜多經卷第三百二十七

嘉應三年拾月 日

武藏國村邊郡如意輪寺住僧

良園房雅忠筆也為末代書寫

助筆為羽國豊民郡長井庄

萩生村興善寺日本坊房為佐

邊か多所かち屋

卷 317 卷末

⑧宗碩書写卷（卷四九九）

室町時代 応永二九年（一四二二）

小川八幡神社経に含まれる室町時代書写の経卷一五帖は、全体的に貧弱で粗雑さが目立つ。界線の太さや濃さにもバラツキがみられる。その中には、応永二九年の書写奥書をもつものが二帖あり（卷一六四・四九九）、いずれも筆者は宗碩という人物である（人物の詳細は不明。室町時代の連歌師・宗碩（一四七四〜一五三三）とは、活動時期が異なり別人である）。ほかの室町時代書写卷に比べると、抑揚の少ない素朴な楷書で丁寧に書写されている。

奥書年紀の応永二九年は、小川八幡神社経の大きな画期となった年である。平安時代書写卷（卷四〇九・六〇〇）に書き加えられた修理奥書には、「奉修服口應永廿九年閏十月供養也」（卷四〇九）、「此之經ハ應永廿九年（壬寅）卯月八日ニ始同十月中ニ「願主梁永」（卷六〇〇）などあり、①のところで述べたように、奈良時代書写卷をはじめとして、応永二九年の四月から閏一〇月にかけて、大がかりな経巻修復がおこなわれたのであろう。また、現在は折本装の経巻が一〇帖ずつ収納されているトレイ状の木製経帙の中には、応永二九年九月〜閏一〇月の墨書制作銘（願主梁永、師筆是觀らの名がみられる）がほどこされ、また「此經修復應永貳拾玖年（壬寅）卯月八日始同閏十月ニヲハリツル／願主梁永」という、経巻修理に関わる墨書も記されている。

このように、応永二九年には取り合わせが完了した小川八幡神社経の修理が行われ、併せて一〇巻ずつ並べて収納するための経帙（おそらく経櫃も）が制作されたのである。ちなみに、この時点では小川八幡神社経は全巻卷子装であったものと思われるが、江戸時代の元禄一七年（一七〇四）までに折本装に改修された際、応永二九年に制作された経帙が再利用されたため、経帙の中に折帖を四列しか並べることができなくなり、二帖分がはみ出して収納時の収まりが悪くなっている。

〔卷四九九書写奥書（同筆）〕

于肯応永廿九年閏十月廿二日 書之 右筆宗碩

大般若波羅密多經卷第四百九十九

第三今天帝第四之二

三藏法師玄奘奉詔譯

復次憍尸迦若菩薩摩訶薩行深般若波羅  
蜜多時作如是觀唯有諸法更相緣助滋潤  
增長展轉周遍其中都无我及我所如實觀  
察不可得故復作是觀諸菩薩摩訶薩以所  
備集殊勝善根與諸有情平等共有迴向无  
上正等菩提集善根心不與迴向心和合迴  
向心不與集善根心和合迴向心不與善  
提心和合菩提心亦不與迴向心和合集善  
根心於迴向心中无所不可得迴向心於  
集善根心中亦无所不可得迴向心於善  
提心中无所不可得菩提心於迴向心中  
亦无所不可得諸菩薩摩訶薩雖知實觀  
諸法而於諸法都无所見憍尸迦是謂菩薩  
摩訶薩甚深般若波羅蜜多時天帝釋問善  
現言大德云何諸菩薩摩訶薩集善根心不  
與迴向心和合迴向心亦不與集善根心和

善現答言舍利子由内空乃至无性自性空  
故於此般若波羅密多甚深教中以无所  
得而為方便廣說三乘相應之法舍利子由内  
空乃至无性自性空故於此般若波羅密多  
甚深教中以无所而為方便廣說攝受諸  
菩薩摩訶薩後初發心展轉乃至第十發心  
諸菩薩道舍利子由内空乃至无性自性空  
故於此般若波羅密多甚深教中以无所  
而為方便廣說攝受諸菩薩摩訶薩神通勝  
事乃至令得一切世間寂滅妙行所以者何  
以一切法无不皆空究竟推徵不可得故

大般若波羅密多經卷第四百九十九

丁酉應永九年閏十月廿日

書之 右筆宗碩

⑨根来寺西方院融昌願經（卷二八六）

室町時代 文明四年（一四七二）

小川八幡神社経は、応永二九年（一四二二）に大がかりな整備が行われて、一具の完成された大般若経となつたものと思われるが、その後も経巻への関心は高く、維持のための営みが続けられたようである。

その一例としてあげられるのが、巻二八六である。非常に興味深いことに、巻二八六は平安時代後期に書写された巻三八六の紙背全体に、界線を引かずに大振り・肉太の力強い楷書で書写されている。その経緯は奥書によると、不足している一巻を補填するにあたり、同じ経巻を使用したのが、その判断は圖によつたということである。これを状況からみて補足すると、実は当初小川八幡神社経には、誤つて巻三八六が二巻重複して施入され（奈良時代書写巻と平安時代書写巻）、その代わりに巻二八六が欠落していたため、平安時代書写巻の紙背を再利用して、文明四年（一四七二）に根来寺西方院に依頼して巻二八六が書写されたということになる。この大般若経の構成にあつて内在していた問題が発覚し、五〇年後にそのことが解決されたことを示す興味深い事例である。

一方、平安時代後期に書写された巻三八六は、淡墨で界線を引き、抑揚があり肉付きの良い和様の筆で経文が書写されているが、第三紙後半の段落間の余白に、「蜂田寺之」という墨書が記されている（奥書はない）。蜂田寺とは堺市中区八田寺町に現存する華林寺のことで、行基開基の伝承をもつ寺院である。この華林寺において、寛治四年（一〇九〇）～五年に行心が勧進願主として書写された一切経のうち大般若経は、小川八幡神社から生石山を南へ越えた現在の有田郡有田川町二川にある丹生明神社（現在は城山神社）に室町時代前期（一五世紀初頭）に移され、江戸時代前期（一七世紀後半）には二川（安楽寺）・日物川（観音寺）・東大谷（観音寺）の三つの地区で二〇〇巻ずつ分有するようになった（いずれも和歌山県指定文化財）<sup>13</sup>。この大般若経の中には、段落間の余白に「蜂田寺之」「八田寺之」「和泉国八田寺」などという所有をあらわす墨書が記されたものが多く含まれており、小川八幡神社経の巻三八六は僚巻にあたる。ちなみに、有田川町三地区所有の大般若経において巻三八六は、二川・安楽寺に所蔵され、室町時代前期に補写された巻となつている。この室町時代前期の補写巻については、日物川・観音寺所有の巻一六八の書写奥書に「於在田湯浅庄

山田村小庵是書写畢 應永十三年丙戌 筆右妙智歳六十」とあることから、応永一三年（一四〇六）に妙智なる僧が補写したことがうかがわれる。妙智は、⑤のところで述べた広八幡宮経（旧御霊神社経）において、南北朝～室町時代の書写・校合を主導していた播磨出身の禅僧であることが判明しており（註）、これらのことは室町時代前期の大般若経の流布に関わるネットワークや関与した人びとについての、きわめて重要な情報となつている。

〔巻二八六書写奥書（同筆）〕

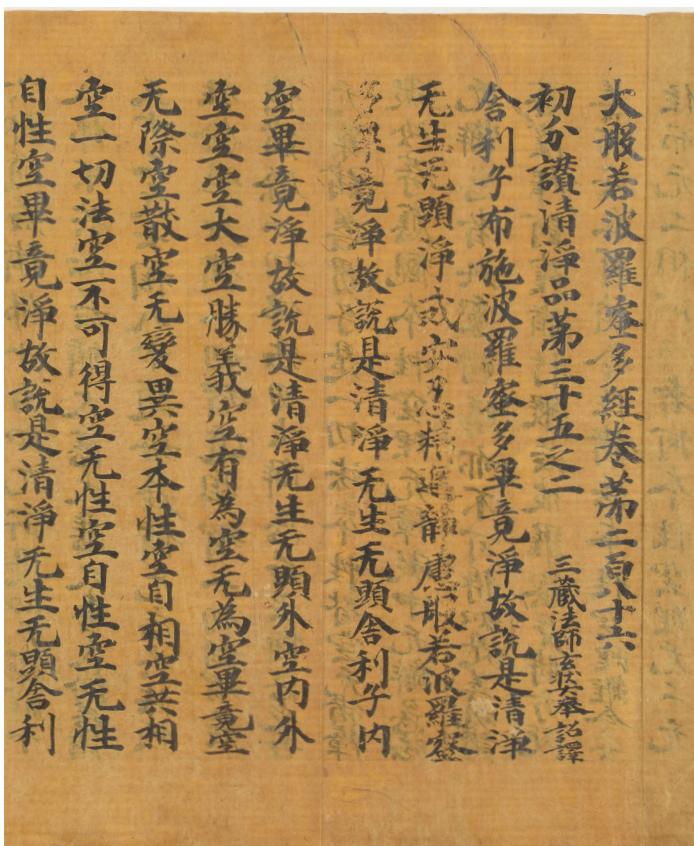
此一卷依為不足修補之次奉書寫料紙者此御經中  
依有餘奉被用之是則任御圖者也

文明四年（壬辰）八月一日 根来寺西方院

願主權少僧都融昌

同寺學徒

筆者純音房



卷 286 卷頭

清淨是畢竟淨善現我无所有故空解脫門  
 无所有是畢竟淨世尊我清淨故无相无願  
 解脫門清淨佛言如是畢竟淨故世尊何緣  
 而說我清淨故无相无願解脫門清淨是畢  
 竟淨善現我无所有故无相无願解脫門无  
 所有是畢竟淨世尊我清淨故世尊何緣清  
 淨佛言如是畢竟淨故世尊何緣而說我清  
 淨故菩薩十地清淨是畢竟淨善現我无所  
 有故菩薩十地无所有是畢竟淨  
 大般若波羅蜜多經卷第二百八十六

此一巻依為不足修補之次奉書寫新紙有藏經中  
 依有餘奉校用之是則任御關者也  
 根來寺西院  
 願主權常都督  
 同寺學徒  
 筆者純育房  
 文明四年壬辰八月一日

卷 286 卷末

昂願流果一乘不還阿羅漢果獨覺菩提  
 昂法界法界昂一乘不還阿羅漢果獨覺菩  
 提  
 善現一切菩薩摩訶薩行非法界亦不離一  
 切菩薩摩訶薩行別有法界諸佛无上正等

卷 286 紙背

⑩坂本村阿栗女願經（卷二二一）

室町時代 天文六年（一五三七）

小川八幡神社經のうち、最も新しい年紀の奥書をもつのが、卷二二一である。淡墨  
 で丁寧な界線が引かれ、肉太で字画が詰まった右上がりの個性的な筆で書写されて  
 いる。同じ筆跡は、卷二二二にも確認でき、願主として中田村住阿栗女（卷二二二）、  
 僧聖倫（卷二二二）の名がみえる。詳細は不明であるが、小川八幡神社經の整備後、  
 一〇〇年を経過して、破損が進んだ經卷の更新（新調）を地元住民の手で行ったこと  
 を物語る資料ではないかと思われる。

〔卷二二一書写奥書（別筆）〕

天文六年（丁酉） 伍月中

為心淨聖靈成仏得道之也

願主中田村住阿栗女

大般若波羅蜜多經卷第二百廿一 三藏歸玄贊奉 記譯

初分難信解品第廿四之終

復次善現法住清淨故色清淨也清淨故一  
切智智清淨何以故若法住清淨若色清淨  
若一切智智清淨无二元二分无别无新故  
法住清淨故受想行識清淨受想行識清淨  
故一切智智清淨何以故若法住清淨若受  
想行識清淨若一切智智清淨无二元二分  
无别无新故善現法住清淨故眼處清淨眼  
處清淨故一切智智清淨何以故若法住清  
淨若眼處清淨若一切智智清淨无二元二  
分无别无新故法住清淨故耳鼻舌意處清  
淨耳鼻舌身意處清淨故一切智智清淨  
何以故若法住清淨若耳鼻舌身意處清淨  
若一切智智清淨无二元二分无别无新故  
善現法住清淨故色處清淨若色處清淨故一  
切智智清淨何以故若法住清淨若色處清  
淨若一切智智清淨无二元二分无别无新

卷 221 卷頭

淨故一切菩薩摩訶薩行清淨一切菩薩摩  
訶薩行清淨故一切智智清淨何以故若  
清淨若一切菩薩摩訶薩行清淨若一切智  
智清淨无二元二分无别无新故善現實際  
清淨故諸佛无上正等菩提清淨諸佛无上  
正等菩提清淨故一切智智清淨何以故若  
實際清淨若諸佛无上正等菩提清淨若一  
切智智清淨无二元二分无别无新故

大般若波羅蜜多經卷第二百廿一

天文三列 丁 但月中

寫心淨如量耳以淨色了

兼幸田村住 卜果女

卷 221 卷末

《注》

- (1) 竹内理三・山田英雄・平野邦雄編『日本古代人名辞典 3』(吉川弘文館、一九六一年)、坂本太郎・平野邦雄編『日本古代氏族人名辞典』(吉川弘文館、一九九〇年)。
- (2) 竹内理三・山田英雄・平野邦雄編『日本古代人名辞典 2』(吉川弘文館、一九五九年)。
- (3) 藪田香融編著『関西大学東西学術研究所資料集刊二五 南紀寺社史料』(関西大学出版部、二〇〇八年)。
- (4) 佐伯有清著『新撰姓氏録の研究 本文篇』(吉川弘文館、一九六二年)。
- (5) 傳田伊史「小川八幡神社所蔵大般若経卷四四五」『長野県立歴史館研究紀要』二、一九九六年。
- (6) 傳田伊史「仁寿三年大坂氏願経―安楽寿院所蔵大般若経の資料調査を中心に―」『長野県立歴史館研究紀要』六、二〇〇〇年。
- (7) 奈良国立博物館編『奈良朝写経』(奈良国立博物館、一九八三年)、上代文献を読む会編『上代写経識語注釈』(勉誠出版、二〇一六年)。
- (8) 小山靖憲『中世寺社と荘園制』(塙書房、一九九八年)。
- (9) 竹中康彦「湯浅党の衰亡と大般若経―広八幡神社経とその歴史的背景―」『和歌山県立博物館研究紀要』二二、二〇一七年)。
- (10) 『日本歴史地名大系第三二巻 和歌山県の地名』(平凡社、一九八三年)。
- (11) 前掲注3書では、一堂一切経こそ大楽院から入手した一〇〇巻とする。
- (12) 和歌山県内の事例としては、相賀八幡神社経(橋本市)に飛騨国三枝郡袈裟寺書写経などが、龍谷寺経(かつらぎ町)に伊勢国飯野郡七見村書写経などが含まれていることが報告されている。それぞれ、竹中康彦「相賀八幡神社所蔵の大般若経について」『和歌山県立博物館研究紀要』九、二〇〇三年、同「かつらぎ町三谷・龍谷寺所蔵の大般若経について」『和歌山県立博物館研究紀要』一一、二〇〇五年)、和歌山県立博物館編『西行法師生誕九〇〇年記念特別展 西行―紀州に生まれ、紀州をめぐる―』和歌山県立博物館、二〇一八年)、参照。また、紀伊国那賀郡池田荘金剛寺経は、多数の巻が新潟県下の寺社へ移動していることが知られている。竹中康彦「紀州池田荘金剛寺経の流転」『和歌山県立博物館研究紀要』一九、二〇一三年)、参照。
- (13) 元興寺文化財研究所編『中世村落寺社の研究調査報告書』(元興寺文化財研究所、一九八九年)。
- (14) 前掲注9論文。

### 第3部 調査データ

(竹中康彦編)

〈凡例〉

- ①このデータは、「小川八幡神社大般若経カード」に記録された内容を整理・掲載したものである。ただし、年代・紙色の欄は、竹中が整理・編集した。
- ②巻次と紙数(枚)以外の数値の単位は「ミリメートル」である。
- ③各巻の紙長を代表する数値は、一般的には第2紙の寸法を用いることが多いが、あわせて最頻値(mode)も提示した。適切な数値が出ない場合には、近似する数値を括弧内で提示した。
- ④各紙長は本紙の紙継目間を測定し、見返・奥余白などは含んでいない。
- ⑤紙高・界高・界幅は、第2紙冒頭の部分を計測した。界幅は、第2紙冒頭から10行分を計測し、その平均値としている。

第25 紙長	第26 紙長	第27 紙長	第28 紙長	第29 紙長	第30 紙長	全長	紙長最頻値	紙数	罫高	罫幅	奥書など	備考	巻次
						8,455	516	17	202	18	(別巻・裏表紙見返)昭和四十八年二月八日修復了/醫王寺前住明雄諦門/七十三才	一日堂一切経朱印(3顆)	1
						9,274	487	20	203	18	(同筆・経文末)其分本	一日堂一切経朱印(6顆)	2
						8,768	468	19	204	18	(別巻奥書貼付・見返紙背)弘和二年(壬戌)四月廿七日於高野山南谷報恩院/金剛仏子阿吽(年八九)/勸進聖阿闍梨篁實	一日堂一切経朱印(4顆)	3
						8,546	467	19	205	19	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	4
						8,765	473	19	203	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	5
						9,668	475	22	203	18	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	6
						9,176	473	20	204	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	7
						9,051	472	20	204	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	8
						8,950	473	21	204	18	なし(裏表紙内に墨書)	一日堂一切経朱印(4顆)	9
						8,591	(571/452)	18	199/198	19/18	なし(尾題奥に破墨線)		10
						9,121	494	20	204	18	(別筆・尾題直下)一交了(同筆・奥書)承安二年(壬辰)五月廿二日為現世安穩後生善處并法界衆生普利/奉書寫願主僧賢禪女紀氏		11
						8,982	534	19	205	18	(同筆)承安二年(壬辰)六月二日為現當二世悉地成就/奉書寫之 僧賢禪女紀氏(別巻奥書貼付)寛治捌年九月拾壹日 為結縁藤原惟助書寫/畢為後世菩提也而已		12
						8,669	(557/496)	17	206	18	なし		13
						8,996	472	23	197	18	(同筆)承安二年(壬辰)五月廿四日為現世安穩後生善處并法界衆生/奉書寫願主僧賢禪女紀氏		14
						9,276	451	21	198	18	なし		15
						8,476	470	19	198	18	なし		16
						8,231	501	17	205	17	(同筆)承安二年(壬辰)六月八日書寫了為現當悉地成就之也/施主僧賢禪女紀氏		17
						9,641	530	19	199	18	なし		18
						8,794	551	16	207	18	(同筆)承安二年(壬辰)六月七日書寫畢為現當悉地成就也/願主僧賢禪女紀氏		19
						9,474	496	20	204	18	(尾題下、別筆)一交了		20
						9,489	447	22	199	18	なし		21
						9,680	455	22	200	18	なし		22
						8,244	455	19	200	18	なし		23
						8,706	421	22	206	19	なし		24
						9,479	490	20	207	19	なし	一日堂一切経朱印(2顆)	25
						8,406	451	19	200	18	なし		26
						8,656	491	18	207	18	なし	一日堂一切経朱印(2顆)	27
						9,457	426	23	203	19	(同筆)弘和二年(壬戌)卯月十一日於高野山南谷報恩院/書寫之畢 金剛佛子阿吽		28
						9,563	425	23	205	18	(同筆)弘和二年(壬戌)卯月十五日於高野山南谷報恩院/書寫之畢 金剛佛子阿吽/勸進聖阿闍梨篁實		29
						8,960	482	19	209	19	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	30
						9,960	494	22	210	20	なし	一日堂一切経朱印(1顆)	31
						9,684	(535/485)	19	194	19	なし	寺黒印(各紙背・19顆)	32
						9,006	524	17	194	18	なし	寺黒印(各紙背・17顆)	33
						8,824	524	18	195	18	なし	寺黒印(各紙背・17顆)	34
						9,075	524	20	195	19	なし	寺黒印(各紙背・18顆)	35
						9,777	(542/504)	19	200	18	なし	寺黒印(各紙背・19顆)	36
						10,572	514	21	210	20	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	37
						10,745	524	21	194	19	なし	寺黒印(各紙背・21顆)・不明黒印(第14紙表)	38
						10,189	544	20	193	19	なし	寺黒印(各紙背・18顆)	39
						9,352	494	20	209	21	(別巻奥書・裏表紙折込)出離生死頓證菩提現當二世悉地成就皆令満足也/永徳二年(癸亥)七月日書寫畢願主比丘尼専修/執筆梅本住侶禪日	一日堂一切経朱印(2顆)	40
5						10,440	466	25	198	18	なし		41
						8,838	426	21	214	19	(同筆)弘和二年(壬戌)卯月十日於高野山南谷報恩院為興隆/佛法利益衆生書寫之畢 金剛佛子阿吽		42
						8,973	470	20	197	18	なし		43
						9,754	(544/525)	19	203	18	(別筆)一校了	一日堂一切経朱印(6顆)・複棹黒印(第1・2紙紙継目紙背・第18紙紙背)	44
						9,407	539	18	201	19	(同筆)一校了	一日堂一切経朱印(5顆)・複棹黒印(第1・2紙紙継目紙背)	45
						9,350	541	18	202	18	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	46
						9,043	542	18	202	19	(別巻奥書貼付・裏表紙見返)奉書僧戒真	一日堂一切経朱印(6顆)	47

卷次	年代	紙色	紙高	第1紙長	第2紙長	第3紙長	第4紙長	第5紙長	第6紙長	第7紙長	第8紙長	第9紙長	第10紙長	第11紙長	第12紙長	第13紙長	第14紙長	第15紙長	第16紙長	第17紙長	第18紙長	第19紙長	第20紙長	第21紙長	第22紙長	第23紙長	第24紙長
1	平安	黄	246	474	525	517	518	516	513	516	518	512	512	513	512	513	517	514	516	249							
2	平安	黄	246	454	486	488	487	488	487	488	487	486	487	488	491	485	485	488	487	487	485	481	59				
3	平安	黄	245	413	466	468	468	470	471	469	469	470	468	469	468	463	462	467	468	469	466	404					
4	平安	黄	246	427	456	470	468	467	467	471	467	471	471	471	468	467	467	463	470	412	465	228					
5	平安	黄	246	438	473	473	473	473	471	475	475	471	473	476	474	473	472	473	472	476	474	280					
6	平安	黄	246	445	473	473	473	475	468	474	468	31	475	476	474	475	473	479	477	474	475	475	472	187			
7	平安	黄	246	440	473	475	474	472	473	474	472	474	474	473	473	473	472	472	471	473	472	471	225				
8	平安	黄	246	427	473	472	471	472	472	467	474	473	473	472	472	473	469	471	473	471	472	471	133				
9	平安	黄	244	440	473	468	475	476	473	476	475	475	476	473	468	112	352	464	471	450	469	467	466	51			
10	平安	薄黄	246	533	571	570	571	571	571	570	456	447	448	451	453	451	454	452	452	446	124						
11	平安	薄黄	246	464	496	494	494	497	496	495	495	497	497	494	494	495	496	501	494	530	533	142	17				
12	平安	薄黄	246	502	534	531	534	534	535	535	536	534	534	534	535	533	535	532	532	335	96	41					
13	平安	黄	243	472	552	557	557	557	551	556	556	553	489	497	496	494	496	472	384	430							
14	平安	黄	246	433	466	472	472	393	67	472	473	473	472	471	457	460	460	430	27	457	456	458	458	457	153	59	
15	平安	黄	245	417	468	469	469	467	469	470	470	452	467	451	451	451	452	447	452	451	450	448	447	158			
16	平安	黄	244	436	471	471	470	470	468	470	469	470	469	450	451	450	450	452	450	445	445	219					
17	平安	薄黄	246	465	500	500	501	501	502	501	502	500	501	502	501	501	505	503	502	244							
18	平安	黄	245	499	532	531	532	529	530	530	529	530	530	532	526	531	533	532	531	530	520	134					
19	平安	薄黄	246	517	548	550	551	551	551	554	550	550	551	551	549	549	551	551	570								
20	平安	薄黄	246	464	494	495	496	496	497	497	496	497	497	497	496	496	495	474	352	532	532	529	142				
21	平安	黄	246	420	456	453	455	453	456	453	455	451	448	443	447	447	447	449	448	447	451	457	452	282	219		
22	平安	黄	247	439	450	435	429	430	431	429	437	455	451	450	451	436	454	457	455	455	455	457	432	433	359		
23	平安	黄	247	429	455	455	454	455	457	455	456	455	452	457	452	434	430	452	450	450	395	201					
24	南北朝	薄黄	246	411	420	400	421	417	412	425	421	415	414	410	418	428	426	416	421	422	383	385	383	329	129		
25	平安	黄	246	447	487	489	490	489	490	488	490	490	490	492	489	487	488	488	487	486	488	488	236				
26	平安	黄	244	451	475	473	472	472	475	473	452	435	451	433	432	430	449	450	451	450	447	235					
27	平安	黄	243	452	486	490	493	491	492	495	491	492	495	491	491	495	495	497	494	477	339						
28	南北朝	黄	247	408	426	422	421	422	423	420	422	426	419	426	420	423	426	423	433	425	424	423	425	408	408	184	
29	南北朝	薄黄	247	398	424	424	418	425	392	425	408	410	428	416	425	423	422	425	422	420	395	390	410	409	428	426	
30	平安	濃黄	244	445	479	480	482	482	483	481	482	483	482	483	482	482	480	483	482	481	325						
31	平安	黄	247	454	494	494	494	494	494	492	493	493	492	494	494	493	494	492	492	490	489	471	272	28	357		
32	奈良	薄黄	246	513	535	533	536	536	535	523	523	519	520	521	521	486	480	483	485	485	483	467					
33	奈良	薄黄	247	522	545	545	545	545	545	523	524	525	524	524	524	524	524	524	520								
34	奈良	薄黄	246	515	534	534	535	534	537	523	524	522	520	521	524	526	445	80	524	524	402						
35	奈良	薄黄	245	514	534	534	534	535	535	524	520	524	477	46	524	524	515	525	498	26	480	479	227				
36	奈良	黄	243	521	542	541	541	542	542	524	524	524	524	504	504	504	504	503	502	503	502	426					
37	平安	濃黄	246	473	513	515	513	513	514	515	515	512	512	514	517	514	514	514	514	520	520	513	494	343			
38	奈良	黄	247	523	544	543	544	544	545	524	525	524	525	525	524	524	525	526	482	482	484	482	483	367			
39	奈良	薄黄	241	522	543	541	542	543	544	544	544	544	544	544	544	544	544	543	544	402	482	481	150				
40	平安	黄	246	450	492	494	493	494	496	494	499	495	495	495	492	494	490	472	472	461	474	472	128				
41	平安	濃黄	247	411	451	472	471	467	472	447	448	448	469	466	466	468	469	471	473	466	470	468	468	442	301	282	169
42	南北朝	薄黄	246	410	426	426	411	429	425	420	418	430	429	425	409	424	422	421	419	422	423	426	427	396			
43	平安	濃黄	243	464	471	471	470	458	457	458	458	457	465	470	469	469	470	468	467	470	467	354	240				
44	平安	黄	247	508	544	543	544	545	546	549	525	520	523	524	525	526	525	520	527	522	515	223					
45	平安	黄	246	483	539	543	539	540	541	541	541	537	541	539	545	539	543	538	543	514	301						
46	平安	黄	247	502	542	540	541	544	542	542	545	543	541	541	541	537	533	518	540	457	301						
47	平安	黄	248	503	536	544	532	537	542	542	543	542	535	541	511	564	473	542	492	492	72						

第25 紙長	第26 紙長	第27 紙長	第28 紙長	第29 紙長	第30 紙長	全長	紙長最頻値	紙数	野高	野幅	奥書など	備考	巻次
						9,473	(500/542)	19	202	19	なし	一日堂一切経朱印(6顆)	48
						9,916	547	19	204	18	なし	一日堂一切経朱印(6顆)	49
						8,484	542	16	203	19	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	50
						7,901	453	18	199	18	なし		51
						—	—	—	199	18		計測不能	52
						—	—	—	208	18	(別筆)一交了(同筆)承安二年(壬辰)五月廿六日為現當二世悉地成就也奉書寫/願主口賢禪女紀氏	計測不能	53
						—	—	—	198	18		計測不能	54
						6,606	454	15	196	18	なし	第16紙以下計測不能	55
						8,930	434	21	200	18	なし		56
						—	—	—	205	17	なし	一日堂一切経朱印、第5紙以下計測不能、首題下「贊」字	57
						10,142	510	20	204	21	なし	一日堂一切経朱印(1顆)	58
						—	450	19	198	18	なし	第5～11紙計測不能	59
						—	—	—	205	20	なし	計測不能、首題下「贊」字	60
						8,435	472	18	200	18	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	61
						8,273	411	21	200	18	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	62
						9,041	504	20	203	18	なし		63
						9,370	514	19	205	20	(別筆・裏表紙下折返)以寛平九年(歳次/丁巳)六月十七日(辛酉)檢定/實録如件永為清水寺藏本(第12・13紙紙継裏書)一切経部類清水寺藏本	一日堂一切経朱印(3顆)、第12・13紙紙継紙背上部に朱方印	64
						9,390	504	19	201	18	(別筆)一交了		65
						8,587	488	18	201	18	なし		66
						9,410	473	20	205	20	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	67
						8,328	508	17	205	18	(別筆)源譽	一日堂一切経朱印(4顆)、各料紙紙背右端中央に「勝」字	68
						9,116	550	18	205	18	(同筆)承安二年(壬辰)六月九日書寫了為現當悉地成就也/願主僧賢禪女紀氏		69
						9,435	499	21	206	17	(同筆)承安二年(壬辰)六月十日書寫了為現當悉地成就也/願主僧賢禪女紀氏		70
						8,889	450	20	196	18	なし		71
						7,796	(445/433)	19	198	18	なし		72
						8,447	470	19	198	18	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	73
						8,556	530	17	205	18	なし		74
						8,128	450	19	198	18	なし		75
						7,642	480	16	—	—	なし	一日堂一切経朱印(2顆)、無界	76
						8,471	423	21	206	19	(同筆)弘和二年(壬戌)卯月十七日於高野山南谷報恩院/金剛佛子阿吽		77
						8,204	450	19	197	18	なし		78
						8,802	420	21	205	19	(同筆)弘和二年(壬戌)五月二日於高野山南谷報恩院/金剛佛子阿吽/勸進聖阿闍梨筐實		79
						8,384	450	19	198	18	なし		80
						8,102	(1,660)	5	199	17	なし	長尺紙	81
						7,895	(513/455)	17	203	18	なし	一日堂一切経朱印(5顆)、尾題紙背複枠黒印(傾斜)	82
						8,264	525	16	207	19	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	83
						8,419	498	18	209	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	84
						8,368	527	16	207	18	(別筆)校了	一日堂一切経朱印(4顆)	85
						8,228	452	19	194	18	なし		86
						8,041	451	19	198	18	なし		87
						8,647	427	21	205	19	(同筆)弘和二年(壬戌)四月十九日於高野山南谷報恩院/書寫之畢金剛佛子阿吽/勸進聖阿闍梨筐實		88
						8,406	435	20	198	18	なし		89
						8,250	434	19	196	18	なし		90
427	422					8,705	437	26	200	17	なし		91
						8,542	373	24	208	18	なし		92
						7,881	528	15	205	18	なし		93
						9,009	519	19	205	19	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	94
						8,202	515	19	206	18	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	95
						7,480	477	16	198	17	なし		96
						7,923	477	17	197	17	なし		97
						8,562	463	22	199	18	なし		98
						8,600	492	18	198	16	なし		99
						8,097	545	15	195	17	(別筆・裏表紙折込)願者以書寫功德為法界一切衆生也		100
						7,885	538	15	208	18	なし		101
						7,681	553	14	197	17	なし		102

卷次	年代	紙色	紙高	第1 紙長	第2 紙長	第3 紙長	第4 紙長	第5 紙長	第6 紙長	第7 紙長	第8 紙長	第9 紙長	第10 紙長	第11 紙長	第12 紙長	第13 紙長	第14 紙長	第15 紙長	第16 紙長	第17 紙長	第18 紙長	第19 紙長	第20 紙長	第21 紙長	第22 紙長	第23 紙長	第24 紙長
48	平安	黄	247	477	500	500	499	500	540	542	542	540	540	465	545	543	542	546	545	541	506	60					
49	平安	黄	247	506	542	541	543	547	547	547	543	540	541	536	542	545	547	545	543	532	473	256					
50	平安	黄	245	500	541	540	543	542	543	545	543	541	542	537	542	536	541	542	406								
51	平安	黄	244	450	453	456	454	453	453	454	455	453	452	453	452	453	452	453	452	453	200						
52	平安	黄	242																								
53	平安	薄黄	242																								
54	平安	薄黄	244																								
55	平安	黄	248	417	465	454	456	433	434	433	432	449	434	431	453	430	431	454									
56	平安	薄黄	247	434	452	454	450	457	450	430	432	434	449	450	431	426	434	451	432	437	453	452	451	71			
57	平安	濃黄	240	434	469	470	464																				
58	平安	濃黄	242	463	508	507	506	510	510	510	511	513	512	504	510	520	510	510	510	510	510	506	502				
59	平安	薄黄	246	450	454	454	454	-	-	-	-	-	-	-	434	432	456	450	450	450	446	385					
60	平安	濃黄	230																								
61	平安	薄黄	238	439	473	472	472	472	472	474	475	473	475	473	473	472	469	471	472	474	434						
62	平安	薄黄	241	375	411	412	413	413	412	412	412	411	411	412	413	410	410	411	411	411	409	412	409	83			
63	平安	濃黄	245	468	504	504	505	503	503	505	504	504	500	504	507	503	378	33	122	504	505	505	480				
64	平安	薄黄/ 濃黄	243	503	456	499	514	515	516	516	516	516	517	517	517	520	514	514	514	515	513	178					
65	平安	濃黄	246	464	504	503	504	503	501	498	503	488	488	504	506	504	504	505	502	503	500	406					
66	平安	濃黄	245	454	488	491	481	487	499	487	485	481	485	490	496	488	493	488	490	484	320						
67	平安	黄	240	433	475	480	480	478	472	480	477	478	478	470	473	473	472	472	473	483	473	473	417				
68	平安	薄黄	241	405	508	508	510	508	507	510	508	505	507	509	508	508	510	509	508	300							
69	平安	薄黄	246	516	552	549	549	551	551	551	549	550	550	550	550	105	531	531	531	532	318						
70	平安	薄黄	242	461	499	498	497	496	499	499	500	500	502	143	339	500	498	499	498	501	500	498	462	46			
71	平安	薄黄	246	418	444	444	436	435	445	447	448	450	448	448	448	450	450	450	450	450	445	450	433				
72	平安	薄黄	243	429	446	445	445	445	445	445	447	445	453	450	430	433	435	432	433	433	275	30					
73	平安	薄黄	239	443	470	472	360	473	470	473	474	473	435	470	470	435	437	435	437	438	420	362					
74	平安	薄黄	240	510	548	545	545	545	535	555	530	533	530	530	530	530	530	530	110	420							
75	平安	薄黄	246	430	450	450	450	450	450	450	450	400	440	450	450	450	450	450	450	450	450	108					
76	平安	薄黄	238	440	480	480	480	470	475	450	474	509	483	483	473	493	472	470	510								
77	南北朝	黄	246	405	423	425	422	427	423	423	420	423	425	425	423	420	427	425	425	424	423	420	423	20			
78	平安	薄黄	246	435	453	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	454	455	450	107					
79	南北朝	黄	247	400	420	422	423	420	420	423	423	420	427	420	422	423	423	420	423	422	425	424	425	377			
80	平安	黄	244	428	448	450	448	448	453	453	450	452	448	453	454	453	457	450	452	450	450	287					
81	平安	濃黄	242	1640	1669	1659	1660	1474																			
82	平安	黄	240	476	507	513	515	513	512	512	511	514	517	455	456	454	455	458	460	67							
83	平安	薄黄	239	515	525	526	526	525	533	533	530	528	529	530	529	524	525	531	355								
84	平安	薄黄	241	481	499	498	499	499	498	500	501	503	501	498	498	493	497	497	498	382	77						
85	平安	黄	236	510	527	531	527	524	528	524	528	525	523	527	526	526	528	526	488								
86	平安	黄	247	403	438	450	439	436	434	452	450	449	447	449	452	451	452	451	452	452	434	237					
87	平安	黄	245	403	438	451	436	438	436	450	453	452	451	450	452	451	449	449	451	447	445	39					
88	南北朝	薄黄	246	398	416	419	427	427	427	425	421	421	425	424	425	426	427	426	420	423	422	424	422	202			
89	平安	黄	246	403	435	435	436	435	434	435	434	435	434	435	435	432	433	432	433	433	431	427	199				
90	平安	黄	246	418	434	437	441	438	437	432	433	434	433	432	434	434	432	432	437	434	431	447					
91	平安	薄黄	244	231	459	460	115	89	211	255	196	103	140	185	174	438	437	437	437	440	435	429	436	437	438	436	438
92	平安	黄	245	313	369	373	370	372	372	367	371	371	369	372	372	371	371	373	367	373	373	373	372	373	372	388	45
93	平安	薄黄	243	452	528	529	529	528	528	517	542	547	548	548	548	547	546	444									
94	平安	濃黄	237	471	516	514	519	515	515	283	232	519	519	521	521	522	521	522	520	522	518	239					
95	平安	濃黄/ 薄黄	243	480	515	518	516	515	515	515	512	514	515	381	468	127	464	418	506	278	222	223					
96	平安	濃黄	242	443	478	477	477	477	477	491	491	491	489	489	489	487	491	490	243								
97	平安	濃黄	244	444	476	476	477	477	477	475	477	474	475	478	480	480	479	477	478	323							
98	平安	濃黄/ 黄	243	441	467	467	463	461	470	463	464	73	238	138	466	460	462	462	460	465	16	442	460	463	261		
99	平安	濃黄	244	458	492	492	492	492	491	491	491	491	493	490	480	480	499	477	480	480	331						
100	鎌倉	薄黄	240	527	548	545	546	547	545	546	550	546	550	541	547	545	544	470									
101	平安	濃黄	242	515	556	556	554	534	535	538	532	532	536	535	538	538	520	366									
102	奈良	濃黄	246	530	553	553	554	555	552	554	559	560	563	560	563	561	464										

第25 紙長	第26 紙長	第27 紙長	第28 紙長	第29 紙長	第30 紙長	全長	紙長最頻値	紙数	罫高	罫幅	奥書など	備考	巻次
						7,559	562	14	197	17	(別筆)播州明石林之住人西林大夫公/大般若波羅蜜多經卷第一百三也求之(別筆・裏表紙折込)あらく(以下10文字程度)		103
						7,830	524	16	197	18	なし		104
						7,246	565	15	196	17	なし	第1紙(5行分)後補(平安)	105
						8,055	435	21	203	18	なし	第1紙(1行分)後補(南北朝)	106
						8,253	525	16	198	18	なし		107
						7,617	482	17	204	17	なし	首題下「贊」字	108
						7,863	466	17	208	18	なし		109
						8,802	436	22	206	18	なし		110
						7,524	541	14	195	17	なし		111
						7,744	566	14	196	17	(別筆・墨滅)天文六〇(□□)安居人中(□□/□□)		112
						7,833	568	18	196	16	なし	1~6紙後補(平安・無界)	113
						7,894	478	18	207	19	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	114
						8,520	(479/442)	19	207	19	なし	一日堂一切経朱印(2顆)	115
						7,157	572	13	205	17	なし		116
						7,686	557	15	195	17	なし	1~3紙後補(平安・無界)	117
						6,963	570	13	198	17	なし		118
						7,661	505	16	194	17	なし		119
						7,768	555	14	195	17	(別筆・裏表紙折込)此経解第一番/广永廿九年(壬寅)閏十月		120
						8,174	(458/508)	17	208	18	なし		121
						8,239	507	17	196	18	なし		122
						8,136	521	17	198	17	(別筆・巻頭端裏)一百廿三		123
						8,366	506	17	199	18	なし		124
						8,083	503	17	198	18	なし		125
						7,832	503	16	198	18	なし		126
						8,501	520	17	197	18	なし		127
						7,136	508	17	198	17	なし	第1~2紙後補(平安・無界)	128
						7,088	567	13	194	17	なし		129
						7,523	508	15	198	17	(別筆・巻頭端裏)十		130
						7,570	511	15	204	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	131
						8,133	508	17	200	17	なし		132
						6,519	521	13	198	17	なし		133
						7,375	562	13	195	17	なし		134
						7,034	562	13	198	17	なし		135
						7,565	562	14	198	17	なし		136
						7,566	510	15	197	17	なし		137
						7,427	552	15	197	17	(別筆・裏表紙折込)大般若經	第1紙後補(平安・無界)	138
						7,203	568	13	195	17	なし		139
						7,643	518	16	203	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	140
						7,755	475	17	210	18	(別筆)此経解第一等仁書寫 筆主是歡/广永廿九年壬月閏十月日	一日堂一切経朱印(3顆)	141
						8,015	500	16	208	17	(別筆)一交了(別筆・裏表紙裏)願以此功德普及於一切我等与衆生		142
						8,531	480	18	211	19	(別筆・裏表紙折込)二百五内	一日堂一切経朱印(3顆)	143
						8,018	488	17	210	19	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	144
						8,049	504	18	207	17	(別筆)一交了(別筆・裏表紙折込)二百五内		145
						7,436	535	14	206	18	なし		146
						8,222	492	18	206	19		(裏表紙打付)般若経卷第四百四ノ般若経卷第三百三十五	147
						8,573	460	20	206	18	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	148
						8,236	458	18	207	20	なし	一日堂一切経朱印(2顆)	149
						7,874	501	16	207	17	(別筆)一交了 國見寺		150
						7,654	476	17	198	18	なし		151
						8,059	476	18	197	18	なし		152
						8,252	(473)	23	199	18	なし		153
						7,742	562	15	196	16	なし	巻頭1紙後補(平安)	154
						7,289	486	17	198	18	なし		155
						7,351	580	13	197	17	なし		156
						7,673	504	15	206	18	なし		157
						7,138	589	13	197	17	なし		158
						8,584	476	19	201	18	なし		159
						6,346	557	13	194	16	なし	第1紙後補(平安)	160
						9,765	513	19	210	20	なし		161
						8,603	534	17	208	20	なし		162
123						9,221	468	25	212	22	(第1紙裏打紙上)□□ □米□□/勸進	寄合書	163
						8,096	385	22	202	19	(同筆・裏表紙折込)應永廿九年十月日 右筆宗碩 書之	紙継上書写	164
						8,592	(470/446)	20	200	18	なし	宝塔形裏黒印(第4・19紙)・裏花押(第3紙)	165
						9,701	467	22	206	20	なし		166
						8,146	547	16	202	19	なし	寄合書	167
						8,191	513	16	203	19	なし		168
						9,337	492	21	201	19	なし	ほぼ各紙背に「国」黒印・寄合書	169



第25 紙長	第26 紙長	第27 紙長	第28 紙長	第29 紙長	第30 紙長	全長	紙長最頻値	紙数	罫高	罫幅	奥書など	備考	巻次
						8,386	(547/511)	19	202	19	なし		170
						7,563	566	14	196	16	なし		171
						7,772	570	14	197	17	なし		172
						7,572	558	15	196	17	なし	第1・2紙後補(平安)	173
						7,505	547	14	194	17	なし		174
						7,883	560	15	192	17	なし		175
						7,760	564	16	193	17	なし		176
						9,236	543	18	203	18	なし	一日堂一切経朱印(5顆)	177
						8,069	485	17	202	17	なし	一日堂一切経朱印(1顆)	178
						8,844	540	17	193	17	なし		179
						8,313	511	17	198	17	なし		180
						9,533	521	19	206	19	なし	一日堂一切経朱印(6顆)	181
						8,331	478	18	207	19	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	182
						8,068	579	16	202	19	なし	首題下「賛」字	183
						7,616	478	16	207	19	なし	一日堂一切経朱印(5顆)	184
						8,487	477	18	205	19	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	185
						8,430	477	18	207	18	なし	一日堂一切経朱印(5顆)	186
						8,655	458	20	211	19	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	187
						8,578	476	19	206	18	なし	一日堂一切経朱印(5顆)	188
						7,134	454	16	206	19	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	189
						8,224	502	17	206	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	190
						8,365	472	19	212	19	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	191
						8,464	481	18	216	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	192
						7,767	481	17	214	18	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	193
						7,323	461	17	202	16	なし		194
						7,136	464	16	203	17	なし		195
						8,885	478	20	198	19	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	196
						7,771	535	16	207	19	(同筆)校了	一日堂一切経朱印(1顆)	197
						7,648	500	16	208	18	(同筆)承安二年(壬戌)六月廿五日書寫了為現當并法界群生也/願主僧賢禪女紀氏		198
						8,132	(496/512)	18	212	17	(同筆)承安二年(壬戌)七月三日書寫了為現當并法界衆生/願主僧賢禪女紀氏		199
						6,479	465	15	202	16	なし		200
						7,991	520	16	212	19	なし		201
						7,976	424	20	206	19	なし		202
						8,567	422	21	205	19	なし		203
						7,218	570	15	210	19	(同筆)承安二年(壬戌)七月十二日書寫了為現當并一切衆生也/僧賢禪女紀氏		204
						7,966	570	15	212	19	(同筆)承安二年(壬戌)七月九日書寫了為現當并一切群類也/僧賢禪女紀氏	(裏表紙打付)大般若經卷第三百二十	205
						8,239	527	18	209	18	(同筆)承安二年(壬戌)七月五日書寫了為現當并三有法界也/願主僧賢禪女紀氏		206
						8,139	477	18	211	18	なし	(裏表紙打付)大般若經卷第五百九十	207
						8,796	430	21	205	20	(同筆)為二親成佛得道也願主中田村住久光/弘和二年(壬戌)卯月廿八日於高野山南谷報恩院/書寫之畢金剛佛子阿吽/勸進聖阿闍梨篁實		208
						8,372	423	20	211	19	なし		209
						8,481	515	17	213	19	なし		210
						8,931	548	17	214	19	(同筆)一校了(別筆)三百二		211
						9,007	547	18	212	17	(別筆)一校了(別筆)三百二		212
						8,313	424	21	205	19	(同筆)于時弘和二季壬戌六月廿六日高野山金剛峯寺於千手院邊/之住房為滅罪生善智惠增進一卷之助筆畢/金剛寶惠覺之/(別筆)為二親聖靈來仏得尽之也		213
						8,870	382	22	204	19	(同筆)弘和二年壬戌九月廿七日於高野山報恩院書寫了/金剛仏子阿吽八九/願主阿闍梨篁實/(別筆)為二親逆修菩提也/(願)□□□(村住人)		214
						7,397	576	14	206	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)、(裏表紙打付)大般若經卷第四十二	215
						8,161	392	22	205	19	(同筆)弘和二年九月廿六日高野山於報恩院書寫畢 執筆[		216
						7,734	(525/503)	16	201	18	(同筆)承安二年壬辰七月四日書寫為現當并法界群類也/僧賢禪女紀氏		217
						8,457	511	17	211	19	なし		218
						8,753	510	18	211	18	なし		219
						7,519	510	16	209	18	なし		220
						7,997	(518/391)	18	205	19	(別筆)天文六年(丁酉)伍月中/為心淨聖靈成仏得道之也/願主中田村住阿栗女		221
						8,386	(516/392)	18	205	20	(別筆)願主僧聖倫		222

卷次	年代	紙色	紙高	第1紙長	第2紙長	第3紙長	第4紙長	第5紙長	第6紙長	第7紙長	第8紙長	第9紙長	第10紙長	第11紙長	第12紙長	第13紙長	第14紙長	第15紙長	第16紙長	第17紙長	第18紙長	第19紙長	第20紙長	第21紙長	第22紙長	第23紙長	第24紙長
170	平安	濃黄	238	520	562	546	547	545	547	544	511	510	510	513	456	412	23	513	19	487	511	110					
171	奈良	濃黄	246	527	567	568	563	565	565	567	564	566	566	566	566	565	248										
172	奈良	濃黄	245	538	570	572	571	570	571	570	570	570	571	567	553	514	465										
173	奈良	濃黄	244	463	260	416	565	568	558	564	562	562	557	558	559	558	557	265									
174	奈良	濃黄	247	517	547	549	547	549	546	547	548	546	545	546	542	544	432										
175	奈良	濃黄	246	458	555	556	557	554	560	560	563	557	560	562	558	554	598	131									
176	奈良	濃黄	247	511	561	564	563	569	20	563	564	560	564	564	567	574	373	550	93								
177	平安	濃黄	244	511	543	548	548	547	546	545	543	527	528	526	522	543	540	520	459	534	206						
178	平安	濃黄	246	455	489	489	487	488	486	485	489	483	488	487	486	488	485	485	485	314							
179	奈良	濃黄	242	505	537	541	540	540	539	540	538	540	542	539	538	538	539	536	506	286							
180	奈良	濃黄	246	478	508	510	510	511	511	572	511	512	511	512	511	512	513	511	511	109							
181	平安	濃黄	246	486	517	517	512	519	521	522	518	520	521	516	520	518	521	521	519	518	515	232					
182	平安	濃黄	247	448	485	479	479	477	472	477	480	480	478	478	478	478	476	478	480	477	231						
183	平安	黄	247	531	572	572	547	17	579	577	579	579	568	571	568	576	562	548	122								
184	平安	黄	247	441	480	480	479	479	479	475	477	478	478	478	478	481	478	479	476								
185	平安	黄	246	437	475	476	470	476	477	478	478	477	474	478	477	478	478	477	477	474	430						
186	平安	黄	246	442	475	476	477	477	475	474	477	476	477	477	478	475	476	475	463	459	401						
187	平安	黄	246	451	492	459	462	454	458	453	442	455	458	434	460	462	458	261	476	460	453	478	129				
188	平安	濃黄	247	439	476	475	475	468	507	478	476	476	477	478	478	475	477	481	460	456	461	65					
189	平安	濃黄	246	472	454	458	460	461	455	459	493	439	449	454	456	467	456	455	246								
190	平安	黄	246	489	503	502	501	505	502	502	505	506	504	501	502	504	503	501	501	193							
191	平安	黄	247	423	467	465	465	471	473	473	472	31	440	468	472	466	472	467	472	474	472	422					
192	平安	黄	245	441	480	481	481	480	481	475	475	479	484	483	483	479	479	482	482	482	337						
193	平安	黄	246	403	484	481	477	478	481	478	476	478	481	477	483	481	481	476	478	174							
194	平安	黄	246	407	461	468	467	465	465	7	451	462	458	462	461	461	461	462	461	444							
195	平安	黄	240	415	460	453	473	468	466	460	464	454	461	464	464	463	461	461	249								
196	平安	黄	245	437	477	478	245	230	478	481	481	478	478	482	482	481	489	433	459	456	461	460	419				
197	平安	黄	246	496	535	534	245	535	535	535	535	532	513	533	528	535	535	523	122								
198	平安	濃黄	247	463	495	497	245	499	500	498	500	498	500	497	500	498	497	498	463								
199	平安	濃黄	246	460	495	496	245	496	498	525	531	144	532	521	514	515	512	518	512	517	101						
200	平安	濃黄	245	436	463	456	245	464	465	465	465	463	461	462	462	454	445	273									
201	鎌倉	黄	245	476	519	520	245	520	520	520	520	521	520	520	520	520	520	510									
202	南北朝	薄黄	246	390	424	425	245	426	424	430	428	428	425	428	430	421	424	429	414	425	411	394	155				
203	南北朝	薄黄	246	417	425	387	245	422	422	423	422	422	423	425	426	424	430	424	427	426	428	427	427	295			
204	平安	黄	246	497	566	570	245	570	572	572	570	570	570	570	568	415	157	206									
205	平安	濃黄	246	530	565	570	245	570	570	570	570	570	570	570	562	569	365										
206	平安	黄	246	360	527	527	245	526	527	521	529	528	528	506	93	503	503	502	523	565	226						
207	平安	濃黄	244	440	477	478	245	478	476	478	452	478	477	477	477	444	469	463	451	447	432						
208	南北朝	薄黄	247	406	430	430	245	430	425	429	430	429	426	430	430	425	430	420	426	428	427	427	428	445			
209	南北朝	黄	248	423	446	422	423	423	437	437	426	427	442	426	426	445	443	444	438	440	444	432	128				
210	鎌倉	黄	240	499	520	515	245	516	516	516	518	516	515	515	515	520	517	512	512	514							
211	鎌倉	黄	245	530	548	548	245	552	548	546	547	547	548	547	547	546	548	548	547	489							
212	鎌倉	黄	247	492	552	547	245	547	547	546	549	548	549	550	551	549	546	547	515	447	180						
213	南北朝	薄黄	247	407	423	423	245	424	424	424	425	424	424	427	425	423	420	421	423	422	427	422	418	42			
214	南北朝	薄黄	248	357	384	382	245	517	516	522	522	512	512	382	390	382	382	386	377	379	386	386	386	379	186		
215	平安	黄	248	538	571	575	245	573	576	468	536	581	580	580	586	576	412										
216	南北朝	黄	246	353	389	392	245	393	398	390	392	390	392	390	394	393	393	391	392	393	395	395	395	385	111		
217	平安	濃黄	247	487	524	525	245	521	525	526	524	525	498	502	503	502	503	503	321								
218	鎌倉	黄	243	477	508	509	245	511	511	572	510	512	511	523	513	509	512	513	511	510							
219	鎌倉	黄	247	492	510	510	245	510	511	510	510	509	510	510	510	512	511	509	510	509	365						
220	鎌倉	黄	240	486	510	510	245	509	510	506	504	509	507	509	506	507	507	506	188								
221	室町	茶	245	496	516	517	480	521	522	518	520	513	502	389	391	392	324	391	394	390	221						
222	室町	茶	246	498	518	516	515	516	520	519	521	519	517	390	394	391	393	396	392	389	482						

第25 紙長	第26 紙長	第27 紙長	第28 紙長	第29 紙長	第30 紙長	全長	紙長最頻値	紙数	罫高	罫幅	奥書など	備考	巻次
						7,499	(585)	13	202	17	(同筆)承德二年十月九日巳時書寫畢/為自他法界平等利益所書如件		223
						7,729	(473/518)	16	210	17	(別筆)一交了		224
						10,039	616	17	203	20	なし		225
						8,017	412	21	201	18	(同筆)永徳三年(癸亥)八月上旬書寫畢 執筆梅本村住禪日(別筆)為二親聖靈成仏得之也 願主浄友	(裏表紙打付)大般若經卷第九十二	226
						8,315	512	20	197	17	なし	第1~4紙後補(南北朝)	227
						8,611	452	20	211	17	(同筆)一交了		228
						8,974	446	21	212	18	(別筆)一交了	(裏表紙打付)大般若經卷第九十四	229
						7,858	547	15	214	18	(別筆)一交了		230
						8,550	522	19	205	19	なし	紙継上書写、損耗甚大	231
						9,211	(518/391)	21	203	19	(別筆・折目裏)願主中田村住侶僧正円	損耗甚大	232
						(9,016+)	506	20	208	19	なし	一日堂一切経朱印(3顆)、第19・20紙開卷不可、(裏表紙打付)大般若經卷第五十九	233
						8,986	515	19	208	19	なし	一日堂一切経朱印(4顆)、損耗甚大、(裏表紙打付)大般若經卷第四十九	234
						8,985	510	18	208	19	なし	一日堂一切経朱印(4顆)、損耗甚大、裏表紙別巻転用	235
						8,807	462	19	197	18	なし	損耗甚大	236
						9,263	520	18	207	19	なし	一日堂一切経朱印(4顆)、損耗甚大	237
						8,938	518	18	206	19	なし	一日堂一切経朱印(5顆)、損耗甚大	238
						8,616	473	20	—	—	(別筆)願主僧□□、(別筆・首題下)覆並	無界、損耗甚大	239
						8,495	518	17	208	19	なし	一日堂一切経朱印(2顆)、損耗甚大、部分開卷不可	240
						8,655	530	18	196		(同筆)天平十四年乙次癸午年三月中旬[墨滅](□□□□□郡大□□□□□□知識□)奉大般若/経卷二百写[墨滅](□□□□□)四恩及一切衆生為奉	巻頭第1紙後補(平安)	241
						8,130	(508/520)	16	211	20	なし	(裏表紙打付)辨顯密二教論下	242
						8,296	510	17	194	18	なし	(裏表紙打付)大般若經卷第一百四十七/大般若經卷第一百二十四	243
						9,624	460	21	209	19	(別筆・奥紙背)寛元四年閏四月廿八日於紀州豊福寺書寫畢是則當國/廣八幡宮安置経也而加修復之間依円來房詔所書之也(花押)		244
						8,169	432	19	212	19	なし	朱校点	245
						7,556	431	24	210	18	(別筆)至徳貳年(乙丑)六月日 加修理畢/執筆禪日	第4・5、15~24紙補写(南北朝)	246
						8,050	522	19	196	—	なし	寄合書、天地界のみ	247
						8,696	465	20	209	20	(別巻奥書貼継)弘和二年(壬戌)四月廿五日於高野山南谷/法恩院書写畢 金剛佛子阿吽(生年八九)/勸進聖阿闍梨筐實		248
						8,894	512	18	205	20	(同筆)右意趣者為比丘尼専修二親幽霊并六親眷属(別筆・表紙見返)三ツ五津々/六津かし能ミ屋/大夫公		249
						8,759	520	20	204	20	なし		250
388	382	390	388	391	110	11,518	388	30	205	19	(別筆)願主紙女 未請		251
						8,734	491	18	201	18	なし	第17・18紙後補(室町)	252
						7,740	482	17	200	18	(同筆)一校了/願以書寫善廻施六趣生親疎結縁等共證菩提道/天承元年七月四日天王寺西門西浄院ニテ書寫了	首題下「贊」字	253
						9,077	(507/488)	19	200	18	なし		254
						7,882	507	16	200	18	(別筆朱書)不交實已了		255
						7,815	477	18	202	18	なし	各紙背左下隅に裏花押	256
						8,200	(510/528)	16	208	19	なし	首題下「贊」字	257
						8,692	(520/388)	19	202	20	(別筆)為二親成仏得道之也 願主紀氏頼光		258
						8,659	428	21	208	20	なし		259
						8,470	423	21	205	19	(別筆)為現當二世之也 願主僧頼實/(同筆)弘和二年(壬戌)五月四日於高野山南谷報恩院/書寫之畢 金剛佛子阿吽/勸進聖阿闍梨筐實/(別筆・別巻)為二親聖靈成佛得道之也	第21紙は別巻奥書一部を継立	260
						7,788	544	15	200	17	(裏表紙折込)「三八」	各紙地辺に花押	261
						8,145	511	16	212	20	なし	一日堂一切経朱印(5顆)	262
						9,181	508	19	208	20	なし	一日堂一切経朱印(5顆)	263

卷次	年代	紙色	紙高	第1紙長	第2紙長	第3紙長	第4紙長	第5紙長	第6紙長	第7紙長	第8紙長	第9紙長	第10紙長	第11紙長	第12紙長	第13紙長	第14紙長	第15紙長	第16紙長	第17紙長	第18紙長	第19紙長	第20紙長	第21紙長	第22紙長	第23紙長	第24紙長
223	平安	茶	248	547	580	579	578	588	584	591	590	585	595	556	574	552											
224	平安	濃黄	245	450	472	473	472	483	472	518	519	518	521	518	516	518	520	517	242								
225	平安	濃黄	246	574	612	612	612	615	617	613	614	615	616	616	616	616	615	580	556	340							
226	南北朝	黄	246	304	417	413	415	412	412	414	408	412	411	411	410	411	412	412	411	412	212	178	410	320			
227	奈良	黄	248	27	224	330	21	374	512	512	512	513	514	514	513	512	511	510	476	525	549	554	112				
228	鎌倉	黄	248	220	446	449	452	450	452	452	452	452	452	451	454	450	449	450	456	450	448	432	294				
229	鎌倉	黄	246	430	442	446	446	446	446	442	445	446	448	450	443	448	448	450	450	449	446	445	444	64			
230	鎌倉	黄	246	520	544	549	547	548	545	545	549	544	548	542	546	547	547	237									
231	南北朝	黄	247	512	516	513	541	522	522	522	522	521	504	507	378	387	392	387	395	392	393	124					
232	南北朝	黄	245	507	519	518	512	515	517	518	512	517	523	519	391	391	393	392	392	392	392	391	391	9			
233	平安	薄黄	243	451	497	497	500	500	507	507	509	510	509	506	506	506	504	501	502	502	502	-	-				
234	平安	薄黄	246	472	512	508	515	509	517	512	513	513	516	516	514	515	515	510	514	496	230	89					
235	平安	薄黄	246	443	496	503	503	507	510	505	509	508	506	506	510	512	516	510	506	504	431						
236	平安	薄黄	238	414	466	456	462	462	462	463	462	463	463	463	462	464	463	462	487	507	507	419					
237	平安	薄黄	246	457	512	521	521	520	520	520	518	523	520	521	522	520	522	513	516	512	505						
238	平安	薄黄	246	472	520	511	518	522	522	523	497	509	518	520	518	513	516	518	517	481	243						
239	平安	濃黄	243	436	459	468	67	404	472	473	471	473	473	472	462	452	456	457	457	455	458	445	306				
240	平安	薄黄	245	479	518	512	518	518	520	518	522	522	522	521	522	521	491	537	516	238							
241	奈良	濃黄	242	300	103	523	530	530	525	530	530	527	532	528	525	527	527	527	528	518	345						
242	鎌倉	黄	242	468	508	506	508	507	508	501	520	522	525	520	514	525	520	528	450								
243	平安	濃黄	240	498	510	515	517	507	511	508	510	510	515	513	512	512	510	510	510	128							
244	鎌倉	濃黄	240	440	460	462	458	460	460	460	463	465	462	460	462	463	470	447	463	465	468	463	463	410			
245	平安	濃黄	393	429	429	428	423	423	432	433	432	430	432	430	430	431	432	427	432	432	432	432					
246	平安	濃黄	246	423	425	109	35	56	235	431	433	430	432	429	405	29	438	432	431	294	152	370	360	362	370	368	107
247	平安	濃黄	247	437	522	524	525	527	521	522	522	521	484	486	535	535	538	534	317								
248	平安	黄	237	420	467	470	467	468	465	465	465	473	465	465	466	465	470	465	465	469	462	234	110				
249	南北朝	濃黄	247	512	512	515	512	513	518	517	515	516	517	515	516	512	403	516	517	480	288						
250	南北朝	黄	246	498	520	514	520	522	520	518	520	528	540	390	393	391	391	384	392	392	392	392	42				
251	南北朝	黄	247	370	396	388	387	387	388	389	385	388	388	391	388	389	540	390	393	391	391	392	386	391	388	386	387
252	平安	黄	238	472	503	507	509	508	510	491	492	491	489	483	491	490	488	488	488	383	451						
253	平安	濃黄	245	443	481	482	482	486	482	486	486	483	482	482	483	473	472	474	475	88							
254	平安	黄	246	468	507	509	506	507	511	510	488	489	488	487	488	489	488	488	488	488	476	202					
255	平安	黄	247	470	507	507	504	508	510	510	441	526	488	487	490	486	487	485	476								
256	平安	黄	246	460	477	480	477	475	470	473	483	481	483	485	453	25	477	478	478	475	185						
257	平安	濃黄	247	468	510	508	505	505	513	512	512	510	528	530	525	528	528	525	493								
258	南北朝	黄	246	506	525	520	520	516	518	514	519	522	523	388	394	388	394	393	384	388	392	388					
259	南北朝	黄	246	406	423	424	428	425	428	428	428	419	424	427	427	428	425	425	426	428	418	420	418	184			
260	南北朝	黄	247	398	420	420	420	423	425	427	425	426	424	424	425	423	423	423	423	428	425	420	413	35			
261	平安	黄	243	508	543	545	544	544	544	545	545	544	543	544	543	544	543	209									
262	平安	黄	245	470	511	511	511	511	512	511	512	513	512	513	511	512	511	513	511								
263	平安	黄	245	435	483	479	480	486	502	504	500	506	508	506	505	508	509	508	507	508	503	244					

第25 紙長	第26 紙長	第27 紙長	第28 紙長	第29 紙長	第30 紙長	全長	紙長最頻値	紙数	罫高	罫幅	奥書など	備考	巻次
						8,503	489	18	209	19	(裏表紙折込、逆向)大般若經卷第一 百一十一	一日堂一切経朱印(3顆)	264
						8,603	494	19	209	19	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	265
						9,107	497	19	210	18	なし		266
						8,082	528	16	201	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)、紙継上 書写	267
						8,213	544	16	201	18	なし	(巻頭端裏)七	268
						8,501	530	17	199	18	なし		269
						8,329	530	16	199	18	なし		270
						8,466	541	16	202	17	(同筆)執筆朝範(戯画付き)	一日堂一切経朱印(2顆)、各紙継 目紙背に2顆連続複枠一日堂一切 経黒印(傾斜)	271
						9,766	510	21	189	22	なし	一日堂一切経朱印(巻頭2顆・巻末 1顆)、首題下「贄」字	272
						8,075	527	16	204	18	(別筆)一交了(別筆・裏表紙見返折 込)二ノ十	(裏表紙打付)大般若經卷三百五 十五	273
						8,265	457	19	205	17	(別巻奥書貼継)弘和二年(壬戌)卯 月八日於高野山南谷報恩院/書寫之 畢 金剛佛子阿吽	一日堂一切経朱印(3顆)	274
						8,684	(485/453)	19	213/207	16/20	なし	一日堂一切経朱印(3顆)、10紙以 後界線仕様変更	275
						8,834	568	17	214	19	(別筆・裏表紙見返折込)三ノ十	一日堂一切経朱印(2顆)	276
						9,153	564	18	201	18	(別筆・裏表紙見返折込)三ノ十		277
						8,776	507	19	207	19	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	278
						7,833	571	14	202	19	なし		279
						8,258	(489/456)	18	205	17	なし		280
						9,132	528	18	200	18	なし		281
						9,362	527	18	200	18	なし		282
						9,767	530	20	199	18	なし	巻末紙背に裏花押	283
						8,945	541	18	201	18	なし		284
						8,026	506	16	201	18	なし	(裏表紙打付)大般若經卷第四十 八	285
						8,865	495	20	-	-	(同筆)此一巻依為不足修補之次奉 書寫料紙者此御經中/依有餘奉被用 之是則任御圖者也/文明四年(壬辰) 八月一日 根来寺西方院/願主權少 僧都融昌/同寺學徒/筆者純音房	卷386(蜂田寺書写卷・平安)の紙 背を用いて書写(無界)	286
						8,164	473	20	296	19	なし	首題下「贄」字、一部紙継上書写、 寄合書	287
						7,930	(536/498)	16	207	19	なし	首題下「贄」字、寄合書	288
						7,532	(558/423)	17	209	19	なし	首題下「贄」字	289
						7,739	425	19	206	19	(同筆)弘和二年(壬戌)五月十五日 於高野山南谷報恩院/書寫之畢 金 剛佛子阿吽/勸進聖阿闍梨管實/願 主坂上 實恒	紙継上書写	290
						7,826	518	16	195	17	なし		291
						7,896	506	16	198	17	なし		292
						8,074	508	16	208	18	なし		293
						8,419	515	17	196	17	(別筆・巻末紙背)三八		294
						7,827	496	16	206	18	なし	(裏表紙打付)大般若經卷第(七十 八)	295
						8,180	555	15	197	17	なし		296
						7,570	559	15	195	17	なし	第1紙後補(平安)	297
						7,999	510	16	207	17	なし		298
						7,109	510	15	207	18	なし		299
						7,249	522	15	196	17	(別筆・巻末紙背)三八	第1紙後補(平安)	300
						8,533	503	18	210	19	なし	一日堂一切経朱印(5顆)	301
						8,391	504	19	211	-	(別筆・第1紙端裏)百二	一日堂一切経朱印(4顆)、縦無界	302
						9,920	475	23	211	19	なし	一日堂一切経朱印(5顆)	303
						8,269	473	21	210	19	(尾題後)□□□	一日堂一切経朱印(3顆)、第1~3 紙後補(平安)、第4紙再後補(江戸)	304
						8,560	502	21	210	20	(尾題後)□	一日堂一切経朱印(4顆)、巻頭補 写(室町)	305
						9,099	471	20	210	20	なし	一日堂一切経朱印(4顆)、第20紙 一部修補補写(江戸)	306
						9,771	520	19	210	20	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	307
						8,116	528	16	196	18	(同筆・表紙折込)奉書寫□己木女 紀氏[(別筆・第1紙紙背)百ノ廿八]	尾題奥4字程度の墨付	308
						8,228	467	18	210	19	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	309
						8,762	422	23	207	19	(別筆)□□生□之也 願主西佛	首題右に墨付	310
						8,300	504	17	204	18	(別筆・第1紙端裏)四百ノ一	首題下「贄」字、(裏表紙打付)大般若 經卷三百八十一	311
						9,993	586	18	203	20	なし	一日堂一切経朱印(3顆)、朱訓点 (ヲト点)	312
						9,850	567	19	203	20	なし	一日堂一切経朱印(4顆)、朱訓点 (ヲト点)	313
						9,213	541	23	202	20	なし	一日堂一切経朱印(3顆)、朱訓点 (ヲト点)	314

卷次	年代	紙色	紙高	第1紙長	第2紙長	第3紙長	第4紙長	第5紙長	第6紙長	第7紙長	第8紙長	第9紙長	第10紙長	第11紙長	第12紙長	第13紙長	第14紙長	第15紙長	第16紙長	第17紙長	第18紙長	第19紙長	第20紙長	第21紙長	第22紙長	第23紙長	第24紙長	
264	平安	黄	245	446	489	489	488	488	491	489	490	488	488	487	490	488	490	492	489	489	232							
265	平安	黄	245	451	494	493	411	72	492	494	494	498	492	499	499	494	501	496	500	499	456	268						
266	平安	黄	245	453	501	501	499	500	500	498	497	497	497	496	497	497	495	494	493	481	521	190						
267	平安	黄	246	503	527	528	523	528	527	534	528	528	529	524	526	525	526	527	199									
268	平安	濃黄	246	527	544	543	540	537	544	544	538	540	541	541	543	541	540	455	195									
269	平安	濃黄	236	457	524	530	528	529	530	530	531	528	529	530	528	528	535	532	519	113								
270	平安	濃黄	235	477	530	530	529	529	528	516	514	536	534	530	530	533	533	530	450									
271	平安	黄	243	499	541	540	536	541	541	538	537	538	534	526	542	540	540	541	432									
272	平安	黄	243	488	510	510	510	510	513	515	495	190	430	515	510	514	481	417	554	478	477	478	500	171				
273	平安	濃黄/黄	246	462	479	482	481	480	482	530	538	527	527	531	526	527	528	528	447									
274	平安	濃黄	245	457	572	465	477	487	487	487	486	452	455	457	455	457	457	456	455	455	132	116						
275	平安	濃黄	247	454	488	485	487	485	497	483	440	458	450	456	455	453	451	453	453	453	452	331						
276	平安	黄	240	527	556	568	565	562	358	198	589	560	586	517	595	568	568	565	562	390								
277	平安	黄	245	522	562	564	564	564	561	509	508	507	505	510	510	512	505	507	509	504	230							
278	平安	黄	244	464	504	507	350	200	503	507	508	501	506	507	507	507	503	506	506	503	180							
279	平安	茶	247	502	571	572	575	571	541	580	576	577	576	579	571	521	521											
280	平安	濃黄	239	456	487	489	485	478	490	489	479	488	477	448	454	455	456	455	454	453	265							
281	平安	黄	244	510	547	544	545	543	528	528	528	526	530	530	526	527	527	527	529	509	128							
282	平安	黄	246	507	545	544	545	543	528	528	527	527	529	528	528	527	526	527	530	527	346							
283	平安	黄	246	508	543	543	543	547	530	530	532	523	22	530	529	531	531	530	530	528	526	523	188					
284	平安	黄	241	506	544	540	541	541	521	529	528	528	525	502	505	505	503	503	508	488	128							
285	平安	濃黄	246	507	539	533	538	541	506	507	506	506	508	506	506	506	507	503	307									
286	室町(平安)	黄	244	482	497	496	497	495	495	495	496	492	64	382	543	495	498	497	498	495	493	238	217					
287	平安	黄	246	432	471	473	473	472	472	472	473	446	19	473	465	472	472	443	27	474	473	459	203					
288	平安	黄	246	482	536	537	536	537	495	499	497	500	499	498	498	498	496	498	324									
289	平安	黄	245	505	558	559	558	559	423	423	423	426	420	423	424	423	424	424	405	155								
290	南北朝	黄	246	406	418	423	424	425	422	423	423	421	423	425	425	423	426	425	425	422	425	135						
291	奈良	濃黄	246	497	518	520	518	516	518	519	517	519	518	516	517	517	515	517	84									
292	奈良	濃黄	246	473	499	506	506	504	508	508	507	506	506	501	502	502	503	503	362									
293	平安	濃黄	246	475	505	510	508	508	509	505	508	510	508	507	508	508	509	506	490									
294	奈良	濃黄	245	487	513	515	515	515	512	504	505	507	509	513	518	511	512	512	511	260								
295	平安	濃黄	246	472	512	509	509	509	503	500	496	496	496	496	495	495	497	495	347									
296	奈良	濃黄	242	540	555	555	557	557	559	557	555	558	558	559	559	556	555	400										
297	奈良	濃黄	247	395	187	554	559	559	559	559	559	559	559	558	559	558	559	558	288									
298	平安	濃黄	246	476	512	511	509	510	510	511	510	508	507	508	510	510	508	489	410									
299	平安	濃黄	246	477	507	506	512	510	508	510	510	510	511	510	504	490	487	57										
300	奈良	黄	246	103	376	522	520	521	523	520	523	520	519	516	521	522	522	521										
301	平安	濃黄	247	470	501	501	502	499	501	503	505	505	503	503	503	505	503	502	505	500	22							
302	平安	黄	245	463	504	504	503	500	503	502	504	502	501	501	500	502	499	470	20	475	16	422						
303	平安	濃黄	245	447	472	474	386	85	474	470	478	474	475	475	427	41	475	475	476	476	475	475	475	475	475	465		
304	平安	薄黄	246	333	408	68	142	78	481	473	494	495	496	494	480	478	18	473	499	499	500	498	474	388				
305	平安	濃黄	244	458	498	472	21	494	500	505	503	492	474	493	24	500	467	22	502	502	501	497	502	133				
306	平安	濃黄	248	443	472	472	471	471	471	470	473	468	470	467	471	472	468	469	469	470	470	465	197					
307	平安	濃黄	245	492	520	516	531	515	522	520	519	514	518	521	520	515	513	515	520	512	521	467						
308	平安	濃黄	244	481	528	528	529	529	531	530	531	534	534	532	532	530	528	523	216									
309	平安	濃黄	245	430	460	468	472	467	464	465	467	466	467	467	465	463	463	463	462	463	356							
310	南北朝	黄	247	411	423	415	246	373	422	426	424	421	428	424	425	336	419	422	421	374	382	430	229	338	384	189		
311	平安	濃黄	246	467	500	504	505	504	504	504	506	504	503	504	505	503	503	503	503	278								
312	平安	濃黄	243	543	586	586	587	586	587	586	585	585	587	563	581	587	584	586	586	584	104							
313	平安	濃黄/黄	236	528	567	567	567	572	562	568	569	564	572	577	575	576	575	551	18	573	544	225						
314	平安	濃黄	239	504	534	532	539	538	538	540	174	384	541	172	360	541	541	541	436	106	137	395	315	193	492	160		

第25 紙長	第26 紙長	第27 紙長	第28 紙長	第29 紙長	第30 紙長	全長	紙長最頻値	紙数	罫高	罫幅	奥書など	備考	巻次
						9,305	522	19	202	20	なし	一日堂一切経朱印(2顆)、朱訓点(フコト点)	315
						8,954	542	19	202	20	なし	一日堂一切経朱印(2顆)、朱訓点(フコト点)、第1紙後補(江戸)	316
						8,559	385	23	206	18	(同筆)嘉慶二拾月日/武蔵國村置郷如意輪寺住僧/良圓房雖惡筆也為末代書寫畢/助筆出羽國置民郡長井庄/秋生村興善寺住本妙房為結/縁如鳥跡加書寫畢	寄合書	317
						9,357	574	17	201	19	なし	一日堂一切経朱印(2顆)、朱訓点(フコト点)	318
						8,980	511	18	—	—	なし	一日堂一切経朱印(3顆)、朱訓点(フコト点)、無界	319
						9,901	521	20	203	20	(別筆・第1紙端裏)四百ノ二	一日堂一切経朱印(3顆)、朱訓点(フコト点)	320
						8,334	504	17	213	18	なし	紙継上に文字	321
						8,825	423	21	210	16	なし	首題裏打紙に後補(鎌倉)	322
						8,699	484	18	202	18	(同筆)一交了	寄合書	323
						8,664	528	18	196	—	なし	縦無界、寄合書	324
						8,611	524	17	196	—	なし	縦無界、寄合書	325
						8,645	522	17	196	—	(別筆・第1紙端裏)三百ノ三	縦無界、寄合書、穿孔大	326
						9,060	444	21	206	—	(別筆・第1紙端裏)三	縦無界、首題下「賛」字	327
						8,809	518	18	191	17	なし	寄合書	328
						8,511	483	19	202	18	(別筆)一交了(別筆・首題前)一交了	寄合書	329
						8,232	557	16	205	21	(同筆)三卷破損仍其中此卷偏奉書殘加修理/无縁聖人實仁減罪生善也	寄合書	330
						8,836	475	20	203	18	なし	首題下「賛」字	331
						8,430	523	16	196	—	なし	縦無界、一部紙継上書写	332
						8,535	369	24	206	17	(同筆)于時至徳二年(乙丑)八月廿八日 書寫畢/為現當二世之悉地并所願成就皆令/満足也 於佐々小河坂本住人祐宗	紙継上書写	333
						8,604	522	17	197	—	(別筆・第1紙端裏)四百ノ	縦無界、寄合書	334
						9,392	573	17	194	19	なし	一部紙継上書写、寄合書	335
						8,182	557	16	195	—	なし	なし	336
						8,562	443	20	—	—	なし	無界、一部紙継上書写、寄合書	337
						8,412	462	19	192	19	なし	寄合書(2筆)	338
						8,954	524	17	197	—	なし	縦無界、寄合書	339
						8,315	521	16	196	—	なし	縦無界、寄合書	340
						9,666	426	23	206	19	なし	(表紙右下打付外題・逆向)大般若經卷第五十八	341
						9,695	426	23	206	19	(同筆)弘和二年(壬戌)六月十四日於高野山南谷報恩院書写了/金剛佛子阿吽/(裏表紙折込)勸進聖阿闍梨篋實		342
						7,850	(488)	18	200	17	なし	寄合書、複数料紙	343
						8,197	512	18	198	17	なし	第1紙後補(平安)	344
						8,084	458	19	203	18	なし		345
						8,187	518	16	197	17	なし		346
						8,270	521	18	195	17	なし	第1紙後補(平安)	347
						7,155	483	15	192	16	(別筆・奥落書)大般若		348
						8,062	518	17	196	17	なし	第1紙後補(平安)	349
						7,130	463	18	200	18	(別筆・尾題繰返)		350
						8,447	505	17	203	18	(別筆)一交了		351
						9,847	556	18	205	19	なし	首題下「賛」字	352
						9,199	494	22	203	18	(同筆)一交了	寄合書、第1~3紙(全紙)・第4・5紙(一部)補写(室町)	353
						9,504	557	18	206	20	なし	第1紙欠損部補写(室町)、首題下「賛」字、一日堂一切経朱印(3顆)	354
						8,628	496	18	204	19	なし	首題右下「賛」字	355
						9,253	577	17	206	20	なし	首題下「賛」字、一日堂一切経朱印(3顆)	356
						9,761	565	18	208	20	なし	第1紙欠損部補写(室町)、首題下「賛」字、一日堂一切経朱印(4顆)	357
						9,174	566	20	207	20	なし	首題下「賛」字、一日堂一切経朱印(3顆)	358
						9,438	577	18	206	20	なし	首題下「賛」字、一日堂一切経朱印(4顆)、第10紙左下紙背に小丸印	359
						8,257	538	16	206	17	なし	第1紙背「四百八」	360
						8,539	487	19	201	18	(別筆)一交了		361
						7,971	514	17	198	17	なし	第1紙後補(平安)	362
						8,168	516	19	202	17	なし	第1~3紙後補(平安)	363
						7,810	513	16	198	17	なし	裏表紙打付「大般若經卷第五十二」	364
						7,487	502	15	198	17	なし		365
						7,488	516	15	199	17	なし		366
						8,060	490	17	197	18	なし	各紙背左下に裏花押	367

卷次	年代	紙色	紙高	第1紙長	第2紙長	第3紙長	第4紙長	第5紙長	第6紙長	第7紙長	第8紙長	第9紙長	第10紙長	第11紙長	第12紙長	第13紙長	第14紙長	第15紙長	第16紙長	第17紙長	第18紙長	第19紙長	第20紙長	第21紙長	第22紙長	第23紙長	第24紙長	
315	平安	濃黄	246	482	522	522	522	523	522	521	525	521	523	522	520	520	520	502	548	572	418							
316	平安	濃黄	247	31	447	533	539	540	538	541	542	537	542	542	542	539	543	541	538	542	377							
317	南北朝	黄	248	364	388	388	386	390	385	390	338	391	392	386	389	389	387	384	385	385	385	391	285	392	387	202		
318	平安	濃黄	245	538	571	576	573	574	574	574	573	576	576	572	571	575	576	574	574	210								
319	平安	濃黄	246	476	508	507	513	511	507	511	511	505	509	511	509	512	511	527	527	512	313							
320	平安	濃黄	243	480	522	525	525	521	521	525	524	523	521	519	521	521	522	518	515	496	502	520	80					
321	鎌倉	黄	239	488	503	502	504	505	504	506	504	503	505	502	506	504	503	505	506	284								
322	平安	黄	244	370	423	423	424	424	426	424	423	417	426	421	423	422	419	442	444	444	448	449	423	310				
323	平安	濃黄	246	484	506	504	502	486	486	486	488	486	485	484	484	511	424	441	422	484	536							
324	平安	濃黄	245	496	528	524	524	528	529	529	528	510	530	520	466	53	518	556	557	556	212							
325	平安	濃黄	247	511	524	526	524	532	529	534	532	531	549	549	516	503	529	548	548	126								
326	平安	濃黄	246	506	522	524	528	525	529	522	516	520	514	557	521	518	520	557	516	250								
327	平安	濃黄	242	416	440	442	445	451	440	444	446	442	447	446	443	444	441	441	444	444	442	445	437	220				
328	平安	濃黄	245	488	518	518	518	519	519	518	558	491	22	524	528	556	530	518	518	514	452							
329	平安	濃黄	244	462	485	480	479	487	481	480	483	483	486	253	482	482	483	483	290	432	416	384						
330	鎌倉	黄	245	545	250	320	561	561	554	557	557	555	560	558	557	555	557	561	424									
331	平安	濃黄	241	456	475	475	472	465	474	475	441	458	458	456	444	457	451	457	458	457	459	455	93					
332	鎌倉	濃黄	244	498	523	530	527	533	555	523	523	520	535	524	517	557	517	526	522									
333	南北朝	黄	245	367	370	368	370	368	371	370	369	369	370	371	369	371	371	371	369	369	371	372	370	369	369	368	33	
334	鎌倉	濃黄	245	504	523	493	522	526	527	491	534	492	487	487	538	532	522	544	547	335								
335	鎌倉	黄	245	562	578	579	575	575	571	573	575	573	576	576	573	574	578	571	573	210								
336	平安	濃黄	246	506	525	557	526	547	556	517	490	521	560	523	557	558	536	538	165									
337	鎌倉	薄黄	246	400	444	445	444	443	443	441	445	441	443	431	438	446	443	443	441	432	443	449	207					
338	鎌倉	黄	243	427	464	463	462	464	463	462	463	462	462	461	462	461	460	462	461	461	460	132						
339	鎌倉	濃黄	246	552	524	527	524	533	561	523	527	503	526	526	536	524	522	527	536	483								
340	鎌倉	濃黄	245	502	524	523	521	514	521	529	520	530	521	520	521	538	521	523	487									
341	南北朝	黄	247	426	419	422	425	426	426	426	421	426	426	427	420	427	425	426	427	426	414	427	426	426	426	326		
342	南北朝	黄	243	401	424	426	425	425	423	372	425	425	425	424	424	425	427	422	424	426	427	426	426	426	426	421		
343	鎌倉	濃黄	241	479	489	484	543	545	455	347	482	486	540	527	135	419	432	436	546	458	47							
344	奈良	濃黄	245	496	513	512	513	512	512	512	512	511	510	510	484	19	494	502	502	504	79							
345	鎌倉	黄	245	429	459	456	458	458	457	458	460	460	456	451	454	432	431	432	434	435	434	30						
346	奈良	濃黄	248	483	518	517	519	515	517	519	518	519	518	518	513	517	517	515	464									
347	奈良	濃黄/黄	246	54	472	519	521	520	521	518	523	516	521	513	517	518	517	451	483	513	73							
348	平安	濃黄	241	449	482	486	481	481	483	482	485	483	478	480	484	483	480	438										
349	奈良	濃黄	239	58	432	524	522	518	520	518	517	513	519	538	519	517	518	518	518	293								
350	平安	濃黄	243	453	472	470	122	451	357	281	300	452	463	466	464	463	468	467	464	463	54							
351	平安	濃黄	247	488	505	506	505	503	506	505	504	504	502	490	489	488	489	490	487	486								
352	平安	濃黄	245	517	555	554	556	547	557	551	558	556	556	557	558	559	559	555	558	557	437							
353	平安	濃黄	246	156	44	72	200	494	494	491	492	494	493	492	490	491	489	487	488	487	488	489	488	469	411			
354	平安	黄	245	515	547	557	557	558	557	558	557	557	556	556	556	557	558	559	557	556	86							
355	奈良	濃黄	235	462	496	494	496	496	496	463	493	491	495	497	496	493	499	497	495	493	276							
356	平安	黄	247	535	577	567	576	577	567	577	576	575	577	576	577	577	577	567	576	99								
357	平安	濃黄	246	528	565	567	564	565	564	565	565	564	565	563	564	564	565	564	565	526	238							
358	平安	濃黄	234	525	566	380	173	566	566	566	291	271	566	330	229	568	567	568	566	567	564	565	180					
359	平安	濃黄	245	498	578	577	577	579	568	10	569	577	534	529	565	564	565	566	566	565	451							
360	平安	濃黄	237	503	536	540	538	538	538	536	542	539	540	538	531	535	517	514	272									
361	奈良	濃黄	242	463	487	487	487	487	487	488	486	483	485	479	483	485	486	485	436	48	488	309						
362	奈良	濃黄	245	229	258	513	514	515	514	513	513	515	514	514	513	514	513	514	512	293								
363	奈良	濃黄	246	155	19	73	238	515	515	515	516	516	515	516	515	516	516	516	516	513	514	469						
364	奈良	濃黄	246	472	513	513	512	513	513	513	512	514	511	511	513	511	513	510	166									
365	奈良	濃黄	245	474	493	497	503	503	502	502	502	502	502	502	502	502	501	500										
366	奈良	濃黄	245	479	518	516	515	516	516	516	516	518	517	516	514	523	511	297										
367	平安	濃黄	244	435	470	470	472	470	490	489	490	485	487	490	490	490	490	490	360									

第25 紙長	第26 紙長	第27 紙長	第28 紙長	第29 紙長	第30 紙長	全長	紙長最頻値	紙数	罫高	罫幅	奥書など	備考	巻次
						8,272	387	22	204	18	なし		368
						8,377	502	17	200	17	なし		369
						7,560	500	16	200	17	なし		370
						8,338	522	18	196	—	なし	縦無界、横漉目料紙	371
						8,271	549	16	197	—	なし	縦無界、横漉目料紙	372
						8,365	516	16	196	—	なし	縦無界、横漉目料紙	373
						8,853	521	18	196	—	なし	縦無界、横漉目料紙	374
						8,852	526	17	196	—	なし	縦無界、横漉目料紙	375
						8,520	(551/515)	18	196	—	なし	縦無界、横漉目料紙、17-18紙間 紙背に貼紙墨書	376
						8,036	(492/514)	16	196	—	なし	縦無界、横漉目料紙	377
						8,225	462	18	—	—	なし	首題下「寶」字、無界	378
						8,273	533	16	196	—	なし	縦無界、横漉目料紙	379
						8,344	(522)	16	196	—	なし	縦無界、横漉目料紙	380
						9,021	504	18	199	19	なし		381
						8,934	503	18	198	18	なし		382
						8,401	504	17	198	18	なし		383
						8,445	493	18	200	18	(別筆)一交了		384
						7,947	512	16	198	17	なし		385
						7,684	580	15	199	16	なし	第1紙後補(平安)	386
						7,265	516	18	199	17	なし	第1~3紙後補(平安)	387
						8,789	490	20	198	18	なし	第15紙後補(室町)	388
						7,985	515	16	199	17	なし		389
						8,497	513	17	202	17	なし		390
						8,416	501	19	202	18	(同筆)天承二年十一月四日未時計 書寫畢/(裏見返下)奉書寫意趣者僧 快尋為過去慈父尊盡/往生極樂證大 菩提也	第18-19紙別料紙(横漉目)	391
						7,543	502	16	199	18	なし		392
						9,146	572	19	202	18	(別筆・第1紙端裏)四百之十	一日堂一切経朱印(4顆)、第19紙 (尾題)後補(室町)	393
						9,107	460	20	199	18	なし	寄合書、紙継上書写	394
						8,349	528	18	201	18	(別筆)一交了		395
						8,796	514	18	202	17	なし		396
						8,587	522	17	196	17	なし		397
						7,047	520	15	196	17	なし	第1紙後補(平安)	398
						7,378	521	15	197	17	なし	第1紙後補(平安)	399
						7,290	518	15	196	17	なし		400
						8,731	503	17	196	—	なし	縦無界	401
						8,125	529	16	196	—	なし	縦無界	402
						8,554	523	18	197	—	なし	縦無界	403
						9,232	507	19	190	20	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	404
						8,354	415	20	206	19	なし		405
						8,673	511	17	201	18	なし	一日堂一切経朱印(5顆)	406
						9,123	530	19	—	—	なし	無界、寄合書	407
						9,049	(512)	19	197	—	なし	縦無界	408
						8,852	527	17	196	—	(別筆)奉修服口應永廿九年閏十月 供養也(裏書)[ ]	縦無界、寄合書	409
						8,316	524	16	197	—	(別筆)修服願主梁永(广永廿九/壬 刀年)	縦無界、寄合書	410
						8,080	515	17	195	19	(別筆)此経修腹广永廿九季(壬刀) 供養閏十月		411
						8,709	558	17	197	17	(別筆)此経修腹广永廿九季(壬刀) 卯月八日二始/供養者同年閏十月三 日ニス/願主梁永僧/解第師筆 是観	第1紙後補(平安)	412
						8,531	563	18	195	18	(同筆)天平十三年歳次辛巳四月紀 伊國御毛寺智識/(一行擦消)□□□ □□□□	第1紙後補(平安)	413
						8,177	550	18	197	18	なし	第1紙後補(平安)	414
						7,811	574	14	194	17	なし		415
						9,149	533	19	208	19	なし	第1紙後補(平安)	416
						8,309	550	16	194	17	なし		417
						7,940	553	16	196	17	なし	第1紙後補(平安)	418
						8,026	550	16	198	18	(同筆)天平十三年歳次辛巳四月紀 伊國御毛寺智識/紀直商人寫	第1・2紙後補(平安)、巻285表紙 転用	419
						9,239	423	22	205	19	(同筆)為現當二世之也 願主僧福一	寄合書	420
						7,714	387	21	194	17	なし		421
						8,032	549	16	196	—	なし	縦無界	422
						7,638	559	15	194	17	(同筆・裏表紙折込)右京三條二坊大 春日朝臣廣足寫	第1~3紙後補(平安)	423
						7,368	559	16	196	17	なし	第1・2紙後補(平安)	424
						7,391	445	17	206	—	なし	天地のみ押界	425
						8,079	521	18	194	17	(同筆)天平十三年歳次辛巳四月上 旬記伊國那賀郡部下(墨塗消)□□ □□/紀直商人寫	第1-2紙後補(平安)	426
						8,231	519	18	196	17	なし	第1・2紙後補(平安)	427
						8,391	385	23	208	19	なし	第19~23紙別料紙、紙継上書写	428
						7,970	526	17	196	17	なし	第1紙後補(平安)	429



第25 紙長	第26 紙長	第27 紙長	第28 紙長	第29 紙長	第30 紙長	全長	紙長最頻値	紙数	罫高	罫幅	奥書など	備考	巻次
						8,652	521	19	197	17	(別筆・別巻奥書貼継)弘和二年(壬戌)五月廿三日於高野山南谷報恩院/書寫之畢 金剛佛子阿吽/勸進聖阿闍梨管實	第1紙後補(平安)	430
						7,890	559	14	196	17	なし		431
						8,176	510	18	200	18	(別筆)一校畢		432
						8,253	516	23	197	19	なし	第1~12紙後補(室町)	433
						7,926	555	16	196	19	なし	第1・2紙後補(平安)	434
						8,423	516	17	196	17	なし	縦無界	435
						8,758	465	19	198	18	なし		436
						8,801	518	18	197	17	(同筆)天平十三年歳次辛巳四月上旬紀國奈我郡[墨塗消](三氣口為知識以寫)/大般若經一部六百卷/河内國和泉郡式部省位子坂本朝臣栗栖仰願為四恩	第1・2紙後補(平安)	437
						8,185	517	16	195	18	(同筆)天平十三年歳次辛巳潤月紀伊國那賀郡御氣院寫奉知/識大般若一部六百河内國和泉郡坂本朝臣栗栖		438
						7,685	517	17	196	17	なし	第1紙後補(平安)	439
						7,723	525	16	195	16	なし	第1紙後補(平安)	440
						7,377	(506/551)	15	196	17	(別巻奥書貼付・裏見返紙背)一交已了		441
						8,067	520	16	196	17	なし		442
						8,568	513	17	209	18	なし	寄合書	443
						9,137	427	23	203	19	(同筆)弘和二年七月十五日書寫畢雖老筆為/減罪生善佛果圓滿所令書寫也/阿闍梨慶然(生年/七十)	紙継上書写	444
						8,687	549	17	209	19	(同筆)仁壽三年歳次癸酉二月十五日為御母刀自仕奉主政外少初位上大坂真長/主帳外少初位上大坂勝義鷹/同綱好/同芳咩/戒師沙弥義藏師/經生佐久郡丸子真智成	一日堂一切経朱印(4顆)	445
						8,466	522	17	201	18	なし		446
						8,099	557	16	197	17	なし	第1紙後補(平安)	447
						8,258	558	15	197	17	なし		448
						7,873	520	16	194	17	なし		449
						7,530	(514/482)	16	202	18	なし	寄合書	450
						7,477	553	14	195	17	なし		451
						7,855	553	17	201	17	なし	第1~3紙後補(平安)	452
						7,400	552	14	193	17	なし		453
						7,601	(489/553)	15	192	17	なし	第1~9紙紙背後半に梵字風黒印10顆、上部欠損を補写(室町)	454
						8,187	535	16	197	17	なし	縦無界、繕紙上補写(室町)	455
						8,183	520	16	194	17	なし	表紙欠失、題箋直貼付	456
						8,034	520	16	190	18	なし	各紙紙背末尾黒印15顆	457
						8,336	521	17	210	18	(別筆)一交了		458
						8,280	447	18	207	17	なし	補写箇所多数(室町)	459
						8,217	(487/518)	17	190	17	なし	紙背黒印17箇所	460
						8,427	516	17	196	17	なし	第16・17紙後補(室町)	461
						8,018	518	16	195	17	なし	縦無界	462
115	285	36	86	62		7,658	225	29	196	17	なし	縦無界、料紙偏差大	463
						8,456	521	19	195	17	なし	縦無界、第13・14紙継目紙背に文字	464
						8,831	(516/540)	18	197	17	なし	縦無界、第15紙後補(室町)	465
						8,956	468	20	203	18	なし		466
						8,512	540	18	203	18	(別筆)一交了		467
						8,420	506	18	201	17	なし	第1紙後補(室町)	468
						7,773	520	15	199	17	なし	第5~15紙紙背継目黒印11顆	469
						8,761	555	18	197	18	なし	第1紙後補(平安)、寄合書	470
						8,224	555	18	193	17	なし	第1・2紙後補(平安)	471
						7,866	575	14	195	17	なし		472
						8,837	425	21	205	19	なし		473
						8,196	561	22	199/195	18/17	(別筆・裏表紙見返裏貼付)壽永元年七月晦日依焼失書次了/廻向无上大菩薩(別筆・第23紙紙背貼付)四百ノ七	第1紙後補(平安)、第22紙上に巻尾5行分・尾題を書写して貼付(室町)	474
						7,879	560	15	197	17	なし		475
						8,102	(479/527)	16	201	18	なし		476
						8,455	525	17	203	18	(別筆)一交了		477
						9,041	515	18	193	17	なし		478
						8,389	532	18	200	17	(別筆)一交了		479
						8,456	525	17	196	17	なし		480
						8,119	448	19	208	18	なし	第11紙1行後補(鎌倉)	481
						8,423	442	21	211	18	なし		482
						9,164	442	21	210	18	なし		483
86	357					8,647	443	25	210	18	なし		484
						9,292	(457/440)	21	212	18	なし		485
44						9,140	(448)	25	210	18	なし		486



第25 紙長	第26 紙長	第27 紙長	第28 紙長	第29 紙長	第30 紙長	全長	紙長最頻値	紙数	罫高	罫幅	奥書など	備考	巻次
						8,965	453	21	211	18	なし		487
143	253	237	105			9,213	484	28	211	17	なし		488
277						8,013	407	25	199	17	(同筆)永仁二年(甲午)二月廿二日 書寫之畢 初者賢祐/終者肥前房	寄合書、第21紙末1行大半欠失	489
						7,668	419	20	200	17	なし		490
						7,803	557	15	194	16	なし		491
						7,817	530	16	201/202	-/18	(別筆)一交了	第1紙～第13紙後補(鎌倉)、縦無界	492
						7,188	527	14	292	—	なし	縦無界	493
						7,633	555	14	196	17	(同筆)右京六條四坊上毛野君伊賀 麻呂 (別筆・紙背)五ノ十		494
						8,757	388	23	205	19	なし		495
						8,400	521	17	194	17	(同筆)右京六條四坊上毛野君伊賀 麻呂寫		496
						8,333	518	17	196	17	(同筆)右京六條四坊上毛野君伊賀 麻呂寫 (別筆・紙背)五ノ十		497
						8,855	516	19	206	19	(紙背別筆)五ノ十		498
						8,986	392	23	203	19	(同筆)于皆応永廿九年閏十月廿二 日 書之 右筆宗碩		499
						8,705	513	18	202	18	(別筆)一交了 (別筆・紙背)五ノ十		500
						8,519	430	20	206	19	なし	一日堂一切經朱印(4顆)	501
						9,259	469	20	204	18	なし	一日堂一切經朱印(4顆)、(裏表 紙打付)大般若經卷第一百五十一	502
						9,101	487	19	207	18	(別筆)非小緣哀哉悲哉如夢世間雖 趨了節 (同筆・裏表紙折込内)一校 了	一日堂一切經朱印(4顆)	503
						9,279	470	20	206	18	なし	一日堂一切經朱印(4顆)	504
						9,207	467	20	206	18	なし	一日堂一切經朱印(4顆)	505
						8,905	469	20	206	18	なし	一日堂一切經朱印(5顆)	506
						9,156	436	22	208	18	なし	一日堂一切經朱印(4顆)	507
						9,064	471	20	205	18	なし	一日堂一切經朱印(4顆)	508
						10,641	471	24	206	18	(別筆)南無釈迦牟尼佛/南無阿弥陀 佛 建永元年五月廿日/二校了/奉讀 誦佛弟子等 敬白	一日堂一切經朱印(4顆)	509
						8,579	471	19	206	18	(別筆)大般若波羅蜜多經卷五百一 十/南无尺迦牟尼佛 南無尺迦牟尼 佛	一日堂一切經朱印(3顆)	510
386						9,698	388	25	205	19	なし	紙継上書写	511
271						9,608	393	25	205	19	(同筆・裏表紙折込)弘和二年八月三 日書寫畢執筆慶然	紙継上書写	512
390	218					9,797	390	26	205	19	(同筆)弘和二季八月六日書寫畢執 筆慶然/願以此功德普及於一切 我 等与衆生/皆共成仏道	紙継上書写	513
						8,791	478	19	208	18	なし	表紙別巻転用	514
						9,792	495	20	206	19	なし		515
						9,237	516	19	206	19	なし	第1紙後補(書き直し)、尾題修正 (別筆)	516
						8,961	518	18	206	18	なし		517
233						9,357	391	25	205	19	(同筆)弘和二年(壬戌)八月十一日 於高野山報恩院/書寫之畢 金剛佛 子阿吽(八九)/願主阿闍梨管實	紙継上書写	518
						8,988	(538/476)	18	206	18	なし	寄合書、裏表紙別巻転用	519
						9,257	(457/425)	22	212	17	なし	一日堂一切經朱印(2顆)	520
						10,452	443	24	213	19	なし	一日堂一切經朱印(3顆)	521
410	483	421	420	404	277	9,385	(449)	30	196	18	なし	一日堂一切經朱印(3顆)	522
70						9,789	392	25	205	18	なし		523
						9,214	(618/437)	19	206	18	なし	一日堂一切經朱印(2顆)	524
						10,182	485	22	208	19	なし	一日堂一切經朱印(2顆)	525
						10,016	(532/495)	21	205/208	20	なし	一日堂一切經朱印(2顆)、第1～9 紙後補(平安)	526
						9,174	450	21	211	19	(別筆・裏表紙)大般若經卷第八十一	一日堂一切經朱印(3顆)、(裏表 紙打付)大般若經卷第八十一	527
						9,597	495	20	207	20	なし	一日堂一切經朱印(3顆)	528
						8,407	508	19	198	18	(別筆)至徳貳(乙丑)六月 日 加修 理畢 願主禪日	第17・18紙後補(南北朝)	529
						8,444	(362/513)	20	198	18	なし	第3・6紙後補(室町)	530
						8,638	511	18	198	19	なし		531
						10,073	461	22	209	21	(同筆)[擦消][維天平十五□□□□ 末五□十一日佛弟子藤□女□/首和 南十方諸佛□□菩薩諸□□□□□ 孝/誠多爽怙恃□□四節有違踐之期 千載无重/□之□□□□□□□□感 □□□親魂路敬/□一切□□□□□以 □□□□德)	一日堂一切經朱印(3顆)	532
						8,448	507	17	198	18	(別筆)此經依散失自高野山大楽院 百卷奉/施入由也此御經之秘計當庄 坂本住人/宗達管實奉施入之所也/ 正平十八年十月十日 管實		533

卷次	年代	紙色	紙高	第1紙長	第2紙長	第3紙長	第4紙長	第5紙長	第6紙長	第7紙長	第8紙長	第9紙長	第10紙長	第11紙長	第12紙長	第13紙長	第14紙長	第15紙長	第16紙長	第17紙長	第18紙長	第19紙長	第20紙長	第21紙長	第22紙長	第23紙長	第24紙長	
487	鎌倉	薄黄	247	429	447	422	452	450	453	452	459	451	450	453	454	453	451	451	420	423	416	400	416	163				
488	鎌倉	薄黄	246	436	480	480	484	438	43	483	484	484	459	18	418	398	70	388	22	390	19	416	417	418	413	410	407	
489	鎌倉	薄黄	246	392	400	179	18	204	350	15	96	407	410	409	410	408	410	411	409	412	407	407	409	101	280	405	387	
490	鎌倉	薄黄	235	347	420	256	138	420	417	413	399	419	419	421	418	414	418	417	419	411	414	411	277					
491	奈良	黄	246	453	551	557	561	558	557	557	558	555	555	556	558	552	553	122										
492	平安	薄黄	247	458	532	530	525	533	530	528	527	526	530	527	530	530	244	530	237									
493	鎌倉	薄黄	246	464	527	527	527	527	526	522	511	536	527	534	531	535	394											
494	奈良	黄	247	521	555	556	553	555	552	554	554	555	553	553	552	552	468											
495	南北朝	薄黄	246	384	384	393	391	389	388	392	391	389	390	390	388	385	386	386	388	388	388	390	388	389	386	214		
496	奈良	黄	245	489	518	521	520	521	521	521	521	519	522	522	520	521	517	521	519	107								
497	奈良	黄	247	479	516	518	515	514	513	517	514	519	518	513	516	518	512	517	511	123								
498	平安	黄	247	470	514	516	516	513	516	487	25	518	518	510	523	507	514	512	520	509	513	154						
499	室町	薄黄	244	399	385	394	394	395	384	392	392	392	392	391	391	393	392	390	389	389	389	390	393	391	389	380		
500	平安	薄黄	248	482	516	512	513	513	510	510	512	514	515	515	513	515	510	509	500	468	78							
501	平安	濃黄	247	396	431	430	430	430	430	431	431	430	430	430	430	431	430	429	428	429	430	435	378					
502	平安	濃黄	247	438	469	469	469	468	468	468	470	472	472	472	469	470	464	468	472	470	469	465	377					
503	平安	濃黄	247	450	488	487	488	489	490	487	486	488	487	488	487	484	489	482	487	474	446	424						
504	平安	濃黄	244	429	474	463	470	466	470	472	472	472	469	472	470	469	469	473	473	474	470	469	383					
505	平安	濃黄	246	437	467	471	468	467	471	465	464	467	469	464	468	468	469	469	465	472	460	470	356					
506	平安	濃黄	245	442	474	471	469	470	473	468	469	472	466	467	465	467	468	467	463	462	462	469	41					
507	平安	濃黄	246	391	433	438	439	435	436	436	434	434	435	435	437	436	436	434	435	436	436	436	431	437	56			
508	平安	濃黄	248	438	470	471	470	471	473	470	471	470	471	469	470	471	471	473	471	471	471	471	452	170				
509	平安	濃黄	249	430	471	471	470	471	472	468	472	470	473	471	471	471	471	470	455	420	440	440	441	440	440	438	105	
510	平安	濃黄	245	432	470	468	469	471	468	467	470	469	471	471	471	469	469	471	470	470	468	165						
511	南北朝	薄黄	249	380	391	387	388	389	388	388	389	388	387	388	392	388	387	391	392	390	391	389	391	393	392	389	364	
512	南北朝	薄黄	246	380	387	391	393	388	393	388	393	391	383	388	391	392	393	391	393	391	393	389	384	393	390	392	370	
513	南北朝	薄黄	246	381	385	385	389	390	391	389	384	387	386	388	389	391	391	390	390	391	377	388	383	389	385	390	280	
514	平安	黄	236	365	480	481	481	480	483	481	482	474	478	478	479	478	478	478	478	477	476	284						
515	平安	薄黄	240	477	491	497	494	496	494	495	492	498	495	495	493	496	492	495	594	495	597	491	215					
516	平安	薄黄	246	168	333	514	512	516	516	515	517	513	513	516	517	516	516	515	515	518	515	492						
517	平安	薄黄	239	467	477	440	515	480	475	518	493	533	516	513	514	514	516	518	517	513	442							
518	南北朝	黄	247	364	387	388	385	384	388	385	394	390	390	393	391	391	390	305	387	327	390	391	395	391	391	376	351	
519	平安	薄黄	237	519	540	538	539	538	537	539	468	479	476	474	482	475	475	474	482	477	476							
520	平安	黄	248	413	455	455	458	458	457	457	457	426	425	425	426	426	425	424	422	423	424	425	425	425	126			
521	平安	黄	245	403	443	449	447	448	449	443	444	441	442	435	440	442	440	439	443	442	443	441	438	416	415	475	334	
522	平安	薄黄	244	443	475	474	442	307	133	445	447	448	441	450	348	92	320	131	162	177	376	38	52	335	18	106	310	
523	南北朝	薄黄	248	514	518	517	512	517	391	391	392	392	391	391	392	390	392	392	391	391	392	354	389	395	135	392	388	
524	平安	薄黄	245	601	612	615	618	618	618	620	438	437	437	438	441	440	438	437	440	436	441	89						
525	平安	黄	248	475	481	481	485	481	485	485	485	486	484	480	485	486	488	485	485	484	485	447	452	485	92			
526	平安	黄	246	495	532	531	531	532	535	537	492	39	497	495	490	491	495	498	496	496	497	495	472	370				
527	平安	黄	249	412	450	450	452	450	450	448	451	450	447	449	450	454	462	462	450	465	467	467	466	122				
528	平安	黄	245	471	495	497	497	495	496	497	490	496	495	496	493	493	495	495	495	495	494	491	221					
529	平安	黄	247	474	505	512	510	508	505	507	503	506	508	509	509	508	508	505	178	495	117	40						
530	平安	黄	243	472	362	246	400	362	269	386	513	511	509	510	488	18	514	506	508	512	513	537	308					
531	平安	黄	244	468	507	507	508	507	508	511	511	513	513	513	513	511	504	511	508	447	78							
532	平安	黄	247	421	462	461	463	461	461	461	461	461	460	460	461	461	461	460	458	458	437	485	500	506	354			
533	平安	黄	246	473	507	507	507	506	511	508	507	508	509	508	508	510	509	506	504	360								

第25 紙長	第26 紙長	第27 紙長	第28 紙長	第29 紙長	第30 紙長	全長	紙長最頻値	紙数	罫高	罫幅	奥書など	備考	巻次
						8,955	452	22	209	20	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	534
						9,164	463	20	214	20	(別筆)南無天恩教主釋迦牟尼如来 (別筆・巻末別紙貼継)奉施入 僧篋實	一日堂一切経朱印(3顆)	535
						8,877	518	21	205	19	(同筆)弘和二年(壬戌)八月廿八日 於高野山報恩院書寫畢/金剛佛子阿 吽春秋八九/願主當庄坂本村飯盛産 子女/為二親聖畫成果円満也		536
131	303					8,295	(391/511)	26	198	18	なし	1~8・25~26紙後補(室町)	537
						8,375	470	19	213	18	(同筆)大般若経奉讀誦功德/致以不 稱計(別筆)南无尺迦牟尼仏	一日堂一切経朱印(3顆)	538
						8,707	465	19	214	19	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	539
						9,581	478	21	209	20	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	540
						9,109	488	19	198	18	なし		541
						8,363	493	17	206	18	なし		542
						8,430	480	18	204	18	なし		543
						8,447	(498/517)	19	205	17	なし		544
						8,446	450	19	203	18	なし		545
						9,452	492	20	206	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	546
						8,660	500	19	205	18	なし	首題下「贊」字	547
390	139					9,445	390	26	204	20	なし		548
268						9,417	387	25	205	19	なし		549
						9,875	515	20	210	19	(別筆)一校了	裏表紙別巻表紙を転用	550
						7,363	401	19	204	-	(別筆)于時觀應三年九月廿五日加 修理畢/聞是	縦無界、紙継上書写	551
						8,146	465	18	198	17	なし		552
						9,113	507	18	192	19	なし		553
						10,651	498	22	202	18	(同筆)一校了	一部紙継上書写	554
						8,880	493	19	202	18	なし		555
						10,505	498	22	206	18	なし	寄合書	556
						8,429	(513/503)	20	208	18	なし		557
						9,390	516	19	193	19	なし		558
						9,469	(518/393)	22	203	19	(同筆)弘和二年九月四日書寫畢/為 心中所願決定圓滿乃至/法界平等利 益也 願主黒江郷覺阿	紙継上書写	559
						8,952	508	18	193	19	なし		560
						8,061	521	16	202	17	なし		561
						7,793	510	17	196	17	なし	第1紙後補(平安)	562
						7,981	489	17	202	18	(別筆)交了		563
						7,766	488	16	205	18	なし	一部紙継上書写	564
						7,762	510	17	194	17	なし	第1紙後補(平安)	565
						7,510	508	15	198	18	なし		566
						9,060	395	24	203	20	なし	紙継上書写	567
						8,461	487	21	205	18	なし	第1~3紙後補(室町)、一部紙継 上書写	568
						9,141	527	18	199	19	なし	寄合書、一部補筆(なぞり書)	569
						8,802	(517/388)	21	205	19	なし	紙継上書写	570
						8,026	408	21	199	17	なし	紙継上書写、寄合書	571
						7,675	425	19	200	19	なし	紙継上書写、寄合書	572
						8,031	408	23	198	17	なし	紙継上書写、寄合書	573
						8,030	503	16	196	18	なし		574
						7,850	541	15	203	18	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	575
						7,911	465	18	209	18	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	576
						9,532	481	20	209	18	なし	一日堂一切経朱印(3顆)	577
						7,196	423	18	200	17	(別筆・見返)伍百之中 やかけ語ベニ /理趣分シ之御ン經御座候、(別筆・ 見返前)(十六善神名・十六善神呪 を貼加(昭和48年か))	第15~16紙間6行分欠、紙継上 書写、寄合書、打付外題(題箋欠 失)	578
						9,078	498	19	210	19	なし	一日堂一切経朱印(5顆)	579
						8,034	510	18	204	18	なし		580
						8,396	396	22	206	18	なし		581
						8,540	510	17	199	17	なし		582
						8,186	387	22	205	18	なし		583
						7,374	498	15	195	17	(別巻奥書裏表紙見返貼付)書寫之 畢 金剛佛子阿吽/勸進聖阿闍梨篋 實		584
						7,633	509	15	197	17	なし		585
						6,888	508	14	195	17	なし		586
						7,547	515	15	195	17	なし		587
						8,151	507	17	219	19	(別筆)一校了		588
						9,089	(518/392)	21	204	19	(同筆)弘和二年(壬戌)九月六日於 高野山報恩院書寫畢/金剛佛子阿吽		589
						8,659	(515/390)	22	205	19	なし		590
						7,636	376	21	209	17	なし		591
						8,216	493	17	207	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	592
						8,586	380	24	209	18	(別巻奥書貼付)武州村笠如意輪寺 住僧良圓房/雖為悪筆末代書寫畢		593
272						8,570	361	25	194	15	なし		594
						8,902	400	23	209	18	なし	破損部補写(江戸)	595



第25 紙長	第26 紙長	第27 紙長	第28 紙長	第29 紙長	第30 紙長	全長	紙長最頻値	紙数	罫高	罫幅	奥書など	備考	巻次
94						9,126	378	25	208	18	なし		596
						8,923	380	24	210	18	なし		597
						9,187	465	20	201	18	なし	一日堂一切経朱印(4顆)	598
						9,611	538	18	207	18	(別筆・尾題下)一日堂佛阿弥陀/消滅生口之重罪/大般若/又除滅十悪五逆/无間罪行/南無阿弥陀仏	一日堂一切経朱印(4顆)	599
						7,389	560	14	202	18	(別筆)此之經ハ應永廿九年(壬寅)卯月八日ニ始同十月中ニ[願主梁永[	一日堂一切経朱印(3顆)	600

卷次	年代	紙色	紙高	第1紙長	第2紙長	第3紙長	第4紙長	第5紙長	第6紙長	第7紙長	第8紙長	第9紙長	第10紙長	第11紙長	第12紙長	第13紙長	第14紙長	第15紙長	第16紙長	第17紙長	第18紙長	第19紙長	第20紙長	第21紙長	第22紙長	第23紙長	第24紙長
596	室町	薄黄	247	359	379	377	377	376	376	380	376	375	376	378	378	378	377	378	378	374	378	377	377	377	379	378	374
597	室町	薄黄	246	363	380	383	381	380	378	380	377	381	380	379	379	374	374	373	382	377	377	381	382	370	370	369	253
598	平安	薄黄	245	433	465	467	467	462	468	468	465	464	464	465	465	466	460	464	465	464	465	465	385				
599	平安	薄黄	247	520	538	538	538	540	539	536	543	547	545	545	543	543	543	545	538	542	428						
600	平安	薄黄	243	537	560	560	559	555	513	582	592	564	563	562	558	552	132										

執筆者

坂本亮太	和歌山県立博物館
竹中康彦	和歌山県立博物館
本郷真紹	立命館大学文学部
山口英男	東京大学史料編纂所

---

小川八幡神社大般若経 調査概報 2019-2021

(東京大学史料編纂所研究成果報告書 2021-13)

2022 (令和 4) 年 3 月 25 日

編者 山口英男 (研究代表)

発行者 東京大学史料編纂所

特定共同研究「小川八幡神社大般若経の文化資源化研究」

東京都文京区本郷 7-3-1 <https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/>

印刷 藤原印刷株式会社

小川八幡神社大般若經 調査概報 2019-2021  
(東京大学史料編纂所研究成果報告書 2021-13)



小川八幡神社大般若經 調査概報 2019-2021  
(東京大学史料編纂所研究成果報告書 2021-13)